

14.24
342



始



1421
342

大正三年八月

蔬菜試驗成績
第三報

茨城縣立農事試驗場

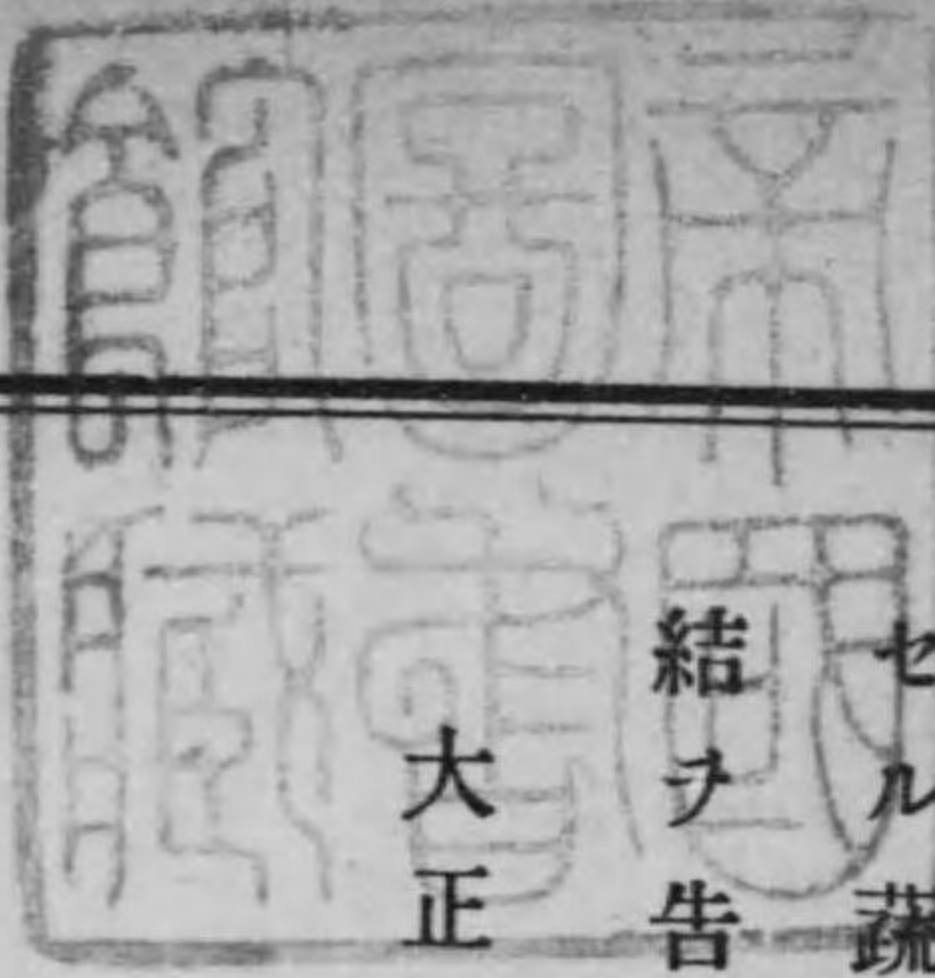
緒言

本報ハ大正元年度及二年度當場細谷試験地ニ於テ施行
セル蔬菜試験成績ノ主要ナルモノ及ビ繼續試験中ノ完
結ヲ告ゲタルモノヲ摘録輯載ス

大正三年八月

茨城縣立農事試験場

大正
3. 9. 12
内交



例言

- 一、本報記載セル各試験ノ耕種梗概ハ其部ノ初メニ特種ノ事項ハ之ヲ施行シタル試験ノ項目中ニ記入セリ。
- 一、試験ノ完結シタルモノニハ説明ヲ附シ否ラザルモノニハ説明ヲ省クカ或ハ之ヲ附スルモ決定ヲ與ヘザルコトセリ。
- 一、各試験ニ於ケル播種量施肥量及ビ收量等ハ總ベテ是ヲ一畝歩ニ改算記入セリ。
- 一、各試験ニ供用シタル肥料ノ種類及ビ含有三成分並ニ其市價等ハ次表ノ如シ但シ肥料市價ハ時々多少ノ變動アリシト雖モ概略平均價ヲ示セリ。

肥料名	十貫目市價	窒素	磷	鉀	要加素
堆肥	0.100	0.056	0.010	0.010	0.050
人糞	0.100	0.057	0.013	0.017	0.037
大豆粕	2.100	0.400	0.150	0.100	0.100
菜種油粕	2.650	0.505	0.200	0.130	0.130
米糠	1.500	0.108	0.036	0.036	0.130
硫酸安母尼亞	6.500	2.000	—	—	—

智利硝石
硫酸加里
精過磷酸石灰
石素
石灰
木灰
葉灰
蘆粉
荒粉
骨粉

五、五〇〇	一、五五〇	—	—	—	—	—	—	—
四、一〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
一、三〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
五、〇〇〇	一、二〇〇	—	—	—	—	—	—	—
〇、二〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
〇、五五〇	—	—	—	—	—	—	—	—
〇、三〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
五、一〇〇	〇、九七〇	—	—	—	—	—	—	—
三、四〇〇	〇、七一〇	—	—	—	—	—	—	—
三、三〇〇	〇、三七〇	—	—	—	—	—	—	—

蔬菜試驗成績第三報目次

一、細谷試驗地狀況一班	一
一、茄子耕種梗概	二
一、品種試驗	五
二、剪枝試驗	八
三、肥料配合法試驗	〇
一、蕃茄耕種梗概	一
一、品種試驗	三
二、整枝法試驗	四
一、胡瓜耕種梗概	一
一、品種試驗	八
二、整枝法試驗	七
三、肥料配合法試驗	四
一、甜瓜耕種梗概	二
一、品種試驗	八
一、南瓜耕種梗概	二

一、品種試驗.....	三三丁
二、肥料配合法試驗.....	三六丁
一、西瓜耕種梗概.....	三九丁
一、品種試驗.....	四〇丁
一、菜豆耕種梗概.....	四二丁
一、品種試驗.....	四四丁
一、甘藍耕種梗概.....	四七丁
一、品種試驗(秋播).....	四九丁
二、假植回數試驗.....	五二丁
三、定植期試驗.....	五三丁
四、磷酸成分增減試驗.....	五四丁
五、春播甘藍品種試驗.....	五七丁
一、塘蒿耕種梗概.....	五八丁
一、瓜哇薯耕種梗概.....	五九丁
一、品種試驗.....	六〇丁
二、除蘗試驗.....	六四丁
一、牛蒡耕種梗概.....	六四丁

一、品種試驗.....	六六丁
一、薑耕種梗概.....	六八丁
一、里芋耕種梗概.....	六九丁
一、品種試驗.....	七〇丁
二、種芋栽植法試驗.....	七三丁
三、直植對移植試驗.....	七四丁
一、玉蜀黍耕種梗概.....	七五丁
一、品種試驗.....	七六丁
一、落花生耕種梗概.....	七七丁
一、品種試驗.....	七九丁
一、葱耕種梗概.....	八〇丁
一、品種試驗.....	八二丁
二、株間廣狹對栽植本數試驗.....	八五丁
三、剪根試驗.....	八六丁
一、胡蘿蔔耕種梗概.....	八七丁
一、品種試驗.....	八八丁
二、窒素成分增減試驗.....	九二丁

- 一、蘿蔔耕種梗概.....九四丁
- 一、品種試驗.....九五丁
- 二、下葉摘除試驗.....〇一丁
- 三、煮食用蘿蔔一要素多量試驗.....〇二丁
- 四、澤庵用蘿蔔肥料配合法試驗.....〇四丁
- 一、燕菁耕種梗概.....〇七丁
- 一、品種試驗.....〇八丁
- 二、播土試驗.....一一丁
- 三、一要素多量試驗.....一二丁
- 一、苾菜耕種梗概.....一四丁
- 一、品種試驗.....一五丁
- 一、結球白菜耕種梗概.....一八丁
- 一、品種試驗.....一九丁
- 二、追肥回數對施肥期試驗.....二三丁
- 三、直播對移植試驗.....二四丁
- 四、肥料配合法試驗.....二五丁
- 五、病害豫防法試驗.....二八丁

- 一、菠菜草耕種梗概.....二九丁
- 一、品種試驗.....三〇丁
- 一、蠶豆耕種梗概.....三二丁
- 一、品種試驗.....三三丁
- 一、苺耕種梗概.....三四丁
- 一、品種試驗.....三六丁

蔬菜試驗成績第三報

細谷試驗地狀況一斑

一、位置及沿革 當試驗地ハ明治四十五年六月ノ創設ニ拘リ水戸市下市本九丁目ヲ距ルコト約四丁ノ地點ヲ水戸市下市領内細谷ニ在リテ東茨城郡上大野村大字吉沼領内ニ隣接水戸市ノ東南ニ位シ東北方ハ常磐線鐵路ニ沿ヒ全線那珂川鐵橋ト目睫ノ間ニ迫リ那珂郡勝田村トハ那珂川ヲ隔テ、一葦帶水ノ位置ニアル一帶ノ地ニシテ土質良好ナルモ此地元粗放ニ穀菽類ヲ栽培セシ所ナルヲ以テ地力衰耗セルヲ明治四十四年春季此處ニ當場果樹試驗地(約二反步)ヲ設置セシヲ端緒トシ越ヘテ翌年此レニ隣ル一帶ノ地一町步ヲ相シテ蔬菜試驗地ニ充テ專ラ蔬菜ニ關スル各種ノ試驗試作及ビ花卉類ノ試作ヲ行フニ供センタメ全年六月下旬ヲ以テ區劃整理ニ着手シ七月以降播種又ハ栽植セシ蔬菜ハ主トシテ此試驗地ニ於テ栽培ヲ開始セント雖モ其レ以前即チ全年春ヨリ栽培ヲ要シタリシモノハ概シテ本場ニ於テ培養セシモノナレバ本報記載スル所ノ明治四十五年ハ大正元年度ニ成績ハ本場及ビ當試驗地兩所ニ跨リテ試驗セシモノナリ

二、地勢及土質 當試驗地一帶ハ土地平坦開豁ニシテ丘陵森林等ノ障礙物無ク通風自在加フルニ試驗地ニ連接セル圃地一群ハ水田ニ圍繞セラレ、ヲ以テ地勢稍々低濕ノ感ナキニアラズ從テ促成栽培ニハ稍々不利ノ位置ニアリト雖モ空氣日光ノ流通自由ニシテ比較的病蟲被害尠ク加之土質ハ那珂川沿岸沖積地ノ砂質壤土ナルヲ以テ蔬菜栽培地トシテハ稀ニ見ル所ノ適地タリ唯水田ニ接近セルノ故ヲ以テ比較的蝮蝨ノ發生夥シク之ガ被害不尠ト雖モ鋤鉞ヲ加フルコト彌々頻繁ナルニ伴ヒ數年ナラズシテ自然該蟲ノ撲滅ヲ見ルコトヲ得ベシ而シテ場内ヲ橫斷セル一小水田用水ニヨリ土質全ク一變セ

リ便チ其一ハ地勢稍々高燥ニシテ排水良ク土質ハ壤土又ハ砂質壤土ナルヲ以テ諸種ノ根菜及ビ鹹果類ノ栽培ニ宜シク他ノ一半ハ地勢前者ヨリ稍々低濕ニシテ且ツ土性粘質ヲ帶ブルニヨリ甘藍、結球白菜其他葉菜類ノ栽培ニ適シ僅々一町歩ノ地積内ニ於テ凡百ノ佳蔬良菜ヲ網羅培養シ得ルノ便アリ唯惜ムラクハ多年農家ノ手ニヨリテ極メテ粗放ニ耕作セラレタルヲ以テ肥料分ノ缺乏ヲ訴フルコト著シク最初數年間ハ大ニ苦心ヲ要センモ他日此等要素ノ完備スル曉ニハ實ニ適良ナル耕地トナルヤ必セリ

● 茄子

耕種梗概

一、苗床ノ構成 南面温暖ノ場所ニシテ且ツ排水良好ナル地ヲ相シテ西北ノ二面ヲ高サ九尺ノ菜園ヲ造リ以テ寒風ヲ避クルノ用ニ供シ此園内ニ東西十二尺南北四尺ノ地ヲ劃シテ深サ一尺二三寸餘ニ掘リ下ダ底ノ周縁ヲ中央部ヨリ四五寸低ク所謂蒲鋒形トナシテ之ニ硝子障子付木框ヲ据エ付ケ醸熱物ヲ踏ミ込ム裝置ニナセリ

木框ノ構造ハ幅四尺長サ十二尺前部一尺後部一尺七寸ノ高サヲ有シ側面之ニ準スルモノニシテ框ノ四隅及ビ前後側ノ中央ニ各二寸角ノ脚ヲ附シ其上縁三尺毎ニ一寸五分角ノ用材ヲ前後ニ架シ之ニ幅三尺長サ四尺二寸餘ノ硝子障子四枚ヲ貼架スルニアリ障子ハ三尺幅ニ縱ニ二條ノ支材ヲ架シ十二枚ノ小板硝子ヲ貼用セルモノナリ

木框ノ据エ付ケ終ラバ窖中周圍ニ炭ノ空俵ヲ圍ヒ其中ニ新鮮堆肥木葉ノ類ヲ混ジタルモノヲ填入シ風呂水及ビ稀薄人糞尿ヲ注ギツ、固ク均一ニ踏ミ込ミ一尺二三寸ノ厚サニ至ラバ止メ表面ヲ平ニ均ラシ尙中熟堆肥ヲ二寸許リノ厚サニ投入シテ地均ラシ行ヒ更ニ其上ニ腐熟堆肥ト園土トヲ混ジテ

夏ヨリ堆積シ置キタルモノヲ三寸餘ノ厚サニ入レ床面ヲ均平シテ硝子障子ヲ蓋セ尙ホ菰ヲ二重位ニ蔽ヒ以テ四五日其儘ニ置キ床温一定スルヲ俟テ播種ニ着手セリ播種スルニハ豫メ床土中ニ木灰一升ヲ床面一坪位ノ割合ニ撒布シテ立枯病豫防ノ資ニ供シ床温ハ毎日午前十時午後二時ノ二回ニ寒暖計ヲ以テ觀測シタリ而シテ硝子障子上面ニハ菰ヲ蔽ヒ夜間及ビ雨天ノ温度降下ヲ阻止シ晝間晴天ニハ必ズ菰ヲ撤去シ障子ノ後方ヲ徐々ニ開キテ太陽光線ノ射入及ビ框内ノ通氣ヲ計リ專ラ苗ノ發育ヲ期シタリ

一、播種期 三月十日

一、播種量 一畝當八才

一、床ノ坪數 八才ノ種子ヲ約半坪ノ床面ニ播トセリ

一、選種及ビ種子豫措 水選シテ鮮黄色ヲ呈スルモノ、ミヲ用ヒ播種前一晝夜間微温湯中ニ浸シテ後充分水ヲ滴ラン木灰ヲ塗抹シテ播種ニ着手セリ

一、播種法 床温一定セシ後床面ヲ均ラシ二寸畦ニ篠ヲ以テ播條ヲ設ケ之ニ條播シ篩ニテ薄ク細土ヲ覆ヒ細孔ノ如露ニテ均一ニ微温水ヲ灌注シ更ニ藁ヲ一寸位ノ厚サニ被ヒ障子ヲ閉ヂ菰ヲ重ネテ發芽ヲ待チ催芽ノ後直ニ被藁ヲ除去セリ

一、間引及ビ假植 發芽揃後密生部及ビ不良苗ヲ間引キテ疎ニナシ其後一週間許リヲ經テ尙一回間引キテ五六分ノ株間トナセリ悉クテ本葉二枚開展ヲ始メタル頃(即チ四月六日)ニ一回同様ノ温床中ニ畦幅四五寸株間三四寸ニ一株ノ割合ニ假植ヲ行ヒタリ

一、原肥施用期 定植前(圃場整地後)五月三日既定ノ位置ニ八寸立方位ノ植孔ヲ穿チ原肥ヲ投入シ表土ト能ク攪拌シテ後孔ヲ埋メ孔ノ中心ニ竹屑又ハ木枝ヲ建テ、目標ヲ附シ置キタリ通常斯ル操作ヲ倉築(鞍築)又ハ待肥ト稱ス

一、定植期 五月廿二日

一、苗ノ選擇 定植前苗ノ葉ノ對生セルモノ、徒長セルモノ、萎縮セルモノ、病蟲害ニ犯サレタルモノヲ淘汰シテ葉ノ互生シテ丈ケ低ク強健ニシテ且ツ鬚根多キモノ、ミヲ用ヒテ栽植シタリ

一、定植法 苗床ニ多量ノ灌水ヲナシテ二三時間ヲ經タル後移植ニテ苗根ヲ損セザル様充分ノ土ヲ附着セシメテ叮嚀ニ掘リ採リ靜ニ圃地ニ搬出シ豫テ準備セル場所(倉築)ヲ築チテ眞直ニ栽植シ再ビ根際ニ灌水シテ莖際ニ立枯病豫防ノタメ一株ニ對シ約半握許リノ木灰ヲ撒布シ更ニ糶殻ヲ根邊ニ圓ク敷キテ土地ノ乾燥ト降雨中泥土ノ葉裏ニ附着スラル防グ用ニ供シ東西兩側ニ樹枝ヲ建テ、日陰ヲ與ヘタリ恁クテ活着ノ後直ニ日陰ヲ撤去セリ

一、畦幅及ビ株間 三尺畦、二尺株間

一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	追肥					窒素	磷酸	加里
		一回	二回	三回	四回	五回			
堆肥	40,000		15,000				0,643		
大豆粕	1,800		0,600				0,370		
人糞	50,000		9,000				0,635		
精過磷酸石灰	0,200		0,100					1,960	
木灰	2,000								10,000

一、追肥 六月十二日、六月三十日、七月十四日、八月七日、九月五日

一、中耕 六月十二日、六月三十日、七月十四日

一、其他ノ手入 培養中ハ間斷ナク雜草ノ除去ニ努メ夏季ハ枯草又ハ麥稈類ヲ畦上ニ敷キテ乾燥ヲ

一、品種試驗

防ギ又風害豫防ノタメ一株ニ二三本ノ小竹ヲ建テ、其動搖ヲ阻止シ尙ホ最下枝二本許リヲ剪除シテ光氣ノ透過ヲ計リ蚜蟲其他ノ病蟲害豫防驅除ハ怠ラズ行ヒタリ

一、收穫 初成ハ顆ノ尙小ナル際缺ニテ叮嚀ニ附元ヨリ切り採リ生育ノ進ムニ隨ヒ漸次肥大ナラシメテ採收セリ

目的 汎ク各品種ヲ蒐集栽培シ其生育狀態、收量及ビ品質等ヲ比較對照シ以テ本縣ノ風土ニ適合スル良種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地	區名	品種名	原產地
第一	早生蔓細千成	東京	第六	巾着	大阪
第二	東京中生山茄子	全	第七	晚生丸茄子	東京
第三	佐士原	宮崎	第八	清國大丸茄子	清國
第四	札幌丸茄子	札幌	第九	春竹	熊本
第五	東京晚生山茄子	東京	第十	ばいびす ぶらつくびゆて	米國

一、生育狀況 明治四十五年ニハ七月廿日ノ降雹ニ多少新梢ヲ折損セラレ大正元年九月廿三日ノ暴風ニ不鈔被害ヲ受ケタリ、大正二年度ニハ螻蛄ノ蝕害ヲ蒙ルコト甚シクタメニ六月三日悉ク他圃ニ植ヘ換フルノ已ムヲ得ザル事情ニ陥リタルニツキ苗ノ發育ニ支障ヲ來シ又全年八月廿七日ノ暴風雨ニハ梢ヲ折ラレ或ハ株ノ倒伏セシモノアリシヲ以テ應急ノ手入ヲ施シタルモ全年ノ收量ニ著シキ減

耗ヲ來シタリ尙ホ其發育經過ヲ左ニ表示スベシ

區名	品種名	大正元年度		大正二年度	
		播種期	發芽始	播種期	發芽始
第一	早生蔓細千成	三月十七日	三月廿五日	三月十九日	三月廿七日
第二	東京中生山茄子	全	全廿六日	全	三月廿二日
第三	佐土原	全	全	全	三月廿二日
第四	札幌丸茄子	全	全廿七日	全	三月廿二日
第五	東京晚生山茄子	全	全廿六日	全	三月廿二日
第六	巾着	全	全廿七日	全	三月廿二日
第七	晚生丸茄子	全	全廿七日	全	三月廿二日
第八	清國大丸茄子	全	全廿七日	全	三月廿二日
第九	春	全廿四日	調不	全	三月廿二日
第十	ばらつくびゆて	全十七日	三月廿四日	全十四日	三月廿二日

一、收量 (一畝當)

區名	品種名	大正元年度		大正二年度		平均收量	試驗年數
		總個數	總重量	總個數	總重量		
第一	早生蔓細千成	七,九〇八	八六,一四八	二二,四二〇	五三,五七〇	二二	二
第二	東京中生山茄子	八,五〇〇	一〇〇,二九六	二二,三八〇	六〇,八二六	二二	二
第三	佐土原	七,七〇四	九七,五〇〇	二二,三六五	四七,三七六	二二	二
第四	札幌丸茄子	五,二六〇	五四,八〇〇	一〇,三七八	四五,〇〇〇	二二	二
第五	東京晚生山茄子	七,七四〇	一〇二,五五六	一四,〇七六	五四,一四〇	二二	二
第六	巾着	五,三七六	一〇五,〇六〇	二〇,一六五	五三,三五八	二二	二
第七	晚生丸茄子	五,二〇八	九八,九四〇	一九,二四〇	七四,一四四	二二	二
第八	清國大丸茄子	五,五九二	九七,一四〇	二七,一九八	七六,六七五	二二	二
第九	春	四,四五二	一一,五五〇	二五,二〇六	六九,七六五	二二	二
第十	ばらつくびゆて	一,二七二	八二,四六六	一	一	二二	二

一、特性

區名	品種名	熟期	花色	葉ノ大	小及色	顆部	顆部	部	品質	用途	性質
第一	早生蔓細千成	甚早	淡紫	小	黑綠	少	少	小	上	食用及煮	強
第二	東京中生山茄子	早	淡紫	中	黑綠	全	全	中	全	食用及煮	強
第三	佐土原	中	淡紫	大	黑綠	全	全	中	全	食用及煮	強
第四	札幌丸茄子	全	淡紫	大	黑綠	少	少	小	中	食用及煮	強
第五	東京晚生山茄子	全	淡紫	大	黑綠	全	全	中	全	食用及煮	強
第六	巾着	全	淡紫	大	黑綠	全	全	中	全	食用及煮	強
第七	晚生丸茄子	全	淡紫	大	黑綠	全	全	中	全	食用及煮	強
第八	清國大丸茄子	全	淡紫	大	黑綠	全	全	中	全	食用及煮	強
第九	春	全	淡紫	大	黑綠	全	全	中	全	食用及煮	強
第十	ばらつくびゆて	全	淡紫	大	黑綠	全	全	中	全	食用及煮	強

備考 花色及顆色ハ土質、肥料、氣候ノ關係ニヨリ多少相異チ來スモノ、如シ

備考 右表中大正元年度ニ於ケル各品種平均一畝ノ重量少キニ失スルハ最後ニ採收セル小畝ヲ收量ニ加ヘ平均セシ故ナリ
 前表ニ依レバ二個年ノ成績ニ稍一致セザル点ナキニ非レドモ概シテ漬物兼食用種ニアリテハ東京中生山茄子、東京晩生茄子及ビ早生蔓細千成等ハ甚ダ有望ナル品種ト謂ツベク殊ニ前二種ハ最も良好ナルニ似タリ又佐土原茄子ノ如キハ栽培容易ニシテ收量少カラズト雖モ形状醜惡ニシテ加フルニ品質優等ナラザルヲ以テ良種ト言ヒ難カルベシ、煮食用種ニアリテ收量品質共ニ優ルハ晩生丸茄子及ビ清國大丸茄子ノ二種ニシテ之ニ次グハ春竹種ナリ春竹種ハ品質上等ナラザルモ性質強健且ツ收量饒多ナルノ特点アルヲ以テ先ヅ有望種ニ數フルモ不可ナカルベシ反之「ぶらつくびゆて」種ノ如キハ品質秀絶收量亦尠カラザルモ性虛弱ニシテ栽培甚ダ困難ナレバ料理用其他特ニ品質ヲ選ブ場合ノ外ハリ濫ニ栽培セザルヲ得策トスルニ似タリ又巾着茄子ハ性質強健收量多キ利益アルモ品質劣等形状不良ナルノ損失アルヲ以テ賣品トシテ良種ト認メ難キガ如シ尙ホ試験ヲ重ネテ確定セントス

一、剪枝試験

目的茄子ハ習性上根基ヨリ六七葉目ニ初花即チ元花ヲ着生シ元花ノ下部二三節ヨリ發生スル腋枝ハ結果歩合多ク是ヨリ下部ニ生ゼシモノハ結果少キガ如シ換言スレバ元花附近ノ葉腋ヨリ生ズル枝ハ他部ニ生ズルモノヨリ優良ノ生産ヲアグルニ似タリ殊ニ最下部ノ二三枝ハ纖弱ニシテ殆ンド良類ヲ生ゼザルヲ常トス仍テ本試験ニ於テハ根基ヨリ上部數枝ヲ剪枝セシモノト否ラザルモノトハ其收量ニ如何ナル軒輕アルヤ併セテ元花ノ下部ニ幾枝ヲ存セシムルヲ最良トナスヤヲ探究セントス

一、供試品種 東京中生山茄子
 一、剪枝期 六月三十日 (明治四十五年六月十四日)
 一、試験區別

區名	明治四十四年度		大正元年度		大正二年度		平均收量	試驗年數
	個數	重量	個數	重量	個數	重量		
第一	一三、二八七	七、九〇五	一四、〇八五	四、一四二	五、七〇八	八、四四四	九、八九九	三
第二	一三、〇〇四	一四、一三六	八、三三五	五、三六六	七、九一八	一〇、七六八	一〇、七六八	三
第三	—	—	八、一七五	一〇、三五〇	四、九五四	七、七六九	六、五五〇	二
第四	二二、八四四	一四、一九八	八、二〇五	一〇、七九五	五、三五四	七、七九四	八、七九四	三
第五	二一、四五三	二五、六七二	七、〇九五	九、四、五九〇	四、八〇八	六、〇三三	七、七八五	三
第六	九、〇七二	八、九二四	六、六九〇	七、五三〇	二、八三六	三、四六八	六、二〇〇	三
備考	右表第三區ノ平均收量少キハ明治四十四年度試ノ畝ヲ缺キシタメニシテ大正元、貳兩年共其收量ハ第三位ニアルヲ以テ確ニ該區ハ第一、第五、第六ノ諸區ニ劣ラザルヲ知ルニ足ルベシ							

備考 第一區ヲ除クノ外ハ甲折部ヨリ生ズル枝極ハ勿論剪去ス

一、生育狀況 概略品種試驗ニ全シ

一、收量 (一畝當)

第一、全ク剪枝セズ
 第二、下部二枝(甲折部)ノ上部以下皆之ニ做フヲ剪去ス
 第三、全上三枝ヲ剪去ス
 第四、全上四枝ヲ剪去ス
 第五、元花ノ下部ニ一枝ヲ存シテ他全部ヲ剪去ス
 第六、元花ノ下枝全体ヲ剪去ス

以上ノ成績ニヨリ案ズルニ東京中生山茄子及ビ早生蔓細千成ノ如キ多枝性ノ品種ニ對シテハ確ニ剪枝ノ効果アルモノニシテ就中下枝ヲ二乃至四枝ノ程度ニ剪去スルヲ有利トスルモノ、如シ然レドモ極

端ナル剪枝ハ生活機能ヲ妨グ却テ收量少キヲ以テ注意ヲ拂フヲ要ス而シテ全然剪枝ヲ行ハザリシモノハ其採類數ニ於テ大ナル差異ヲ認メザルモ重量ノ著シク異ナルハ畢竟下部ニ生ズル類實ハ完全ナル發育ヲ遂グル能ハザルヲ以テナルベシ加之下枝ヲ剪除セザルトキハ施肥中耕等諸般ノ作業ニ不便ヲ感ズルヲ以テ事情ノ許ス限リ剪枝スルヲ有利トス

三、肥料配合法試験

目的、配合法ヲ異ニセル諸種ノ肥料ヲ用ヒテ茄子ヲ栽培セバ其油粕ヲ主肥トセルモノト收量品質ニ如何ナル差異アルヤヲ驗知セントス

- 一、供試品種 東京中生山茄子
- 一、試験區別

第一、標準肥料區 (人糞尿區)

肥料名	用量	追肥				
		一回	二回	三回	四回	五回
堆肥	40,000		15,000			
大豆粕	1,800		0,600			
人糞尿	50,000	8,000	9,000	11,000	12,000	10,000
精過磷酸石灰	0,400	0,100	0,100			
木灰	2,000					

價加磷窒
額里酸素
一、九四〇 〇、六四五 〇、三七〇 〇、六四三

第二、大豆粕區

堆肥	40,000	25,000		15,000		
大豆粕	3,000	1,200		1,100		
人糞尿	35,000		6,000	6,000	8,000	8,000
精過磷酸石灰	0,400		0,100	0,100		
木灰	2,000					
硫酸加里	0,400		0,100			

價加磷窒
額里酸素
一、九四〇 〇、六四五 〇、三七〇 〇、六四三

第三、油粕區

堆肥	40,000	25,000		15,000		
油粕	4,100	2,500		1,700		
人糞尿	35,000		6,000	6,000	8,000	8,000
精過磷酸石灰	0,213		0,113			
木灰	2,000					
硫酸加里	0,055			0,055		

價加磷窒
額里酸素
二、三七四 〇、六四五 〇、三七〇 〇、六四三

第四、硫酸安母尼亞區

堆肥	40,000	25,000		15,000		
大豆粕	1,800	1,100		0,600		
硫酸安母尼亞	1,445		0,215	0,145	0,300	0,350
精過磷酸石灰	0,491		0,191			
木灰	3,100					

價加磷窒
額里酸素
一、九四八 〇、六四五 〇、三七〇 〇、六四三

第五、智利硝石區		第六、鯧粕區	
堆肥	四〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	
大豆粕	一,八〇〇	一,一〇〇	
智利硝石	一,八四〇		
精過磷酸石灰	〇,四九一	〇,四三〇	
木灰	三,二〇〇	二,一〇〇	
堆肥	四〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	
鯧粕	二,一〇〇	一,四〇〇	
人糞	三三,〇〇〇	六,〇〇〇	
精過磷酸石灰	〇,一三三	〇,一三三	
木灰	二,〇〇〇	二,〇〇〇	
硫酸加里	〇,一六〇	〇,一六〇	
試驗區別	第一區	第二區	第三區
個數	三,六〇〇	三,〇八〇	三,二四〇
重量	五,八〇〇	三,三〇〇	四,八〇〇
順收量	一五,〇〇〇	〇,八〇〇	一五,〇〇〇
試驗區別	第一區	第二區	第三區
個數	三,〇八〇	三,五〇〇	三,五〇〇
重量	一,一五〇	一,一五〇	一,一五〇
順收量	〇,六四三	〇,三七〇	〇,六四三
試驗區別	第一區	第二區	第三區
個數	三,〇八〇	三,五〇〇	三,五〇〇
重量	一,一五〇	一,一五〇	一,一五〇
順收量	〇,六四三	〇,三七〇	〇,六四三

蕃茄

耕種梗概

- 苗床ノ構造 茄子ニ全シ
- 播種期 三月二十日
- 播種量 一畝當一匁
- 床ノ坪數 一合ノ種子ヲ約三坪ノ面積ニ播種セリ
- 播種法 茄子ニ全シ
- 間引及假植 發芽揃後密生部及ビ不良苗ヲ間引キテ疎ニナシ其後四五日ヲ經テ尙ホ一回間引ヲ行ヒテ六七分ノ株間ヲ與ヘタリ斯クテ約一週日ノ後ニ至リ温床中ニ五寸畦ニ三寸五分株間トシテ一回假植ヲ行ヘリ
- 待肥 定植一週日前即チ五月九日ニ豫メ本圃所定ノ位置ニ原肥ヲ施用シ土ヲ覆ヒ目標ヲ附シテ定植ニ便セリ
- 定植期 五月十七日
- 定植法 茄子ニ全シ
- 畦幅 三尺
- 株間 二尺
- 肥料 (一畝當)

堆肥	三五,〇〇〇
原肥	一五,〇〇〇
追肥	一〇,〇〇〇
窒素	〇,四三三

大豆	1,500	1,000	0,500		0,250
人糞	10,000	1	8,000	11,000	0,300
精過磷酸石灰	0,500	0,000	0,200		0,300
灰	1,500	1,000	0,500		1,100
價額					1,100

一、追肥 六月十一日、六月廿三日

一、中耕 全上

一、支柱建 五月十八日一株一本宛ニ高サ五尺許リノ竹ヲ建テ、地上四尺ヲ出シ更ニ繩(亞鉛線)ヲ代用スルモ可ナリ)ヲ三段ニ張リテ風ノタメニ倒伏スルヲ防遏セリ

一、整枝法 最初摘心スルコトナク苗ヲ真直ニ誘引シテ支柱ニ緩ク縛シ高サ四尺ニ及ビ始メテ頂端ヲ摘ミ以テ其上向ヲ防ギ所謂單幹直立と云ふニ形成シ各葉腋ヨリ盛ニ發生スル腋枝ハ出ヅルニ從ヒ悉ク之ヲ摘除シ以テ專ラ主枝ノ發育及ビ果實ノ美大ヲ助ケルニ勉メタリ

一、收穫 七月下旬ヨリ順次採收セリ

一、品種試驗

目的 食卓用生果ニ供スルタメ數多ノ蕃茄品種ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及ビ品質ヲ比較對照シ以テ當縣ノ風土ニ適スル良種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品名	種名	原產地	區名	品名	種名	原產地
第一	みか	ど	米國	第二	ぼんてろ	ざ	米國

第三	まつちれす	全	第七	どわいふ、じやいあん	全
第四	くりむそんかつしよん	全	第八	にゆいあーりー、ふりーどむ	全
第五	札	米國	第九	こんびねーしよん	英國?
第六	ちやむびかん	米國	第十	てーぶるくゐん	米國

一、生育狀況 明治四十五年七月二十日降雹ノ被害ヲ受ケ新梢ノ折傷セラレシモノ少カラザリキ又大正二年八月廿七日ノ暴風雨ニ邂逅シ支柱諸共倒伏シ或ハ新梢ヲ折レ或ハ著シク幼果ヲ墜落セラレシタメ全年ノ收量ニ多大ノ影響ヲ及ボセリ尙ホ發育經過ヲ表示スレバ次ノ如シ

區名	品名	種名	大正元年				大正二年			
			播種期	發芽始	發芽揃	開花始	播種期	發芽始	發芽揃	開花始
第一	みか	ど	三月廿四日	三月廿一日	四月四日	六月五日	三月廿五日	三月廿六日	四月三日	六月十二日
第二	ぼんてろ	ざ	全	全	全	全	全	全	全	全
第三	まつちれす	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第四	くりむそんかつしよん	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第五	札	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第六	ちやむびかん	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第七	どわいふ、じやいあん	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第八	にゆいあーりー、ふりーどむ	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第九	こんびねーしよん	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第十	てーぶるくゐん	全	全	全	全	全	全	全	全	全

一、特性

區名	品名	種類	熟期	草勢	色澤	形状	大小	部	品質	一、收量 (一畝當)	
										大正元年	大正二年
第一	みかど	晩	高	朱赤	扁圓	大	多	上	強弱	個數	重量
第二	ぼんてろざ	中	全	濃紅	扁圓	中	少	中	強弱	個數	重量
第三	まつちれす	晩	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	個數	重量
第四	んりむそん、かつしよ	中	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	個數	重量
第五	札	全	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	個數	重量
第六	ちやむびおん	全	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	個數	重量
第七	ごわいふ、じやいあん	全	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	個數	重量
第八	にゆいあーりー、ふり	全	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	個數	重量
第九	いごむ	全	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	個數	重量
第十	こんびれーしよん	全	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	個數	重量
第十一	てーぶるくゐん	全	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	個數	重量

備考 顏色は土質氣候等ニタリ多少變化アルモノ、如シ

區名	品名	種類	熟期	草勢	色澤	形状	大小	部	品質	平均收量	試驗年數
第六	ちやむびおん	全	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	二、〇八五	二
第七	ごわいふ、じやいあん	全	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	一、八八五	二
第八	にゆいあーりー、ふり	全	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	五、〇八〇	二
第九	いごむ	全	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	二、四七〇	二
第十	こんびれーしよん	全	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	二、四七〇	二
第十一	てーぶるくゐん	全	全	濃紅	扁圓	中	多	上	強弱	九、四七〇	二

前表ニ依レバ札幌、こんびれーしよん、にゆいあーりーふりーどむ、ぼんてろざ等ハ收量甚ダ多クとわいふじやいあんと、くりむそんかつしよんノ如キハ收量最モ少キニ似タレドモ食卓用生果ニ供スル蕃茄ハ單ニ收量ノ多キヲ以テ貴シトスベカラズ必ズ品質ニ重キヲ置クノ要アルヤ多言ヲ俟タザル所ナルベシ而シテ此目的ニ向ツテ有望ナルハてーぶるくゐん、にゆいあーりーふりーどむ及ビみかど等の品種ニシテ就中前二種ハ最モ望ヲ囑スルニ足ルガ如シ尙ホ試験ヲ繼續シテ決定セントス

一、整枝法試驗

目的 蕃茄栽培上如何ナル整枝法ニ倚ルヲ經濟上得策トナスカヲ研知セントス

- 一、供試品種 にゆいあーりーふりーどむ
- 一、試驗區別
 - 第一、單幹直立とらぶる (一本仕立)
 - 第二、二本かんでらぶる (筭脚形)
 - 第三、ぶつしゆ (自然形)
- 一、整枝ノ方法 第一ハ耕種梗概ニ準ジ第二ハ苗ヲ中心トシテ之ヨリ兩側四五寸ヲ距テ、(合計八寸乃至一尺)支柱各二本宛建テ横繩ハ最下段地上六寸位ノ處ニ張り其上更ニ二段ニ繩ヲ張り(都合三

段) 苗ノ七寸餘ニ伸長セシ頃六寸目ニテ摘心スルニアリ然ルトキハ各葉腋ヨリ數多ノ腋芽發生スルヲ以テ其先端ノ二芽ヲ殘シ他ハ悉ク摘去シ殘セシ枝ノ伸ビルニ從テ下段ノ繩ニ沿フテ水平ニ誘引シ五寸位伸長セバ更ニ二枝ヲ上向セシメテ支柱ニ纏絡セシメ高サ四尺ニ達スレバ初メテ其頂端ヲ摘心スルコト第一ノ場合ニ全シ爾後腋芽ノ發生スルコトアラバ悉ク摘去ス、第三ぶつし仕立ハ定植後自然ニ放任シテ少シモ摘心及ビ除芽ノ勞ヲ探ルコトナク從テ發枝スレバ從テ支柱及横繩ニ結縛ルニアリ支柱ノ建方及ビ段繩ノ張り方等ハ總テ第一區ニ準セリ

一、生育狀況 苗不足ノ多メ普通播種期ヨリ一週日許リ遅レテ播下育成セシ苗ヲ用ヒシ結果本圃定植ハ五月廿八日ニ行ヒタリ定植後ハ發育良好ナリシモ第三區繁茂ニ失セシタメ八月上旬ヨリ顆實ニ腐敗病發生ヲ始メ第一、第二兩區ニモ傳染シ益々漫延ノ兆アリシヲ以テ直ニ二斗五升式ぼると合劑ヲ撒布シテ之ガ豫防ヲ行ヒ辛フジテ病害ヲ絶滅スルヲ得タルモ爲是第二區ノ如キハ大ニ收量ヲ減少セシモノ、如シ

一、收 量 (一畝當)

區 名	試驗 區別	個 數	收 量	採 收 期	品 揃	收 量 順
第 一	單幹直立ころどん	二、三九〇	七、二九〇	自七月廿八日 至九月廿六日	一	二
第 二	二本かんでらぶる	二、四九〇	六、三六〇	自八月四日 至九月廿六日	二	三
第 三	ぶつしゆ	六、八八〇	二、四、〇三〇	全	三	一

耕種梗概
● 胡 瓜

一、苗 床 茄子ニ全ジ

一、播 種 期 三月二十日

一、播 種 量 一畝歩三勺

一、床ノ坪數 三勺ノ種子ヲ約半坪ノ床面ニ播種シタリ

一、種子豫措 良ク充實セル種子ヲ選擇シテ下種前一夜間微温湯ニ浸漬シ播種ニ當リ能ク水ヲ切り木灰ヲ塗抹シテ下種セリ

一、播 種 法 床上三寸ノ畦幅ニ播條ヲ設ケ之ニ條播シ床土ヲ二三分ノ厚サニ覆ヒ灌水ヲ行ヒテ藁ヲ薄ク蔽ヘリ

一、間引及假植 發芽揃ヒテ密生部及ビ畸形苗ヲ間引キ七八分ノ株間ヲ與ヘタリ斯クテ子葉ノ中心ヨリ本葉一枚開展ヲ終リシ頃(即チ四月四日)一回全様ノ温床中ニ五寸ニ四寸位ニ一株ノ割合ニ假植ヲ行ヘリ

一、待 肥 五月六日本圃豫定ノ場所ニ一株宛六七寸立方ノ植孔ヲ穿テ原肥ヲ投入シ土ト克ク混合シタル後小高ク盛土ヲ成シ目標ヲ附シ定植ヲ俟テリ

一、定 植 期 五月廿二日

一、定 植 法 概略蕃茄ニ全ジ但シ彼レヨリモ稍深目ニ植フルヲ良シトス

一、畦 幅 二尺五寸

一、株 間 二 尺

一、肥 料 (一畝當)

堆 肥 名 用 量 原 肥 追 肥

堆 肥	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一 回	二 回	三 回	一 回
室 素	〇、四、五七					

大豆	1,100	1,100	10,000	15,000	15,000	15,000	0,157
人尿	40,000	—	—	—	—	—	0,369
精過磷酸石灰	0,300	0,300	—	—	—	—	—
灰	2,500	1,500	1,000	—	—	—	1,430
藁	—	—	—	—	—	—	—

一、追肥 六月九日、六月廿一日、七月三日

一、中耕 全上

一、支柱建 長サ六尺餘ノ竹ヲ一株一本宛ニ真直ニ建テ、地上五尺ノ高サニ成シ繩ヲ畦ノ方向ニ

三段ニ横張シテ支柱ニ結縛シ所々ニ藁ヲ垂下セシメテ卷鬚ノ纏絡ニ便セリ

一、敷藁 第一回追肥中耕ヲ終ヘテ後株ノ兩側ニ少量ノ藁又ハ麥稈ヲ敷キテ降雨中泥土ノ葉裏ニ附着スルヲ防ギ尙ホ最後ノ追肥中耕ヲ行ヒテ畦上一様ニ敷藁シ以テ乾燥ヲ豫防セリ

一、摘心 節成種ハ一般ニ摘心セザリシモ唯繁茂ニ失スル部分ノミ僅ニ摘除スルニ止メ他種ハ單幹直立シるとん仕立トシテ最初摘心スルコトナク真直ニ主蔓ヲ誘引シ其支柱ノ頂端(地上五尺餘)ニ到達スルニ及ビ初メテ摘心ヲ行ヒ其後腋枝ノ發生シテ其一二節目ニ雌花ノ出現ヲ見バ其一節上ニテ再ビ心ヲ摘ミ専ラ顆實ノ發育及ビ空氣ノ透過ヲ計リ採顆後該枝ハ不用ニ歸スルニ至リ基部ヨリ剪去シ其他雌花ヲ着生セザル無駄蔓ハ悉ク之ヲ其附着部ヨリ剪リ採リタリ

一、手入 培養中絶ヘズ除草ニ注意シ其他瓜守ノ豫防驅除及ビ露菌病豫防ノタメ那府他林除蟲菊藁灰合劑或ハばりすくりん加用せると一合劑ヲ撒布シタリ

一、收穫 初成ハ顆實中大ニ至レバ直ニ採收シ生育ノ進行スルニ從ヒ漸次肥大ナラシメテ採收セリ

一、品種試驗

目的 有望ト認メラル、多クノ品種ヲ培養シテ其生育收量及ビ品質等ノ優劣ヲ比較研究シ以テ本縣ノ風土ニ適合スル良種ヲ選擇セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地	區名	品種名	原產地
第一	早生三枚目節成	東京	第六	成瀬節成	石川
第二	白節成	全	第七	庄内早生	嚴手
第三	青節成	神奈川	第八	清國三尺	清國
第四	刈羽節成	新潟	第九	青大胡瓜	福岡
第五	針ヶ谷節成	埼玉	第十	英國三尺	英國

一、生育狀況 明治四十五年七月上旬濃霧來襲ニツキ露菌病ノ發生ヲ催セシニ付キ二回ニ分テテばるご一合劑ノ撒布ヲ行ヒ之ガ蔓延ヲ防遏セリ又全年七月二十日降雹ノタメ新蔓ヲ折損セラレ多少ノ被害アリタリ、大正二年度ニハ苗床中病害ノ發生ヲ醸シ枯死セシモノ少カラザリシガ硫黃華及石灰ヲ床上ニ撒布シテ其傳播ヲ防ギタリ本圃定植後ハ發育良好ナリシモ七月上旬ニ至リ前年全樣露菌病ノ發生ヲ來セシユヘ二回ばると一合劑ヲ撒布セリ尙ホ發育經過ヲ示サバ次ノ如シ

區名	品種名	大正元年度					大正二年度				
		播種期	發芽始	發芽揃	開花始	採收期	播種期	發芽始	發芽揃	開花始	採收期
第一	早生三枚目節成	三月廿四日	三月廿七日	四月三日	五月廿日	三月廿六日	三月廿三日	三月廿七日	三月廿九日	四月廿四日	
第二	白節成	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
第三	青節成	全	全	全	全	全	全	全	全	全	

區名	品種名	熟期	主蔓ニ雌主蔓節花附著ノ間ノ長短	形	狀	大小	色澤	刺ノ大小及多少	品質
第一	早生三枚目節成	早	多	圓	筒	中	綠	大ニシテ稍多シ	上
第二	白節成	全	全	圓	筒	中	淡綠	稍小ニシテ多シ	中
第三	青節成	全	全	圓筒中央クビレ兩端細シ	筒	大	濃綠	大ニシテ稍多シ	上
第四	刈羽節成	全	全	圓筒兩端細シ	筒	中	綠	全	上
第五	針ヶ谷節成	稍早	全	圓筒兩端細シ	筒	中	稍濃綠	大ニシテ少シ	中
第六	成瀨節成	全	稍多	細圓筒兩端細シ	筒	中	濃綠	小ニシテ少シ	中
第七	庄內早生	全	全	長紡綫	筒	小	淡綠	全	上
第八	清國三尺	全	少	長圓筒兩端細シ	筒	甚大	綠	稍大ニシテ少シ	上
第九	青大胡瓜	最晚	全	圓筒最大シ	筒	全	濃綠	大ニシテ少シ	上
第十	英國三尺	最晚	全	細圓筒兩端細シ	筒	全	全	全	上

一、特性

第一	三月廿七日	三月廿七日	二月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日
第二	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日
第三	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日
第四	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日
第五	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日
第六	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日
第七	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日
第八	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日
第九	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日
第十	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日	三月廿七日

一、收量 (一畝當)

區名	品種名	大正元年度	大正二年度	平均收量	試驗年數
第一	早生三枚目節成	一、七六四	一、六八〇	一、七二二	二
第二	白節成	二、〇八八	一、六三三	一、八六〇	二
第三	青節成	一、七六六	一、二七〇	一、四九三	二
第四	刈羽節成	一、〇一六	一、〇八〇	一、〇四八	二
第五	針ヶ谷節成	—	一、二四四	一、二三四	一
第六	成瀨節成	—	一、一五三	一、一五二	一
第七	庄內早生	四、六〇〇	三、八四〇	四、二二〇	二
第八	清國三尺	一、七五五	一、二八二	一、四四一	二
第九	青大胡瓜	一、八七七	一、二六〇	一、五六九	二
第十	英國三尺	一、二七七	五、九〇〇	八、〇七七	二

前表ニヨルニ品質優良ニシテ且ツ收量ノ饒多ナルハ青大胡瓜、清國三尺、青節成及ビ早生三枚目節成ノ四種ニシテ英國三尺及ビ針ヶ谷節成ノ二種之ニ次ギ品質稍劣ルモ收量多キハ白節成ナリ而シテ前記諸種ノ中、青大胡瓜、清國三尺、英國三尺等ハ形狀偉大ナルヲ以テ漬物用トシテハ不向ナルベク調理用ニ供スル方却リテ良好ナルニ似タレドモ外國種殊ニ英國三尺ノ如キハ性質虛弱一般ニ病害ニ犯サレ易ク從フテ培養困難ナルヲ以テ寧ロ内國種ノ優良ナルモノヲ栽培スルノ安全ナルニ如カズ其他庄内早生ノ如キハ形狀矮小收量寡ク到底嗜炙スルニ足ラザルモノ、如シ尙試驗ヲ重ネテ決定スベシ

一、整枝法試験

目的 胡瓜ヲ栽培スルニ方リ如何ナル整枝法ニ倚ルヲ經濟上得策トナスカヲ驗知セントス

一、供試品種 青大胡瓜

一、試験區別

- 第一、單幹直立ころん仕立 (耕種梗概)
- 第二、一回摘心單幹直立ころん仕立 (一本仕立)
- 第三、二本かんでらぶる仕立 (筭脚形)
- 第四、ぶつしゆ仕立 (自然形)

一、整枝法 第一區ハ耕種梗概ニ準ジ第二區ハ本葉六七枚ヲ着生セシトキ之ヲ三葉目ニテ摘心シ腋枝發生セバ最モ強勢ナル一枝ヲ真直ニ誘ヒ他ノ二枝ヲ剪去シテ單幹直立ころん仕立形ニ形成シ其後ノ手入ハ第一ニ全シ、第三區ハ第二區ト全様三四葉目ニテ摘心ヲ行ヒ數枝ヲ發生セシメ最モ強健ナル二枝ヲ殘シテ他ハ悉ク摘除シ此二枝ヲ最初左右水平ニ誘ヒ本幹ヨリ各五寸位距ルニ及ビ其頂端ヲ上向セシメ二本かんでらぶる仕立ニ整枝シ其後ノ手入ハ總ベテ第一ニ準據セリ、第四區ハ一切摘心整枝ヲ施サズ自然ニ放置シ各腋枝ハ皆支柱ニ纏繞セシメタリ

一、生育狀況 苗床中徒長ノ悞アリシニツキ五月六日本畑ニ定植セリ定植後ノ生育狀態ハ概シテ品種試験ニ全シ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	總收量		平均一本ノ重量	採收期
		本數	重量		
第一	單幹直立ころん	一、三九二	二天、七五〇	九二	自六月廿九日 至八月十八日

第二	一回摘心單幹直立ころん	一、二六〇	二天、〇八〇	一〇八	自七月二日 至八月十八日
第三	二本かんでらぶる	一、三六〇	四〇、〇六〇	一〇二	自六月廿九日 至八月十八日
第四	ぶつしゆ	一、四四〇	一三〇、八八〇	九二	全

三、肥料配合法試験

目的 胡瓜ヲ栽培スルニ方リ一般農家ハ油粕ヲ主肥料トシテ供用スルモノ、如シ仍テ本試験ニ於テハ配合法ヲ異ニセル諸種ノ肥料ヲ施用シ以テ油粕ト其肥効ヲ比較セントス

一、供試品種 青大胡瓜

一、試験區別

第一、標準肥料區 (人糞尿區)

堆肥	肥料名	用量	追肥			窒素	磷	加里	價額
			一回	二回	三回				
大豆粕肥	三五、〇〇〇	二五、〇〇〇	一	一	一	〇、四七七			
人糞尿	一、一〇〇	一、一〇〇	一	一	一	〇、二五七			
精過磷酸石灰	四〇、〇〇〇	〇、三〇〇	一〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	〇、三六九			
堆肥	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	一、〇〇〇			一、四〇〇			
第二、大豆粕區	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇							

區名	試驗區別	總收量		平均一本ノ重量		收量順
		本數	重量	重量	年	
第一區	標準肥料區	一、三五	一三九、三六〇	一〇五	—	六
第二區	大豆粕區	一、七二	一七六、二六〇	一〇三	—	三

一、生育狀況		整枝法試驗ニ全シ	
一、收量		(一畝當)	
堆肥	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	—
大豆粕	一、七五〇	一、〇〇〇	—
人糞	二五、〇〇〇	—	—
精過磷酸石灰	〇、一四〇	—	—
硫酸加里	〇、一四〇	—	—
堆肥	二五、〇〇〇	—	—
大豆粕	一、一〇〇	—	—
智利硝石	一、四七〇	—	—
精過磷酸石灰	〇、五〇〇	—	—
硫酸加里	〇、二七〇	—	—
堆肥	二五、〇〇〇	—	—
大豆粕	一、一〇〇	—	—
智利硝石	一、四七〇	—	—
精過磷酸石灰	〇、五〇〇	—	—
硫酸加里	〇、二七〇	—	—

第六、鯧粕區	
堆肥	二五、〇〇〇
大豆粕	一、一〇〇
智利硝石	一、四七〇
精過磷酸石灰	〇、五〇〇
硫酸加里	〇、二七〇
堆肥	二五、〇〇〇
大豆粕	一、一〇〇
智利硝石	一、四七〇
精過磷酸石灰	〇、五〇〇
硫酸加里	〇、二七〇

窒素	磷	加	價
〇、四七	〇、二五	〇、三六	一、八〇
〇、二七	〇、二五	〇、三六	一、五〇
〇、四七	〇、二五	〇、三六	—
〇、二七	〇、二五	〇、三六	—
〇、四七	〇、二五	〇、三六	—
〇、二七	〇、二五	〇、三六	—

第三、油粕區		第四、硫酸安母尻亞區		第五、智利硝石區	
堆肥	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇
油粕	三、四〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇
人糞	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇
精過磷酸石灰	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇
硫酸加里	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
堆肥	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇
大豆粕	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
硫酸安母尻亞	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇
精過磷酸石灰	〇、五六〇	〇、五六〇	〇、五六〇	〇、五六〇	〇、五六〇
硫酸加里	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
堆肥	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇
大豆粕	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
智利硝石	一、四七〇	一、四七〇	一、四七〇	一、四七〇	一、四七〇
精過磷酸石灰	〇、五六〇	〇、五六〇	〇、五六〇	〇、五六〇	〇、五六〇
硫酸加里	〇、二七〇	〇、二七〇	〇、二七〇	〇、二七〇	〇、二七〇

窒素	磷	加	價
〇、四七	〇、二五	〇、三六	一、八〇
〇、二七	〇、二五	〇、三六	一、五〇
〇、四七	〇、二五	〇、三六	—
〇、二七	〇、二五	〇、三六	—
〇、四七	〇、二五	〇、三六	—
〇、二七	〇、二五	〇、三六	—

第 三	油 粕 區	一、四六	一五七、三〇〇	一〇八
第 四	硫酸安母尼亞區	二、一四	二二八、二〇〇	一〇二
第 五	智利硝石區	一、五五	一五五、六〇〇	一〇〇
第 六	鱈 粕 區	一、七六	一九二、五〇〇	一一二

第 三	油 粕 區	一、四六	一五七、三〇〇	一〇八
第 四	硫酸安母尼亞區	二、一四	二二八、二〇〇	一〇二
第 五	智利硝石區	一、五五	一五五、六〇〇	一〇〇
第 六	鱈 粕 區	一、七六	一九二、五〇〇	一一二

第 三	油 粕 區	一、四六	一五七、三〇〇	一〇八
第 四	硫酸安母尼亞區	二、一四	二二八、二〇〇	一〇二
第 五	智利硝石區	一、五五	一五五、六〇〇	一〇〇
第 六	鱈 粕 區	一、七六	一九二、五〇〇	一一二

●甜 瓜

耕種梗概

- 一、播種期 四月三十日
- 一、播種量 一畝當四勺
- 一、種子豫措 胡瓜ニ全シ
- 一、待 肥 豫ネテ準備セル麥圃中既定ノ場所ニ四月十九日七八寸立方ノ孔ヲ穿チテ配合セル原肥ヲ投入シ土ト能ク混和シタル後小高ニ盛土ヲ爲シ目標ヲ附シ置キタリ
- 一、播種法 四月三十日待肥ノ上ニ一株七八粒ノ割合ニ種子ノ尖端ヲ下ニ挿入シテ表面一二分ノ下ニアラシメ尙ホ乾燥セル川砂ヲ丘上一面ニ約二分ノ厚サニ被ヒ更ニ乾燥ヲ防グタメ粗殻ヲ薄ク敷ケリ
- 一、間 引 發芽生長シテ幼苗ノ一寸五六分ニ及ビタル時即チ六月五日第一回ノ間引ヲナシテ一株四五本許リ殘シ其後六月十六日ト全月廿一日ノ二回都合三回ニ間引キテ最モ强健ナルモノヲ一株一本立ト爲シタリ
- 一、畦幅及株間 四尺畦、三尺株間

一、肥 料 (一畝當)

肥料名	用 量	原 肥	追 肥	窒 素	磷 酸	加 里	價 額
堆 肥	三〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇、三九三			
大 豆 粕	一、五〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	〇、二八一			
人 糞 尿	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇〇	〇、二八一			
精過磷酸石灰	〇、五〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、三三四			
灰	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、一六〇			

- 一、追 肥 六月十六日、七月一日
- 一、中 耕 全 上
- 一、摘 心 本葉六七枚ヲ着生セシ時四葉目ニテ摘心シ此レヨリ發生セシ腋枝中强健ナル二枝ヲ殘シテ各枝六七葉ヲ着クルニ至リシ時再ビ四葉目ニテ摘心シ各腋枝ヨリ四本宛都合八本ノ副枝ヲ發生セシメタリ斯クテ其一ニ葉目ニ雌花ヲ現出セシトキニ其二葉上ニテ摘心シ枝蔓ヲ四方平等ニ擴ゲテ配置スルニ努メタリ其後雌花ヲ抱ク枝蔓ヲ生セバ反覆以上ノ操作ヲ行ヒ勉メテ落果ノ少カラシメトヲ期シ結果セシ節ヨリ發生スル腋枝ハ悉ク除去セリ
- 一、敷 藁 最初根際ニ少シク敷藁ヲ施シ其後枝蔓ノ生育スルニ隨ヒ中耕ヲ行ヒ漸次敷藁ヲ擴ゲ最後ノ中耕ニテ全圃一面ニ麥稈類ヲ敷設シタリ
- 一、手 入 第一回摘心ノ際小刀ニテ甲折部ノ腋芽ヲ靜ニ削リ採リテ該腋枝ノ伸長ヲ防ギ瓜守及露菌病豫防ノタメ二回許リばりすぐりん加用ぼると合劑ヲ撒布シ且ツ時々花粉ノ媒助ヲ行ヒタリ

一、品種試驗

目的 露地栽培ニ堪フル東洋原産ノ各種甜瓜ヲ蒐集栽培シテ草勢ノ強弱、收量及ビ品質等ヲ比較シ以テ本縣ノ風土ニ適スル良種ヲ選擇セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地	區名	品種名	原產地
第一	梨甜瓜	清國(現今愛知地方)	第五	天津甜瓜(芝麻蘇)	清國
第二	金甜瓜	全(全東京)	第六	香港甜瓜	全
第三	銀甜瓜	全(全東京)	第七	成棗	全
第四	鳴子甜瓜	東京			

一、生育狀況 種蠅幼蟲ノ發生ヲ來シ幼芽ニ蝕入殆ンド其半數ヲ枯死セシメタルヲ以テ五月廿四日更ニ一部分播直ヲ行ヒ之ヲ補ヒタリ生育後ハ瓜守ノ寄生及ビ露菌病ノ發生ヲ見シモ豫防劑ヲ撒布シテ幸ニ大被害ヲ免レシト雖モ梨甜瓜、天津、香港等ハ性虛弱ニシテ降雨多カリシ氣候ニテハ完全ノ成績ヲ得ル能ザリキ尙ホ發育經過ヲ示サバ次ノ如シ

區名	品種名	播種期	發芽始	發芽揃	開花始	採收期
第一	梨甜瓜	四月三十日	五月十一日	六月四日	七月十六日	自八月廿三日 至九月三日
第二	金甜瓜	全	全	全	全	自八月廿三日 至九月三日
第三	銀甜瓜	全	全	全	全	自八月廿三日 至九月三日
第四	鳴子甜瓜	全	全	全	全	自八月廿三日 至九月三日

區名	品種名	熟期	種子ノ狀態	顆實之部	草勢	品質
第一	梨甜瓜	晚	大粒 淡黃色 形長卵形 蒂端突出	乳白 外皮淡綠 肉色淡青	強弱	上
第二	金甜瓜	早	大粒 淡黃色 形長卵形 蒂端突出	乳白 外皮淡綠 肉色淡青	強弱	中
第三	銀甜瓜	中	中粒 乳白色 形長圓筒 蒂端突出	淡青 外皮淡綠 肉色淡青	強弱	全
第四	鳴子甜瓜	早	小粒 淡黃色 形長圓筒 蒂端突出	淡黃 外皮淡綠 肉色淡黃	強弱	下
第五	天香	晚	大粒 淡黃色 形長圓筒 蒂端突出	淡黃 外皮淡綠 肉色淡黃	強弱	最上
第六	香	全	小粒 淡黃色 形長圓筒 蒂端突出	淡黃 外皮淡綠 肉色淡黃	強弱	中
第七	千成	早	小粒 淡黃色 形長圓筒 蒂端突出	淡黃 外皮淡綠 肉色淡黃	強弱	上

區名	總收量	平均一個ノ收量	收量順
第一	二四	一五、九〇	三
第二	三五	二六、五〇	一
第三	一七	三、六〇	二
第四	一八〇	一一、六〇	五

第 五 天	第 六 香	第 七 千
成 津	成 港	成 棗
九〇	一五三	一〇七
九、六三〇	九、三二〇	一〇七
一四、二一〇	一四、二一〇	六九
六二	六二	四七
六	六	六

●南 瓜

耕種梗概

- 一、苗 床 茄子ニ全ジ
- 一、播種期 三月廿六日
- 一、播種量 一畝當五勺
- 一、床ノ坪數 五勺ノ種子ヲ〇、三坪ノ床面ニ下種セリ
- 一、播種法 床上三寸ノ畦幅ニ約一寸ノ距離ニ一粒宛點播シ床土ヲ三四分ノ厚ニ篩ヒカケ灌水シテ藁ヲ覆ヘリ但シ播種前一夜間種子ヲ微温湯ニ浸漬セシコト甜瓜ニ全ジ
- 一、假 植 四月十一日ニ全様ノ温床中ニ之ヲ方六寸ニ一本ノ割合ニ一回假植セリ
- 一、待 肥 五月九日定地既定ノ位置ニ孔ヲ穿テ原肥ヲ施用シテ盛土セシコト甜瓜ニ全ジ
- 一、定植期 五月十九日
- 一、定植法 大体胡瓜ニ全ジ
- 一、畦 幅 五 尺
- 一、株 間 四 尺
- 一、肥 料 (一畝當)

肥料名	用 量	原 肥	追 肥	窒 素	磷 酸	加 里	價 額
堆 肥	10,000	10,000	—	0,357	—	—	—
大 豆 粕	1,000	1,000	—	0,277	—	—	—
人 糞 尿	300,000	—	15,000	0,314	—	—	—
精過磷酸石灰	0,500	0,500	—	—	—	—	—
灰	2,500	1,500	1,000	—	—	—	1,360

- 一、追 肥 六月十日、六月廿日
- 一、中 耕 全 上
- 一、摘 心 定植活着後四葉目ニテ摘心シ四枝ヲ發生セシメタリ斯クテ各主蔓ニ元花着生セシヲ以テ謝花後顆ノ茶碗大ニ發育セシ時其二節上ニテ再ビ摘心ヲ施シ其後結顆セシ節及ビ之ニ隣レル節ヨリ伸長セシ腋枝ハ悉ク摘除シ只管顆ノ墜落ヲ防グニ努メ其他甲折部ヨリ發生セシ腋芽ハ皆切り採リタリ
- 一、敷 藁 甜瓜ニ全ジ
- 一、手 入 病蟲害ノ驅除豫防ハ凡ベテ甜瓜ニ準ジ且ツ枝蔓節間ヨリ生ズル根ハ悉ク切斷シ以テ其徒長ヲ防止シタリ

一、品 種 試 驗

目的 各種ノ南瓜ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及品質ノ優劣ヲ比較調査シ以テ本縣ノ風土ニ適合スル良種ヲ選擇セントス

一、試験區別

區名	品名	原產地
第一	菊座	東京
第二	縮座	全京
第三	鹿ヶ谷	京都
第四	三毛門	福岡
第五	早生	東京
第六	名古屋	愛知
第七	はつばいど	米國

一、生育狀況 明治四十五年五月定植後ハ風雨烈シカリシタメ苗ノ擦傷ヲ被ムリ枯死セシモノ少カラザリシヲ以テ晴天ヲ俟ツテ枯損株ヲ補植セリ其後全年七月廿日ノ降雹ニ多少被害ヲ受ケタリ大正二年度ハ前年ニ比シ故障少ク安全ニ發育ヲ遂ゲシモ病害發生ノ兆アリシヲ以テ六月下旬一回ぼると合劑ヲ撒布セリ尙ホ發育經過ヲ表示セバ次ノ如シ

區名	品名	大正元年度		大正二年度	
		播種期	採收期	播種期	採收期
第一	菊座	三月廿四日	四月廿三日	三月廿六日	四月廿七日
第二	縮座	三月廿八日	四月廿三日	三月廿六日	四月廿七日
第三	鹿ヶ谷	三月廿八日	四月廿三日	三月廿六日	四月廿七日
第四	三毛門	三月廿八日	四月廿三日	三月廿六日	四月廿七日
第五	早生	三月廿八日	四月廿三日	三月廿六日	四月廿七日

備考 開花始トハ四本ノ枝蔓ニ於ケル開花始期ヲ謂フ

區名	品名	全	全	全	全
第六	古屋	全	全	全	全
第七	はつばいど	全	全	全	全

一、特性

區名	品名	種名	熟期	子枝ノ元花	顆形	外皮ノ状態	部	品質
第一	菊座	縮座	早	四節	扁圓	深	赤	最上
第二	鹿ヶ谷	縮座	中	四節	扁圓	深	赤	最上
第三	鹿ヶ谷	縮座	中	四節	扁圓	深	赤	最上
第四	三毛門	縮座	中	四節	扁圓	深	赤	最上
第五	早生	縮座	早	四節	扁圓	深	赤	最上
第六	古屋	縮座	中	四節	扁圓	深	赤	最上
第七	はつばいど	縮座	晚	七節	短紡錘	無	赤	稍上

備考 子枝ノ元花附節數ハ一回摘心後發生シタル四本ノ枝蔓(子枝)上第一雌花ノ現出節數ヲ指示スルモノニシテ各區共三株(十二本ノ枝蔓)ノ枝蔓上ヲ調査平均シタル節數ナリ

一、收量 (二畝當)

區名	品名	大正元年度		大正二年度		二ヶ年平均	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一	菊座	一四四	四九、六八〇	一六八	五五、八四〇	一五六	五二、七六〇
第二	縮座	八四	四六、七三〇	九六	四一、六四〇	九〇	四四、一九〇

第三鹿ヶ谷	五四、九五〇	七四四	六六、四、二五〇	六七〇	六〇、四三、一〇〇
第四三毛門	五四、四一、一八〇	九六三	一〇三、五四、六〇〇	五三五	七六、四七、八九〇
第五早生	四四、五一、二〇〇	三五五	一七四、四〇、五三〇	二二三	一五九、四、八三〇
第六名古屋	四二、三三、〇四〇	七八九	六〇、四七、一九〇	七六七	五二、四〇、二〇〇
第七はつばい	三六、三五、〇〇〇	九七三	六六、四八、三三〇	七三二	五一、四一、六七〇

前表ニヨレバニケ年ノ成績ニ翻語スル所アリト雖要スルニ菊座ノ如キハニケ年ヲ通ジテ多量ノ生産ヲ
 アゲ加フルニ品質良好且ツ早生ナルノ特點アルヲ以テ有望種ト謂フベク之ニ次ギテハ縮緬ナリ本種ハ
 收量前種ニ及バザルノ感アリト雖モ品質最良形狀亦邦人ノ嗜好ニ投ズルノ長所アリ又早生小南瓜ハ極
 メテ早生ニシテ且ツ豊産ナルヲ以テ都會附近ノ栽培ニ供サバ蓋シ適當ナラン其他ノ品種ハ各得失アル
 ヲ以テ未ダ遽ニ優劣ヲ定メ難シ尙ホ試験ヲ繼續シテ決定セントス

一、肥料試験

目的、南瓜栽培上如何ナル肥料ヲ如何ニ配合セバ最モ得策ナルカヲ驗知セントス
 一、供試品種 縮緬

堆肥	第一、標準肥料 (人糞尿區)		窒素
	肥料名	追肥	
肥	二〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇,三七
肥	二〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇,三七

第二、大豆粕區				第三、油粕區				第四、硫酸安母尼亞區							
大豆粕	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	〇,三七	油粕	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	〇,三五	硫酸安母尼亞	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	〇,三六	灰	二,九〇〇	一,七〇〇	〇,三三
人糞	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	〇,三六	油粕	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	〇,三五	硫酸安母尼亞	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	〇,三六	灰	二,九〇〇	一,七〇〇	〇,三三
精過磷酸石灰	二,五〇〇	一,五〇〇	一,三六	油粕	二,八〇〇	一,八〇〇	〇,二七	硫酸安母尼亞	二,九〇〇	一,七〇〇	〇,三三	灰	二,九〇〇	一,七〇〇	〇,三三
精過磷酸石灰	〇,四七〇	〇,四七〇	〇,二七	油粕	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七	硫酸安母尼亞	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七	灰	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七
精過磷酸石灰	〇,四七〇	〇,四七〇	〇,二七	油粕	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七	硫酸安母尼亞	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七	灰	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七
精過磷酸石灰	〇,四七〇	〇,四七〇	〇,二七	油粕	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七	硫酸安母尼亞	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七	灰	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七
精過磷酸石灰	〇,四七〇	〇,四七〇	〇,二七	油粕	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七	硫酸安母尼亞	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七	灰	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七
精過磷酸石灰	〇,四七〇	〇,四七〇	〇,二七	油粕	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七	硫酸安母尼亞	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七	灰	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,二七

大豆		堆肥		智利硝石		精過磷酸石灰		藥加里		硫酸加里	
一、〇〇〇	一、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、六九五	〇、六九五	二、五〇〇	〇、二〇〇	〇、八五五	〇、六九五
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、六九五	〇、六九五	一、五〇〇	一、五〇〇	〇、二〇〇	〇、二〇〇	〇、四〇〇	〇、四〇〇
〇、四四五	〇、四四五	〇、六〇〇	〇、六〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	〇、二〇〇	〇、二〇〇	〇、四四五	〇、四四五
室磷素	室磷素	室磷素	室磷素	室磷素	室磷素	室磷素	室磷素	室磷素	室磷素	室磷素	室磷素
〇、三五七	〇、三五七	〇、二七	〇、二七	一、一八〇	〇、三三三	〇、三三三	〇、三三三	一、四四〇	一、四四〇	〇、三三三	〇、三三三

第六、鯧粕區

第五、智利硝石區

一、生育狀況 品種試驗ニ全シ

區名	試驗區別	總收量	中以上品	中以下品	平均一個重量
第一	標準肥料區	一七四	八四	九〇	〇、二八五
第二	大豆粕區	一四四	七六	六八	三九五
第三	油粕區	一五六	二六	三〇	三七九
第四	硫酸安母尼亞區	一三八	八四	五〇	三五二
第五	智利硝石區	一三三	九〇	四三	三六九
第六	鯧粕區	一三六	三〇	八	三九六

西瓜

耕種梗概
 一、播種期 四月三十日
 一、播種量 一畝當五勺
 一、種子豫措 甜瓜ニ全シ
 一、待肥 甜瓜ト同日ニ施用セリ
 一、播種法 直播ニシテ大体甜瓜ニ準憑セリ
 一、間引 六月五日、六月十六日、六月廿一日ノ三回ニ別チテ間引ヲ行ヒ最後ニ強健ナル一株

ヲ殘シタリ
一、畦幅 六尺
一、株間 五尺
一、肥料 (一畝當)

肥料名	原肥	追肥	窒素	磷	加里	價額
堆肥	10,000	10,000	0.43			
大豆粕	1,500	1,500	0.29			
人糞	2,500	10,000	0.36			
精過磷酸石灰	0,500	0,500		1.27		
灰	2,500	1,500				

一、追肥 六月十二日、七月一日
 一、中耕 全上
 一、敷薬 南瓜ニ全ジ
 一、手入 結果セル節ヨリ發生セシ腋枝ハ努メテ剪除シテ落果ヲ防ギ且ツ甜瓜ト同様病蟲害ノ豫防驅除ヲ行ヒタリ

一、品種試驗

目的 内外數多ノ西瓜ヲ蒐集シテ同一ノ栽培管理法ノ下ニ其生育收量及ビ品質ヲ比較對照シ以テ本縣ノ風土ニ適スル良種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品種名	播種期	發芽始	發芽揃	開花始	採收期	原產地
第一	赤早生	四月三十日	五月十四日	六月一日	七月九日	自八月十一日至九月十日	内地
第二	あいすくりーむ	全	全	全	全	自八月十一日至九月十日	米國
第三	まうんでん、すゐーど	全	全	全	全	自八月十一日至九月十日	米國
第四	すゐーど、さいべりあん	全	全	全	全	自八月十一日至九月十日	米國
第五	こーるす、あーりー	全	全	全	全	自八月十一日至九月十日	米國
第六	はーばーと、おねー	全	全	全	全	自八月十一日至九月十日	米國

一、生育狀況 甜瓜ト全様種蠅幼蟲ノ寄生ヲ受ケ枯損セシモノ不尠殊ニすゐーどさいべりあんノ如キハ之ガタメ過半數ヲ失ヒシニツキ五月廿四日播直ヲ行ヒ其後八月廿七日ノ暴風雨ニ損傷ヲ蒙リ再ビ其草勢ヲ挽回スル能ザリキ發育經過表ハ次ノ如シ

耕種梗概

●菜豆

區名	品名	種類	熟期	總收量		內		平均一顆重量	品質
				數量	重量	中以上	中以下		
第一	赤	早生	早	七〇	七、二八〇	四〇	二五	一、一〇〇	上
第二	あいすくりーむ		中	六五	七、七〇〇	四五	二〇	一、一〇〇	上
第三	まうんてん、すゐー		全	一〇三	八、九七〇	五五	四八	〇、九〇〇	中
第四	すゐーさ、さいべり		早	二五	九、五〇〇	三五	九〇	〇、七〇〇	上
第五	こゝろす、あーりー		中	八四	七、四〇〇	二四	六〇	〇、八〇〇	中
第六	はーばーさ、おれー		晚	七〇	五、一三〇	二五	四五	〇、八三〇	上

一、整地 播種前鍬ニテ丁寧ニ整地セリ

一、播種期 五月二日

一、播種量 一畝當四合

一、畦幅 二尺

一、株間 一尺二寸

一、播種法 既定ノ畦幅ニ作條ヲ切り無肥料ニテ一株四五粒宛ニ點播シ四五分ノ厚サニ被土セリ

一、間引 發芽揃後即チ五月廿一日ニ不良苗ヲ間引キ強健ナルモノヲ殘シテ一株二本立ト爲シ

一、肥料 剩餘ノ苗ハ不發芽ノ塲所ニ補植シ以テ其缺損ヲ補ヘリ

肥料名	原肥	二番肥	窒素	磷酸	加里	價額
堆肥	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	〇、一七三	〇、一七三	〇、一七三	〇、一七三
人糞	一五、〇〇〇	七、〇〇〇	〇、一七三	〇、一七三	〇、一七三	〇、一七三
精過磷酸石灰	〇、四〇〇	〇、四〇〇	〇、一八三	〇、一八三	〇、一八三	〇、一八三
灰	一、五〇〇	一、五〇〇	〇、一七三	〇、一七三	〇、一七三	〇、一七三

一、施肥期 五月廿三日(原肥) 六月九日(二番肥)

一、中耕 五月廿三日、六月九日

一、支柱建 六月十一日一株一本宛ノ篠(長サ九尺)ヲ建テ其頂端ニ於テ二畦分ヲ抱合シ所謂屋根形ニ拵ヘ針金ヲ用ヒテ頂端ヲ連結シ以テ倒伏ヲ防ギタリ但シ蔓性種ニ限ルモノトス

一、敷藁 六月十二日畦上ニ敷藁ヲナシ以テ乾燥ヲ防グト同時ニ雨天ノ際莖葉及ビ嫩莢ニ泥土

一、品種試験

目的 蔬菜用トシテ菜豆ノ軟莢ヲ採收センガタメ廣ク各品種ヲ蒐集栽培シ其收量及ビ品質ヲ比較シ以テ本縣ノ風土ニ適スル良種ヲ選擇セントス

一、試験區別

區名	品名	播種期	發芽始	發芽揃	開花始	採收期
第一	あーりーえすと、おやいあんごすとりんぐれす	五月一日	五月九日	五月十三日	六月十五日	六月廿七日
第二	ろんぐ、ふえろう	全	全	全	全	全
第三	ばおんちふる	全	全	全	全	全
第四	ぬふる、あるごら	全	全	全	全	全
第五	いむふるーぶど、ごるでんわつくす	全	全	全	全	全
第六	臺灣大莢	五月一日	五月十日	五月十五日	六月廿三日	七月五日
第七	ありこぼーれ、でゆもんどーる	全	全	全	全	全
第八	けんたつき、わんだー(おーると、ほーむすてつと)	全	全	全	全	全
第九	えきすとらあーりー、しつくすうえーく	全	全	全	全	全
第十	大莢白菜豆	全	全	全	全	全
第十一	巨大五寸	全	全	全	全	全

一、生育狀況

明治四十五年ニハ種蠅幼蟲ノ侵害ヲ被ムリ就中ありこぼーれでゆもんどーる種ニ於テ甚シク爲メニ該種全年ノ收量ニ著シキ影響ヲ及ボセリ又全年七月廿日降雹ノ被害モ亦尠カラズ大正二年度ハ生育順ヲ得殆ンド支障ヲ見ズ尙ホ發育經過ヲ示セバ次ノ如シ

原產地	米國	全上	英上	米國	佛國	全地	內地	北海道
-----	----	----	----	----	----	----	----	-----

區名	品名	種子之部	莢之部	播種期	發芽始	發芽揃	開花始	採收期
第一	あーりーえすと、おやいあんごすとりんぐれす	濃黃	中	全	五月一日	五月九日	五月十三日	六月十五日
第二	ろんぐ、ふえろう	濃黃	中	全	全	全	全	全
第三	ばおんちふる	濃黃	中	全	全	全	全	全
第四	ぬふるあるごら	濃黃	中	全	全	全	全	全
第五	いむふるーぶど、ごるでんわつくす	淡黃	稍大	全	全	全	全	全
第六	臺灣大莢	淡黃	稍大	全	五月一日	五月十日	五月十五日	六月廿三日
第七	ありこぼーれ、でゆもんどーる	淡黃	稍大	全	全	全	全	全
第八	けんたつき、わんだー(おーると、ほーむすてつと)	淡黃	稍大	全	全	全	全	全
第九	えきすとらあーりー、しつくすうえーく	淡黃	稍大	全	全	全	全	全
第十	大莢白菜豆	淡黃	稍大	全	全	全	全	全
第十一	巨大五寸	淡黃	稍大	全	全	全	全	全

區名	品名	大正元年		大正二年		二個年平均收量	
		本數	重量	本數	重量	本數	重量
第五	白地ニ淡褐斑	全	全	全	全	中	全
第六	濃紫褐	全	全	全	全	中	中
第七	茶褐	全	全	全	全	中	中
第八	全	全	全	全	全	中	中
第九	乳白	全	全	全	全	中	中
第十	灰褐	全	全	全	全	中	中
第十一	巨大尺五寸	全	全	全	全	中	中
第一	ありりえすこ、ぢやいあんさすさりんぐれす	二、七〇〇	一五、八〇〇	二、一五〇	一一、二四〇	二六、四三〇	一三、四八〇
第二	ろんぐふえろう	一五、四〇〇	一一、〇〇〇	一〇、八四〇	一〇、七六〇	三三、一六〇	一〇、八八〇
第三	ぼおんちふる	一四、二〇〇	八、四四〇	二、八五〇	二二、五七〇	三三、〇四〇	一〇、五二〇
第四	ぬぶるあるとら	三三、〇〇〇	一九、八〇〇	一	一	三一、〇三〇	一九、八〇〇
第五	いむぶるいぶご、こるでんわつくす	一六、九〇〇	一〇、三三〇	一	一	一六、九〇〇	一〇、二二〇
第六	臺灣大莢	一〇、九六〇	八、三三〇	八、五二〇	一八、三五〇	(-) 八、五二〇	(-) 一八、三五〇
第七	ありこぼれ、でもんごいる	二七、五九〇	三四、一五〇	九、二二〇	一七、二二〇	(三) 二九、〇二〇	(四) 二五、三五〇
第八	けんたつきー、わんだい	二七、一七〇	一〇、七九〇	一七、二二〇	一九、七九〇	(三) 二二、六六〇	(六) 二七、一九〇
第九	しつきすさあーりー	三三、一七〇	二〇、七九〇	一七、二二〇	一九、七九〇	(三) 二〇、三五〇	(六) 二五、〇一〇
第十	大莢白菜豆	二二、六〇〇	三三、二九〇	五、八九〇	二二、六六〇	九、二五〇	二七、四〇〇

第十一 巨大尺五寸 二、三三〇 三、一一〇 六、五八〇 二、七六〇 一三、八六〇 三、四五〇

備考 表中(一)(三)(四)(六)ト記載アルハ試験ノ回数ヲ示スモノニシテ之ナキモノハ二個年ノ平均收量ナリ

以上ノ事實ヲ綜合スルニ收量品質共ニ卓越スルハ第七區ありこぼれでゆ、もんごいるニシテ該種ハ實ニ莢菜豆中ノ白眉ト謂フベク唯其莢ノ黄綠色ナルハ聊カ缺点トシテ數フルニ足ルモ然カモ其長所ハ優ニ其短所ヲ償フテ餘アリ之ニ次、良好ナル品種ハ第八區けんたつきー、わんだい第九區えさすこらありりー、しつくす、うえーく第六區臺灣大莢等ノ順序ニシテ第十區大莢白菜豆ノ如キハ縱令收量饒多性質強健ナルノ特点アレドモ嫩莢巨大ニ失スルノミナラズ品質劣等ナルヲ以テ之レガ栽培ヲ企及スルモ得策ナラザルベシ又矮性種ハ有莢種ニ比スルニ概シテ寡産ナルノ缺点ヲ有スレドモ一般ニ早生ナルヲ以テ早ク市場ニ搬出シ得ルノ利アリ就中第一、ありりーえすこ、ぢやいあんと、すどりんぐれす第二、ろんぐふえろう第四、ぬぶるあるとら等は品質優良ナレバ將來有望種トシテ數フルニ足ル尙ホ試験ヲ繼續シテ判定セントス

●甘 藍

耕種梗概
 一、苗 床 播種前日當リ良好ナル畑地ヲ選ビテ耕耘シ土塊ヲ充分細碎シタル後幅四尺長サ適宜ノ冷床ヲ東西ニ長ク設ケテ地上三四寸許リ盛り上ゲ苗床十坪ニ付腐熟堆肥廿五貫匁餘精過燐酸石灰四百匁糞一貫二百匁許リヲ投ジテ土ト十分混合シ然ル後人糞尿八貫匁ヲ表面ニ撒布シ二三日ヲ經テ表土乾燥スルヲ俟テ播種ニ着手セリ

一、播種期 九月廿一日(秋播) 四月五日(春播)

一、播種量 一畝當半勺

一、播種法 床面ヲ均平シ床上三寸幅ノ播條ヲ設ケ密ニ失セザル様種子ヲ條播シテ細土ヲ薄ク被ヒ灌水シテ藁ヲ覆ヒ以テ乾燥ヲ防ギタリ半勺ノ種子ハ五分ノ一坪ノ床面ニ播下セリ

一、間引 發芽ヲ催セシ時直ニ覆藁ヲ除去シテ徒長ヲ防ギ發芽揃後密生部ヲ間引キ株間ヲ疎ニ爲シ以テ苗ノ強剛ヲ計レリ間引ノ際ハ甲折葉ノ一枚又ハ三枚ナリシモノ徒長セシモノ畸形ヲ呈セシモノ等ヲ留意シテ抜き取り甲折葉ノ二枚ニシテ強健ナルモノ、ミヲ存置セリ

一、假植 十月五日 十月廿七日ノ二回(秋播)
四月三十日 五月廿一日ノ二回(春播)

一、定植期 三月十日(秋播) 六月五日(春播)

一、苗ノ選擇 苗ハ其心葉ノ開展セシモノ、葉ノ變色セシモノ、葉ニ缺刻多キモノ、莖葉徒長シ節間長キモノ、葉ノ悉ク下方ニ反轉セシモノ等ヲ淘汰シテ葉柄短ク節間短キモノ、葉肉厚クシテ擴大シ且ツ心葉ノ卷キタルモノヲ選抜採用セリ

一、栽植法 豫テ耕耘セル圃地ノ既定位置ニ六七寸立方ノ植孔ヲ穿チ之ニ原肥ヲ投ジテ土ト充分混淆シ苗床ヨリ叮嚀ニ掘リ採リタル苗ヲ真直ニ植エ込ミ輕ク土ヲ株ノ周圍ニ寄セ苗葉ニ觸レザル様灌水ヲ爲シ以テ活着ヲ容易ナラシメタリ

一、畦幅 大形種二尺五寸 中形種二尺二寸 小形種二尺

一、株間 全 上一尺八寸 全 上一尺五寸

一、肥料 (一畝步)

肥料名 用量 原肥 追肥

一回 二回 三回

堆肥	30,000	30,000							
大豆粕	1,500	1,500							
人糞尿	50,000		11,000	18,000	10,000			0,540	
精過磷酸石灰	0,600							0,370	
木灰	1,000	1,000						0,430	
								1,770	

一、追肥 三月二十八日、四月十四日、五月五日(秋播)
六月二十日、七月二日、七月十六日(春播)

一、中耕 全上

一、手入れ 蚜蟲、夜盜虫、根切蟲、青蟲ノ驅除ハ絶エズ行ヒ又腐敗病其他ノ病害發生シタル時ハ直ニ被害株ヲ抜き去リ石灰ニテ局部ヲ消毒シ他株ヘ傳染スルヲ防ギタリ

一、收穫 堅ク結球シ球頭ノ褪色ヲ始メタル頃ヲ逸セテ採收シタリ

一、品種試驗 (秋播)

目的 汎ク各品種ヲ蒐集栽培シテ其生育收量等ヲ比較對照シ以テ本縣ノ風土ニ於テ秋播ニ適スル良種ヲ選擇セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地
第一	さつとんす、あぶりる	英國
第二	さつとんす、いむべりある	英國
第三	ぶれこーす、と、つーるらほこる	佛國

第四 中野 早生
 第五 へんだそんす、あーりー、すぶりんぐ
 第六 へんだそんす、あーりー、さむまー
 第七 へんだそんす、さくせつしよん
 第八 札
 第九 ばんだーこー
 第十 ばんだーこー

英 東 米 全 北 米
 國 京 國 道 海 國

一、生育狀況 明治四十五年五月四日ノ暴風雨ニ遭遇シテ倒伏セシモノアリシニ付露ル、ヲ待チテ
 應急ノ手入ヲ施セシモ爲是多少生育ヲ阻害セラレタリ、又大正二年度ハ寒中近年稀ナル厄寒ノタメ
 苗ノ發育甚ダ不良加フルニ定植後抽花スルモノ不尠タメニ全年ノ收量(殊ニ中晩生種)ニ著シキ影響
 ヲ來セリ尙發育經過ヲ示サバ次ノ如ク

區名	品種名	播種期	發芽始	發芽揃	結球始	採收期	播種期	發芽始	發芽揃	結球始	採收期
第一	さつそんす、あぶり	九月廿一日	九月廿四日	九月廿六日	不調	九月廿五日	九月廿五日	九月廿六日	九月廿七日	九月廿八日	九月廿九日
第二	さつそんす、いむべ	九月廿三日	九月廿五日	九月廿七日	全	九月廿七日	九月廿七日	九月廿八日	九月廿九日	十月一日	十月二日
第三	さつそんす、さつ	九月廿一日	九月廿四日	九月廿六日	全	九月廿五日	九月廿五日	九月廿六日	九月廿七日	九月廿八日	九月廿九日
第四	中野 早生	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
第五	へんだそんす、あー	九月廿一日	九月廿三日	九月廿五日	不調	九月廿五日	九月廿五日	九月廿六日	九月廿七日	九月廿八日	九月廿九日
第六	へんだそんす、あー	九月廿一日	九月廿三日	九月廿五日	不調	九月廿五日	九月廿五日	九月廿六日	九月廿七日	九月廿八日	九月廿九日
第七	へんだそんす、あー	九月廿一日	九月廿三日	九月廿五日	不調	九月廿五日	九月廿五日	九月廿六日	九月廿七日	九月廿八日	九月廿九日
第八	へんだそんす、さく	九月廿一日	九月廿三日	九月廿五日	不調	九月廿五日	九月廿五日	九月廿六日	九月廿七日	九月廿八日	九月廿九日

一、特 性
 第九 札
 第十 ばんだーこー

區名	品種名	熟期	球 葉 之 部	結球難易	外葉多少
第一	さつそんす、あぶり	早	形 圓 錐 狀 色 濃 綠 澤 大 小 小	易	少
第二	さつそんす、いむべ	全	形 圓 錐 狀 色 濃 綠 澤 大 小 小	易	少
第三	さつそんす、さつ	全	形 圓 錐 狀 色 濃 綠 澤 大 小 小	易	少
第四	中野 早生	全	形 圓 錐 狀 色 濃 綠 澤 大 小 小	易	少
第五	へんだそんす、あー	全	形 圓 錐 狀 色 濃 綠 澤 大 小 小	易	少
第六	へんだそんす、あー	全	形 圓 錐 狀 色 濃 綠 澤 大 小 小	易	少
第七	へんだそんす、あー	全	形 圓 錐 狀 色 濃 綠 澤 大 小 小	易	少
第八	へんだそんす、さく	全	形 圓 錐 狀 色 濃 綠 澤 大 小 小	易	少
第九	ばんだーこー	全	形 圓 錐 狀 色 濃 綠 澤 大 小 小	易	少
第十	ばんだーこー	全	形 圓 錐 狀 色 濃 綠 澤 大 小 小	易	少

一、收 量 (一畝當)

區名	品種名	明治四十五年度	大正二年度	平均	收 量	試驗年數
第一	さつそんす、あぶり	1100	1170	1135	83%	一
第二	さつそんす、いむべ	1110	1170	1140	83%	一

第三	ぶれこす、ど、つ、 さらふいる	一九、三四〇	二八五	六四、〇四〇	一九七、六九〇	〇、二二一	八四%	二
第四	さつさんす、てんだ し、えんご、つるう	二〇〇	一六、一三〇	—	二二〇、一三〇	〇、一三四	八三%	—
第五	中野 早生	—	—	—	二六八、七五〇	〇、二七一	一〇〇%	—
第六	へんだそんす、あ り、だそんす、あ り、だそんす、あ り、だそんす、あ	—	二二五	七二、五五〇	二六八、七五〇	〇、四二四	八七%	—
第七	へんだそんす、あ り、だそんす、あ り、だそんす、あ	二〇〇	二四五	九三、〇八〇	二五九、〇八〇	〇、四二四	九〇%	二
第八	へんだそんす、あ り、だそんす、あ り、だそんす、あ	一三〇	一五五	一〇一、六五〇	一八三、八〇〇	〇、四三九	九〇%	二
第九	せつしよん	—	一八八	五五、九三〇	一四三、六一、一八〇	〇、四三八	八五%	—
第十	ばんだーじ 札幌	—	一九六	六六、七〇〇	一八六、七〇〇	〇、三五五	九四%	—

備考 表中明治四十五年産ノ收量少キニ失スルハ本縣ノ風土ニ於テ各品種ニ對スル生育程度不明ナリシタメ各品種ニ對シ最大ノ距離即チ畦幅三尺株間二尺五寸ヲ與ヘシ故ナリ

前表ニヨルニニケ年ノ成績ニ稍一致セザル点アルト又試験ヲ重スルコト少キトニヨリ容易ニ斷案ヲ下シ難キモ早生種ニアリテハ品質稍優良ナラザルモ中野早生ヲ以テ最モ有望種ト云フベク中晩生種ニアリテハありり、すぶりんぐ。ありり、さむまわ。及ビさくせつしよん等ヲ良種トス尙ホ試験ヲ繼續シテ決定セン

二、仮植回数試験

目的 甘藍ノ幼苗中仮植回数ノ多少ハ其結球状態及ビ收量ニ如何ナル關係ヲ及ボスカヲ驗知セントス

一、供試品種

へんだそんす、さくせつしよん(秋播)

一、試験區別

第一 一回仮植(發芽揃後約十日ヲ經テ仮植ス)

- 第二 一回仮植(第一回仮植ヲ終ヘタル後約三週間ヲ經テ第二回仮植ヲ行フ)
- 第三 一回仮植(第二回仮植後更ニ三週間ヲ經テ第三回ノ仮植ヲ行フ)
- 一、仮植期 一回十月五日、二回十月廿五日、三回十一月十四日(明治四十四年)十月五日、十月廿七日、十一月十六日(大正元年)

一、生育狀況

概シテ品種試験ニ全シ

一、收量

(一畝當)

區名	試驗區別	明治四十五年	大正元年	二箇年平均收量
第一	一回仮植	七二	一六八	一一五、三五〇
第二	二回仮植	一三〇	一七四	一五二、四一〇
第三	三回仮植	一三六	一四四	一四〇、五〇五

前表ニ依レバ二箇年ノ成績全然背馳シテ一定セズト雖モ之レ其年ノ氣候ニヨリ生ゼル差異ト見ルコトヲ得即チ明治四十四年ハ晩秋温暖ニシテ翌年ニ亘リ冬中寒氣烈シカラザリシニヨリ苗徒長ノ傾向アリ此際仮植回数ヲ多クシテ生育ヲ抑制セシモノハ收量多キガ如ク之レニ反シ大正元年秋末ヨリ大正二年二月ニ至ル冬季ノ氣候ハ近年稀ナル酷寒ナリシヲ以テ苗著シク萎縮シ自然ニ生育ヲ抑制セラレ其際仮植ノ少ナキモノ却テ收量多カリシヲ見タリ然レモ二回仮植ハ兩年共極端ノ差異ナク最モ適當ト認ムルコトヲ得尙試験ヲ重テ確定セントス

三、定植期試験

目的 秋播甘藍ノ定植適期ヲ驗知セントス

一、供試品種 へんだそんす、さくせつしよん
 一、試験區別

區名	定植豫定期	定植日
第一、	十二月初旬	十二月一日
第二、	二月下旬	二月廿四日
第三、	三月上旬	三月十日
第四、	三月下旬	三月廿日

一、生育狀況 第一區ハ定植後生育良好ナリシガ冬季寒氣峻烈ナリシタメ枯死スルモノヲ生ジ根際ニ切藁ヲ敷キテ之ヲ防ギシモ尙ホ苗床ニアルモノニ比シ枯損多シ然レモ第二區定植當時ノ狀況ハ苗床ニ在ルモノヨリ遙ニ生育良好ナリシガ其後暖氣加ハルニ從ヒ早植セシモノ程抽花數多ク收量モ亦少ナシ

一、收量 (一畝當)

區名	定植期	個數	重量	平均一個重量	結球歩合	枯損數	抽花及不結球數
第一	十二月一日	一五〇	四九、一四〇	〇、三二八	七六%	一八	四
第二	二月廿四日	一六八	四八、六〇〇	〇、二八二	八〇%	六	四
第三	三月十日	一六八	五九、八八〇	〇、三三三	九一%	三	四
第四	三月二十日	一六八	五九、九〇〇	〇、三五七	八八%	八	六

四、磷酸成分増減試験

目的 甘藍栽培上磷酸成分ノ増減ハ收量及ビ結球歩合ニ如何ナル影響アルカヲ驗知セントス
 一、供試品種 へんだそんす、さくせつしよん
 一、試験區別

第一、標準肥料區

肥料名	追肥	原肥	室素	加里	磷酸	價額
堆肥	同	三〇、〇〇〇	〇、五六四	〇、三三七	〇、四三一	一、七七〇
大豆粕	同	一、五〇〇	〇、三三七	〇、四三一	〇、四三一	一、七七〇
人糞	同	五、〇〇〇	〇、三三七	〇、四三一	〇、四三一	一、七七〇
精過磷酸石灰	同	一、〇〇〇	〇、三三七	〇、四三一	〇、四三一	一、七七〇
木灰	同	一、〇〇〇	〇、三三七	〇、四三一	〇、四三一	一、七七〇

第二、磷酸二割五分減區

肥料名	追肥	原肥	室素	加里	磷酸	價額
堆肥	同	三〇、〇〇〇	〇、五六四	〇、二五三	〇、四三一	一、七二〇
大豆粕	同	一、五〇〇	〇、二五三	〇、四三一	〇、四三一	一、七二〇
人糞	同	五、〇〇〇	〇、二五三	〇、四三一	〇、四三一	一、七二〇
精過磷酸石灰	同	一、〇〇〇	〇、二五三	〇、四三一	〇、四三一	一、七二〇
木灰	同	一、〇〇〇	〇、二五三	〇、四三一	〇、四三一	一、七二〇

第三、磷酸二割五分増區

肥料名	追肥	原肥	室素	加里	磷酸	價額
堆肥	同	三〇、〇〇〇	〇、五六四	〇、二五三	〇、四三一	一、七二〇
大豆粕	同	一、五〇〇	〇、二五三	〇、四三一	〇、四三一	一、七二〇
人糞	同	五、〇〇〇	〇、二五三	〇、四三一	〇、四三一	一、七二〇
精過磷酸石灰	同	一、〇〇〇	〇、二五三	〇、四三一	〇、四三一	一、七二〇
木灰	同	一、〇〇〇	〇、二五三	〇、四三一	〇、四三一	一、七二〇

區名	試驗區別	個數	重量	平均一 個重量	結球歩合	枯損數	抽花粒數	第四、燐酸五割増區	
								燐酸	窒素
大豆	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、八、〇〇〇	二〇、〇〇〇	〇、四三三	〇、四三三	價額	〇、四三三
人糞	五〇、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、六〇〇	〇、四二二	一〇〇%	一、八三〇	〇、四三三	加里	〇、四三三
堆肥	三〇、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、八四一	〇、六〇〇	一〇〇%	一、八八〇	〇、四三三	燐酸	〇、四三三
大豆	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、八、〇〇〇	二〇、〇〇〇	〇、五五五	〇、五五五	窒素	〇、五五五
人糞	五〇、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、八四一	〇、六〇〇	一〇〇%	〇、四三三	〇、四三三	加里	〇、四三三
堆肥	三〇、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、八四一	〇、六〇〇	一〇〇%	一、八八〇	〇、四三三	燐酸	〇、四三三
精過燐酸石灰	一、四二一	一、〇〇〇	〇、八四一	〇、六〇〇	一〇〇%	一、八八〇	〇、四三三	窒素	〇、四三三
木灰	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、八四一	〇、六〇〇	一〇〇%	一、八八〇	〇、四三三	加里	〇、四三三
第一標準區	一、三七	一、三七	五、二四〇	〇、四二七	七三%	七	七	價額	七
第二燐酸二割五分減區	一、五一	一、五一	五、二二〇	〇、三五一	七〇%	五	五	加里	五
第三全二割五分増區	一、五一	一、五一	五、二二〇	〇、三五一	七〇%	五	五	燐酸	五
第四全五割増區	一、五一	一、五一	五、二二〇	〇、三五一	七〇%	五	五	窒素	五

一、生育狀況 品種試驗ニ全シ
一、收量 (一畝當)

五、春播甘藍品種試驗

目的 數多ノ品種ヲ春播トナシ其生育及收量ヲ比較シ以テ本縣ノ風土ニ適合スル良種ヲ選擇セントス

一、試驗區別

區名	品種名	個數	重量	平均一 個重量	結球歩合	枯損及不結球數	採收期
第一	中野早生	二六	六三、二〇〇	〇、二九二	一〇〇%	一	自八月十八日 至九月十八日
第二	へんだそんす、あーりー、さむまあ	二八	六九、三六〇	〇、三三三	一〇〇%	八	自八月十八日 至九月十八日
第三	へんだそんす、さくせつしよん	二三	九一、二〇〇	〇、四二八	一〇〇%	三	自八月廿一日 至八月三十日
第四	札 幌	二三	七七、二六〇	〇、三六六	一〇〇%	全	自八月十七日 至九月十七日
第五	へんだそんす、おーたむ、きんぐ						
第六	ばんだーごー						

一、生育狀況 苗床中及定植後ハ生育良好ナリシモ七月下旬ヨリ八月中旬ニ至ル結球期間ニ於テ早
熟ヲ來セシ結果幾分結球ヲ促進セシ感アルモ蚜蟲ノ發生夥シク之ガタメ品質及ビ收量ニ多少影響セ
リ

一、收量 (一畝當)

第五	へんだんす、わー たむきんぐ	二〇四	七九、一〇〇	〇、三六七	九六%	枯 不結球	八白八月廿一日 四九九月八日 二白八月廿一日 至九月十七日
第六	ばんだーごー	二〇四	九〇、七〇〇	〇、四四二	一〇〇%	枯	

備考 各品種共二尺五寸畦ニ二尺株間トナセリ

●塘 蒿 (セルリー)

耕種梗概

- 一、苗床 甘藍ニ全シ
- 一、播種量 一畝當一匁
- 一、播種期 四月五日
- 一、播種法 甘藍ニ全シ
- 一、間引 發芽揃後五月十日全月十七日ノ二回ニ別チテ密生部ヲ間引キタリ
- 一、仮植 五月廿五日ニ一回四寸畦ニ三寸株間ノ距離ニ仮植セリ
- 一、定植期 八月十三日
- 一、畦幅 三尺
- 一、株間 一尺
- 一、栽植法 深サ四寸幅五寸位ノ溝畦ヲ一定ノ距離ニ穿チテ原肥ヲ施シ土ト充分混ジ之ニ一株一本宛植付ケタリ
- 一、肥料 (一畝當)

肥料名	追肥	原肥
堆肥	一回二回	一回
大豆粕	一回二回	一回
人糞	一回二回	一回
灰	一回二回	一回

堆肥	三〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	—	窒素	〇、四五〇
大豆粕	一、五〇〇	一、五〇〇	—	—	—	磷酸	〇、一九四
人糞	三〇、〇〇〇	—	七、〇〇〇	一〇、〇〇〇	—	加里	〇、三五一
灰	二、〇〇〇	一、一〇〇	〇、八〇〇	—	—	價額	一、二九〇

- 一、追肥 八月廿三日、九月十五日、十月七日
- 一、中耕 全上
- 一、縛莖 十一月六日、十一月三十日ノ二回ニ分チ莖ノ下部ト上部トニケ所ヲ藁ニテ結縛シ以テ汚泥ノ莖心ニ入ルヲ防ギタリ
- 一、土寄 十一月六日、十一月三十日ノ二回ニ分チテ莖際ニ土寄ヲ行ヒ以テ軟化ヲ促シタリ殊ニ最後ノ土寄ハ可成厚ク高ク土ヲ盛リタリ
- 一、收穫 十二月末ヨリ冬季ニカケテ數回ニ採收シタリ

●瓜 哇 薯 (馬鈴薯)

耕種梗概

- 一、整地 三月上旬鋤ニテ町嚙ニ圃地ヲ耕耘セリ
- 一、栽植期 三月廿七日
- 一、種薯量 一畝當五貫匁餘(約五百四十個)
- 一、種薯豫措 種薯ノ大サ一個十五匁以上ニ及ブモノハ縦ニ扁平部ニ並行シテ折半シ小ナルモノハ單ニ其下端(芽ノ少キ方)ノ一部ヲ裁切シ各切断面ニハ木灰ヲ塗抹シテ腐敗ヲ防ギタリ

一、栽植法 既定ノ間隔ニ畦條ヲ切り所要ノ株間ニ種薯ノ切断面ヲ下伏ニシテ配置シ其側方ニ原肥ヲ施シ一寸五六分ノ厚サニ被土セリ

一、畦幅 二尺
一、株間 一尺
一、肥料 (一畝當)

肥料名	原肥	追肥	窒素	磷酸	加里	價額
堆肥	20,000	10,000	0.1011			
人糞	15,000		0.171			
精過磷酸石灰	0,300			0.208		
灰	1,500	1,500			0.585	

一、追肥 五月五日

一、中耕及土寄 五月五日、五月十九日

一、摘花 瓜哇薯ハ成熟スルニ從ヒ頻リニ花ヲ抽出スルモノナルヲ以テ五月十七日ヨリ六月五日ニ至ル間ニ於テ數回ニ摘花ヲ行ヒタリ

一、手入 疫病發生ヲ慮リ五月廿二日ニ一回二斗五升式ぼると一合劑ヲ撒布シタリ

一、品種試驗

目的 蔬菜用ニ供スル多クノ瓜哇薯品種ヲ蒐集栽培シ以テ當地方ノ風土ニ適スル良品種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地
第一	あーりー、ろーす	米國
第二	もんろー、しーどりんぐ	不詳
第三	ぶらいど、おぶ、あめりかん	米國
第四	あーりー、ぐつどりつち	不詳
第五	ばーばんくす、しーどりんぐ	米國
第六	五郎八	神奈川
第七	ぶらいず、てーかー	米國
第八	だこた	不詳
第九	すのー、ふれーく	米國
第十	赤薯	神奈川

一、生育狀況 五月中旬頃ヨリ点々疫病發生ノ兆アリシヲ以テ五月廿二日ニ二斗五升式ぼると一合劑ヲ撒布シ之レガ傳播ヲ防遏セリ發育經過次表ノ如シ

區名	品種名	栽植期	發芽始	發芽揃	採收期
第一	あーりー、ろーす	三月廿七日	四月十二日	四月廿二日	七月七日
第二	もんろー、しーどりんぐ	全	四月十六日	四月廿三日	全
第三	ぶらいど、おぶ、あめりかん	全	十三日	廿二日	全
第四	あーりー、ぐつどりつち	全	全	全	全

區名	品名	種類	名	總收量	類別	收量
第一	あーりー、ろーす	もんろー、しーざり	んぐ	四、七二六	大	二、三〇〇
第二	もんろー、しーざり	んぐ		四、八二二	大	二、一八六
第三	ぶらいぞ、おぶあめ	りかん		四、三八八	大	一、五五二
第四	あーりー、ぐつざりつ	ち		三、一六八	大	一、一五二
第五	ばーばんくす、しーどりんぐ			三、一五〇	大	九、九〇〇
第六	五郎八			四、四一八	大	二、一六〇
第七	ぶらいす、てーかー			五、四五四	大	一、八三六
第八	だこた			四、八六〇	大	二、五八〇
第九	すのー、ふれーく			六、二七八	大	二、七八〇
第十	赤薯			五、一三〇	大	一、一六〇

區名	品名	種類	名	熟期	草勢	葉色	薯之部	品質
第一	あーりー、ろーす	もんろー、しーざり	んぐ	早	強	緑	扁橢圓	密
第二	もんろー、しーざり	んぐ		早	強	淡緑	扁橢圓	密
第三	ぶらいぞ、おぶあめ	りかん		中	中	緑	扁橢圓	密
第四	あーりー、ぐつざり	ち		中	強	淡緑	扁橢圓	密
第五	ばーばんくす、しーどりんぐ			早	強	淡緑	扁橢圓	密
第六	五郎八			中	強	淡緑	扁橢圓	密
第七	ぶらいす、てーかー			早	中	緑	扁橢圓	密
第八	だこた			早	強	淡緑	扁橢圓	密
第九	すのー、ふれーく			早	強	淡緑	扁橢圓	密
第十	赤薯			早	強	淡緑	扁橢圓	密

二、除藥試驗

目的 瓜哇薯新芽ヲ除藥スルノ利害ヲ明ニセントス

一、供試品種 あーりー、ろーず

一、試驗區別

- 第一 更ニ除藥セズ
- 第二 一株四芽ヲ殘ス
- 第三 一株二芽ヲ殘ス

備考 除藥ハ五月二日ニ施行セリ

一、生育狀況 品種試驗ニ全シ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	總收量			類別		
		個數	重量	量	大	中	小
第一	更ニ除藥セズ	五、三八	三、七〇	六、八〇	二、一七五	二、三三五	
第二	一株四芽ヲ殘ス	四、四五	三、六〇	六、四五	一、八三五	七、一三五	
第三	一株二芽ヲ殘ス	三、二五	二、八〇	三、〇五	一、二七五	一、〇八五	

●牛 蒡

耕種梗概

- 一、整地 四月上旬鍬ニテ充分圃地ヲ深耕セリ
- 一、播種期 四月十六日
- 一、播種量 一畝當一合
- 一、播種法 一定ノ畦幅ニ作條ヲ穿テ原肥ヲ施シテ稍厚ク被土シ鍬ニテ輕ク土表ヲ均ラシ之ニ條播シテ薄ク細土ヲ覆ヒ更ニ其上ヲ輕ク鍬ニテ壓シタリ
- 一、畦幅 二尺
- 一、株間 七寸
- 一、間引 一回五月十二日、二回五月二十八日、三回六月十七日
- 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥				窒素	磷酸	加里	價額
			一回	二回	三回	四回				
堆肥	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇							〇、四二	
大豆粕	一、五〇〇	一、五〇〇							〇、一九	
人糞	三〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇							〇、三七	
灰	三、〇〇〇	一、〇〇〇							一、二七〇	

- 一、追肥 五月三十一日、七月二日、八月三日
- 一、中耕 全上
- 一、手入 九月下旬莖葉ヲ踏折シテ之ガ繁茂ヲ防ギ專ラ根部ノ發育ヲ計リタリ
- 一、收穫 十二月廿四日(大正元年) 十二月十日(大正二年)

一、品種試驗
 目的 數多ノ品種ヲ蒐集栽培シテ其收量及ビ品質ヲ比較對照シ以テ優良ノ品種ヲ選擇セントス
 一、試驗區別

區名	品種名	產地	區名	品種名	產地
第一	東京大長(瀧の川)	東京	第五	札幌	北海道
第二	大	千葉	第六	堀	京都
第三	砂	東京	第七	獨逸	東京
第四	梅	埼玉			

一、生育狀況
 明治四十五年ハ梅田及ビ獨逸白ノ發芽不揃ニテ殊ニ獨逸白ニ於テ甚ダシク爲ニ全年ノ該種收量ハ著シキ減耗ヲ來セリ大正二年度ハ砂川ノ發芽不揃最初頗ル生育ニ遜色アリシモ其後漸ク元氣ヲ恢復スルニ至レリ尙發育經過ヲ示サバ次ノ如シ

區名	品種名	明治四十五年		大正二年	
		播種期	發芽始	播種期	發芽始
第一	東京大長	四月十日	四月廿日	四月十六日	四月廿七日
第二	大	全	全	全	全
第三	砂	全	全廿一日	全	全廿八日
第四	梅	全	全廿一日	全	全三十日
第五	札幌	全	全廿一日	全	全廿七日
第六	堀	全	全	全	全
第七	獨逸	全	全	全	全

一、特性

區名	品種名	根	部	品質
第一	東京大長	細長	細太	中上
第二	大	細長	甚太	中
第三	砂	細長	甚太	中
第四	梅	全	稍太	全
第五	札幌	全	稍太	全
第六	堀	全	稍太	中上
第七	獨逸	全	稍太	稍上

一、收量 (一畝當)

區名	品種名	大正元年	大正二年	平均	均
第一	東京大長	三〇、三六〇、三三〇	六、八五〇、四〇、二八〇、三六、七〇〇	七、五八〇、三七、三三〇、三〇、一五	七、二五
第二	大	五、四七〇、四六、四〇〇	五、〇七〇、三七、九八〇、二、六三〇、一四、三五〇、四、七三〇、三、五〇、一五	九、七二五	二
第三	砂	四、一、三四〇、三五、四〇〇	五、九〇〇、三五、七三〇、一八、〇〇〇、一七、七三〇、三八、五四〇、二六、七〇〇、一、八二〇	八、〇〇〇	二
第四	梅	三、七、九〇〇、三三、七五〇	四、三〇〇、三九、九三〇、二八、一三〇、一、八〇〇、三八、九五〇、三〇、九四〇	七、四五〇	二
第五	札幌	四、九、七〇〇、四、一九〇	七、六九〇、四、〇六〇、三、七五〇	八、〇〇〇	二
第六	堀	四、〇、一六〇、三〇、三八〇	九、七八〇	九、七八〇	一
第七	獨逸	一、五、一九〇、一〇、九七〇	四、三〇〇、五、〇〇〇、三六、二八〇	六、四七〇	二

前表ニ依レバ二個年ノ成績多少齟齬セルモ品質ノ優良ナルハ東京大長、札幌及ビ獨逸白ニシテ收量ニ於テハ二個年ヲ通ジテ札幌ノ成績優秀ナリ而シテ大浦ノ如キハ形狀雄大ナリト雖モ中心ノ空虚甚大ニシテ肉質粗硬良品ト稱シ難シ尙ホ試験ヲ繼續シテ明カニセントス

● 薑

耕種梗概

- 一、整地 四月中旬圃地ヲ町寧ニ耕耘均平セリ
- 一、栽植期 四月廿五日
- 一、種薑量 一畝當四百五十個(約五貫匁)
- 一、栽植法 一個十五匁以上ノモノハ之ヲ切半シ断面ニ木灰ヲ塗付シテ用ヒ十匁内外ノモノハ其儘用ヒ既定ノ畦幅ニ作條ヲ切り之ニ所要ノ株間ニ種薑ヲ配置シテ其傍ニ原肥ヲ施シ稍厚目ニ被土セリ
- 一、畦幅 二尺
- 一、株間 一尺二寸
- 一、肥料 (一畝當)

肥料名	量	原肥	追肥	二肥	窒素	磷	加里	價額
堆肥	二五,000	一五,000	一〇,000	一〇,000	〇,三三三	〇,二四一	〇,二六九	一,一三〇
油粕	一,五〇〇	〇,七〇〇	〇,八〇〇	一,五,000	〇,一〇一	〇,二六九	一,一三〇	
米糠	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇					
人糞	一五,〇〇〇	一,〇〇〇	〇,五〇〇					
藥灰	一,五〇〇							

- 一、追肥 七月七日、七月十四日
- 一、中耕 全上
- 一、敷種 第二中耕後畦上ニ麥稈ヲ敷キテ乾燥ヲ防ギタリ
- 一、收穫 十一月上旬

● 里芋

耕種梗概

- 一、整地 四月上旬鋤ニテ町寧ニ圃地ヲ耕耘均平セリ
- 一、栽植期 四月廿二日
- 一、種芋量 一畝當三貫五百匁(二百八十八個)
- 一、栽植法 種芋ハ粗皮ヲ剝ギ去リ良好ノモノ、ミヲ精選シ豫テ整地セル所ニ既定ノ畦幅ニ作條ヲ稍深ク穿テ所要ノ株間ニ種芋ノ芽ヲ上向ニ配置シ其一側ニ半バ原肥ヲ覆ヒ二寸位ノ厚サニ被土セリ
- 一、畦幅 二尺五寸
- 一、株間 一尺五寸
- 一、肥料 (一畝當)

肥料名	量	原肥	追肥	二肥	窒素	磷	加里	價額
堆肥	三〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇,三九三	〇,二四一	〇,三三四	一,一三〇
大豆粕	一,五〇〇	一,〇〇〇	〇,五〇〇	一,〇〇〇	〇,二四一	〇,三三四	一,一三〇	
人糞	一〇,〇〇〇	一,〇〇〇	八,〇〇〇	一,〇〇〇				
精過磷酸石灰	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,三〇〇	〇,八〇〇				
藥灰	二,〇〇〇	一,一〇〇	〇,八〇〇					

一、追肥 六月二十三日、七月十九日
 一、中耕土寄 全上
 一、敷藁 七月廿六日
 一、手入 六月下旬頃ヨリ頻リニ發生セシ萌蘗ハ悉ク摘除シテ土ヲ覆ヒ伸出ヲ阻止セリ
 一、收穫 大正元年ニハ十一月廿五日ニ、大正二年ハ十一月十七日ニ採掘セリ

一、品種試驗

目的 子芋用及ビ親芋用ノ各品種ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及ビ品質等ヲ調査シ以テ當地方ノ風土ニ適スル良種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地	區名	品種名	原產地
第一	土垂	埼玉	第七	團子	東京
第二	早生	東京	第八	赤子	東京
第三	早生赤芽	東京	第九	赤子	東京
第四	多田	東京	第十	赤子	東京
第五	島田	東京	第十一	赤子	東京
第六	豐後	東京			

一、生育狀況 明治四十五年大正二年兩年共栽植後發芽不良ニシテ鼠害ノタメ腐敗ヲ醸スモノ尠カラザリシガ發芽後ノ生育良好ニシテ殊ニ後年ノ發育頗ル良好ナリ尙ホ發育經過ヲ示セバ次ノ如シ

區名	品種名	大正元年		大正二年	
		栽培期	發芽始	栽培期	發芽始
第一	土垂	四月十五日	五月卅一日	四月廿二日	六月十三日
第二	早生赤	全	全	全	全
第三	早生赤	全	全	全	全
第四	多田	四月十五日	五月十七日	全	全
第五	島田	全	全	全	全
第六	豐團	全	全	全	全
第七	團子	全	全	全	全
第八	赤子	全	全	全	全
第九	赤子	全	全	全	全
第十	赤子	全	全	全	全
第十一	赤子	全	全	全	全

第五	島	芋	全	甚大	綠	全	短	中	多	心臟形	全
第六	豐	後子	全	大	淡綠	全	中	全	上	大樽狀	全
第七	團	芽	全	小	紫綠	全	短	全	全	球狀	全
第八	赤	全	全	中	紫帶赤綠	全	長	全	全	紡錘形	全
第九	赤	芽	全	中	紫帶赤綠	全	少	全	全	棍棒狀	全
第十	赤	頭	全	小	紫綠	全	多	全	全	紡錘小形	全
第十一	唐	芋	全	中	紫綠	全	少	全	全	紡錘小形	全

一、收量 (一畝當)

區名	品種名	大正元年度	大正二年度	平均
第一	土垂	三六、〇〇〇	四四、〇〇〇	四〇、〇〇〇
第二	早生赤	三五、九〇〇	九、三六〇	二二、二六〇
第三	早生赤	二七、〇〇〇	一、〇〇〇	一四、〇〇〇
第四	多田芋	三一、九〇〇	二、一〇〇	一七、〇〇〇
第五	島芋	二八、四〇〇	一、二〇〇	一五、〇〇〇
第六	豐後芋	二六、〇〇〇	一、〇〇〇	一三、〇〇〇
第七	團圓芋	二二、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇
第八	赤芽	二一、八〇〇	七、三〇〇	一四、五〇〇
第九	赤芽	二一、五〇〇	七、一〇〇	一四、三〇〇
第十	赤芽	二一、〇〇〇	六、〇〇〇	一三、五〇〇
第十一	唐芋	一七、〇〇〇	四、八〇〇	一〇、九〇〇

第十一 唐芋 一五、三〇〇 一、七六〇 三、六〇〇 七、二九〇 八、〇〇〇 四、八〇〇 三、一七〇 一七、五〇〇

備考 表中(一)トアルハ一ヶ年ノ收量ニシテ同欄中之ナキモノハ二ヶ年ノ平均收量ナリト識ルベシ

前表ノ事實ニヨリ察スルニ芋用トシテ收量饒多ナルハ多田、島芋、土垂、豊後、早生等ノ諸品種ニシテ就中土垂豊後ノ二種ハ品質優良最モ有望ナルモノ、如ク又島芋、多田早生ノ三種ハ品質良好ナルニ非ルモ性質強健ニシテ收量多キヲ以テ有望品種ニ數フルニ足ル次ニ親芋用トシテ品質優秀ナルハ八ツ頭唐芋、赤芽等ナルモ收量多キヲ以テ品質良好ナラザルモ早生赤芽ハ收量多ク却テ有利ナルモノ、如シ其他莖部食用ニ供セラル、ハすいき最良ニシテ唐芋、八ツ頭、島芋亦可ナリ尙ホ試験ヲ繼續シテ之ヲ決定セシ

一、種芋栽植法試験

目的 種芋ヲ種々ノ方法ヲ以テ栽植セバ其收量及ビ生育ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ驗知セントス

一、供試品種 唐芋

一、試験區別

第一 耕種梗概ニ準ズ

第二 種芋ヲ斜ニ栽植ス

第三 種芋ヲ横ニ栽植ス

第四 種芋ヲ倒ニ即チ芋ヲ下向ニ栽植ス

一、生育狀況 明治四十五年四月十五日栽植セシガ第二區最モ早ク發芽ヲ始メ第一區其翌日ニ第三第四區最モ晩カリキ又各區トモ多少缺損株アリシガ就中第四區甚ダ多ク從ツテ收量最モ減少セリ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	總重量	内譯		欲損數	收量順
			親芋重量	子芋重量		
第一	耕種梗概ニ準ズ	二四、〇〇〇	一三、〇〇〇	一一、〇〇〇	八〇	二
第二	斜植	二四、三〇〇	一五、三〇〇	九、〇〇〇	六〇	一
第三	横植	一九、一〇〇	一一、〇〇〇	八、一〇〇	七〇	三
第四	倒植	一一、四〇〇	六、八〇〇	四、六〇〇	一四〇	四

三、直植對移植試驗

目的 里芋ヲ直植スルト發芽後移植スルトノ優劣ヲ驗知セントス

一、供試品種 唐芋

一、試驗區別

第一 耕種梗概ニ準ス(直植)

第二 發芽芋ヲ定植ス(大正二年四月十一日胡瓜苗床ノ一隅ニ種芋ヲ假植シテ發芽後苗二三寸餘ニ伸長スルヲ待チ五月廿二日六月十四日ノ二回ニ分チテ發芽セシモノヨリ順次定植セリ)

一、生育狀況 第二區ハ温床中ニ假植セシ故從テ發芽早カリシモ第一區ノ發芽始及ビ揃ハ大ニ晚カリシ然レモ發芽揃後ハ生育良好ニシテ遂ニ第二區ヲ凌駕スルニ至レリ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	總重量	内譯		欲損數	收量順
			親芋重量	子芋重量		
第一	直植區	一八、八四〇	一三、一〇〇	五、六四〇	ナ	二
第二	移植區	一九、八〇〇	一三、一〇〇	六、六〇〇	全	一

● 玉蜀黍

耕種梗概

一、整地 四月上旬圃地ヲ鋤ニテ耕耘均平シタリ

一、播種期 四月廿五日

一、播種量 一畝當五合

一、選種及種子豫措 種子ハ顆穗ノ中央部ニアリテ克ク充實シタルモノ、ミヲ選ビ播種前一晝夜間浸水シテ後木灰ヲ塗抹シテ下種セリ

一、播種法 一定ノ畦幅ニ作條ヲ劃シ無肥料ニテ一株四五粒宛ニ点播シ一寸餘ニ覆土セリ

一、畦幅 二尺五寸

一、株間 一尺五寸

一、間引及補植 五月十五日苗三寸内外ニ伸長シタル時ニ間引キテ一株二本立トシ間引苗ハ欲損部ニ補植シタリ

一、肥料 (一畝當)

肥料名	用原	追肥	窒素	磷酸
堆肥	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	〇、一九四	〇、一七〇
大豆粕	〇、七〇〇	〇、七〇〇	—	—

人糞	10,000	0,183
精過磷酸石灰	0,350	0,590
灰	1,500	
加里	10,000	
價額		0,590

一、施肥 五月廿三日(原肥)六月十一日(追肥)
 一、中耕 五月廿三日、六月十一日、七月六日(土寄ヲ兼行ヒタリ)
 一、手入 根際ヨリ叢生セシ蘗芽ハ勉メテ除去シ又莖端ヨリ抽出セシ雄穗ハ之ヲ折リ曲ゲテ受
 精作用ヲ容易ナラシメ一ニ風害ヲ避クルノ用ニ供シタリ

一、品種試驗

目的 顆穗ヲ燒食用ニ供スル諸種ノ玉蜀黍ヲ蒐集栽培シテ其生育、收量及品質等ヲ比較考査シ以テ本
 縣ノ風土ニ適合スル良種ヲ選擇セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地
第一	甲 州 甲 州	山梨
第二	ろんぐ、ふえろ	梨
第三	はうりんぐ、もつぶ	上
第四	かんざりー、ぜんとるまん	上
第五	ごるでん、ばんだむ	上

一、生育狀況 下種後種蠅幼蟲ノ蝕食ヲ被ムリシモ大ナル障碍ヲ來サハリシガ八月廿七日(大正二
 年)ノ暴風雨ニ遭遇シテ悉ク倒伏セシヲ以テ直ニ起立セシメタレ之ガタメ莖梢折損シ草萎ヲ恢復

スル能ハザリキ、尙發育經過ヲ示サバ次表ノ如シ

區名	品種名	播種期	發芽始	發芽揃	採收期
第一	甲 州	四月廿五日	不調	不調	自八月廿八日 至九月十六日
第二	ろんぐ、ふえろ	全	全	全	自八月廿七日 至九月十三日
第三	はうりんぐ、もつぶ	全	全	全	自八月廿三日 至九月十一日
第四	かんざりー、ぜんとるまん	全	全	全	自八月廿三日 至九月十一日
第五	ごるでん、ばんだむ	全	全	全	自八月廿三日 至九月十一日

一、特性及收量 (一畝當)

區名	品種名	草勢	顆穗之部	品質	收量
第一	甲 州	高シ	長短顆粒條例顆粒大小顆粒色澤	上	本數重量 三六九三五、五二〇
第二	ろんぐ、ふえろ	中	長	淡黃	三九八二七、八六〇
第三	はうりんぐ、もつぶ	稍高シ	太長 長サ中	鮮黃	三三三二九、五七〇
第四	かんざりー、ぜんとるまん	中	稍短 長サ中	全白	二九三二八、九八〇
第五	ごるでん、ばんだむ	矮	短	淡黃	三五〇二一、九〇〇

●落花生

耕種梗概 一、整地 四月中旬町疇ニ圃地ヲ耕耘均平セリ

一、播種期 五月二日
 二、播種量 大粒種ハ一畝當五合、小粒種ハ三合五勺
 一、播種法 既定ノ畦幅ニ條溝ヲ南北ノ方向ニ穿テ原肥ヲ施シテ少シク被土シ其上ニ一定ノ株間ニ一株四五粒宛ニ播下シ一寸以内ニ覆土セリ但シ鼠鳥害ヲ防遏スルタメ種子ノ表面ニ少シクこゝるたゝるヲ塗付シタリ

一、畦幅 二尺五寸(但シ荷落花ハ三尺)
 一、株間 一尺五寸
 一、間引 六月五日、六月十八日ノ二回ニ間引シテ一株二本立トナシタリ
 一、肥料 (一畝當)

肥料名	原肥	窒素	價額
堆肥	一五、〇〇〇	〇、〇八七	
精過磷酸石灰	〇、三〇〇	〇、一三七	
灰	一、五〇〇	〇、一四三	
			〇、一〇〇

一、中耕土寄 六月十八日、七月三日、七月十六日(但シ荷落花生ハ二回トス)
 一、收穫期 十月廿三日
 一、乾燥期 自十月廿四日至十一月二日(第一回乾燥)
 自十一月二日至十一月六日(洗滌後ノ乾燥)
 一、洗滌 子實ヲ摘取シテ十一月三日ニ水ニテ充分洗滌シ更ニ乾燥ヲ繼續セシコト右ノ如シ

一、品種試驗

目的 數種ノ落花生ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及ビ品質ヲ比較シ其優劣ヲ明カニセントス
 一、試驗區別

第一 立落花生
 第二 小粒落花生
 第三 匍落花生
 一、生育狀況 二ヶ年共生育上ニ特記スルコト少カリシガ何レモ秋季ニ至リ多少鳥害ヲ被ムレリ尙發育經過ヲ表示セバ左ノ如シ

區名	品種名	播種期	發芽始	發芽揃	開花始	播種期	發芽始	發芽揃	開花始
第一	立落花生	五月一日	五月十七日	五月三十日	不調	五月二日	五月廿六日	六月四日	七月六日
第二	小粒落花生	全	全十四日	全	全	全	全	全三日	全
第三	匍落花生	全	全廿一日	全	全	全	全	全五日	全十一日

一、特性

區名	品種名	草勢	葉色	葉部	内實ノ色澤	品質
第一	立落花生	直立	濃綠	大	淡褐	一
第二	小粒落花生	匍全	淡綠	中	濃紅	三
第三	匍落花生	匍全	綠	小	淡褐	二

區名	品種名	大正元年度		大正二年度		二個年平均收量		子實ト内實トノ比
		子實	蔓	子實	蔓	子實	蔓	
第一	立落花生	六、三〇〇	六、六〇〇	四、八八〇	七、三四〇	五、二二〇	八、九八〇	子實一貫ニ付内實〇、七五〇*
第二	小粒落花生	二、三七〇	四、六八〇	五、三〇〇	八、三三〇	三、八四〇	六、四六〇	〇、七五〇
第三	旬落花生	九、六〇〇	五、〇〇〇	五、九〇〇	一〇、〇一〇	七、七六〇	一、五二〇	〇、六二〇

備考 右ノ收量ハ何レモ乾燥重量ニシテ又子實トハ莢付ノ儘内實トハ莢ヲ去リタルモノヲ指示ス、尙ホ子實一貫毎ニ對スル内實重量ハ大正二年度一回ノ調査ナリ

右表ニヨレバ二個年ノ成績ニ少シク一致ヲ缺ク点ナキニ非レモ要スルニ品質ニ於テハ立落花生首位ヲ占メ小粒落花生最モ劣リ收量ハ旬落花生二個年共最高位ニアルノミナラズ品質亦良好ナルヲ以テ本種ハ三品種中最モ有望ナリ加フルニ蔓ノ最モ多ク肥料トシテノ價值亦大ナルヲ知ルベシ唯其性旬菊スルヲ以テ採收ニ稍不便ナルノ缺点アルノミ尙ホ試験ヲ重ネテ確定セントス

葱

耕種梗概

- 一、苗 床 甘藍ニ全シ
- 一、播種期 四月五日
- 一、播種量 (一畝當四勺)
- 一、播種法 苗床整地ヲ終ヘテ三四日ヲ經バ床面ヲ均ラシ約四寸ノ畦幅ニ播條ヲ板又ハ籬ニテ淺ク設ケ其中ニ密ニ失セザル様種子ヲ條播シ薄ク被土シタル後板ニテ表面ヲ輕壓シ如露ニテ灌シ尙ホ其上ニ糞ヲ薄ク覆ヒテ乾燥ヲ防ギタリ

- 一、床ノ坪數 四勺ノ種子ハ約二坪ノ床面ニ播下セリ
- 一、床中ノ手入 發芽後糞ヲ撤去シテ苗三寸位伸長セシ時ト四寸餘ニ生長シタル時トノ二回ニ密生部ヲ間引キテ苗ノ發育ヲ均一ナラシメ雜草ヲ除キ間引ノ都度條間ヲほ一類ニテ中耕シ以テ苗床ノ固結ヲ防ギタリ
- 一、假植期 六月十九日
- 一、假植法及ビ假植中ノ手入 播種床ト全様ノ苗床ヲ準備シ之ニ八寸餘ノ畦幅ニ一寸位ノ株間ニ一本宛植ヘ付ケ活著後即チ六月廿四日、七月二日、七月十日ノ三回ニ別チ水ニテ倍量ニセシ人糞尿ヲ施與シ全時ニ中耕除草ヲ行ヒタリ肥料ノ分量ハ一回分十坪ニ付キ水ヲ混ゼザル人糞尿約三貫匁ヲ用ヒタリ
- 一、本圃整地 七月中旬畝ニテ深ク町嚙ニ耕耘均平セリ
- 一、定植期 七月二十九日
- 一、畦 幅 三尺一、二尺五寸一、二尺
- 一、株 間 三寸
- 一、苗ノ選擇 苗ハ眞直ニシテ葉色ノ濃淡ニ失セザル中庸ナルモノニシテ且シ分蘗セズシテ(但シ分蘗種ハ例外ナリ)長サ一尺以上ニ伸長セシモノ、ミヲ選ビテ栽植用ニ供セリ
- 一、作畦及栽植法 豫テ整地シ置キタル圃地ヘ既定ノ距離ニ東西ノ方向ニ長ク深サ七寸(短莖種ハ四寸)幅五寸餘ノ整然タル溝畦ヲ穿チ更ニ其底部ヲ淺ク耕シテ原肥ヲ投シ畝ニテ土ト克ク混和シ然ル後選別シタル苗ノ粗皮ヲ剝キテ一株一本宛ニ溝畦南側ニ接シ眞直ニ立テカケ根ヲ全部北側ニ配置シテ町嚙ニ根元ヲ揃ヘ鬚根ノ隠ル、マデ土ヲ被ヒ以テ其倒伏セザル様植付ケタリ
- 一、肥料 (一畝當)

肥料名	追肥回数	原肥		追肥	
		原	肥	原	肥
堆肥	1	110,000	10,000	1	0,479
大豆粕	1	1,000	0,500	1	0,311
人糞	1	3,500	8,000	1	0,410
灰	1	3,000	0,700	1	1,410
窒素				價額	
磷酸					
加里					

一、追肥 八月二十日、九月十一日、十月十一日
 一、土寄 八月二十日、九月十一日、十月十一日、十一月三日、十一月三十日
 一、土寄法 第一回追肥後畦間ノ土ヲ鍬ニテ細碎シ僅ニ肥料ノ隠ル、程度ニ薄ク土ヲ覆ヒ其後此上ニ第二回追肥ヲ施シ第一回ト同様極メテ薄ク土ヲ覆ヒ尙ホ第三回追肥後ニ第一回第二回ヨリモ稍厚ク土寄ヲ行ヒ糞ニ穿チタル溝畦ノ八九分通りヲ埋メ終レリ其後ニ別チテ厚ク土寄シ殊ニ最後ノ土寄ハ最モ厚ク行ヒ終ニ一尺五六寸ノ深サニナシタリ但シ短莖種ハ此レヨリモ少ク土寄セリ

一、收穫 十二月末ヨリ順次採收セリ

一、品種試驗

目的 現今知名ノ葱ヲ蒐集栽培シ其生育收量及品質ノ良否ヲ比較研究シ以テ本縣ノ風土ニ適スル優種ヲ選擇セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地
第一	東京根	東京
第二	千住	全川
第三	金澤	石川
第四	札幌	札幌
第五	尾張根	愛知
第六	下仁	群馬
第七	岩田	埼玉
第八	九條	京都
第九	水戸薄赤	茨城

一、生育狀況 明治四十五年七月上旬頃ヨリ假植床中ニテ赤澁病ノ發生ヲ來セシヲ以テ三斗式ぼると一合劑ヲ撒布豫防セリ又全年九月廿三日ノ暴風雨ニ遭過シ悉ク(本圃ニテ)倒伏セシヲ以テ直ニ起直セシモ之ガタメ多少生育ヲ損セシモノ、如シ、大正二年度ハ定植後早魃ノタタ活着遅延シ從テ其生育上多少影響セリ、尙發育經過ヲ表示セバ左ノ如シ

區名	品種名	大正元年度		大正二年度		畦幅
		播種期	發芽始	播種期	發芽始	
第一	東京根	三月廿一日	四月十日	四月五日	四月十四日	三、〇
第二	千住	全	全	全	四月廿三日	全
第三	金澤	全	全	全	全	二、五
第四	札幌	全	全	全	全	全
第五	尾張根	全	全	全	全	全

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九
東京根深	千住	金澤	札太	尾張	下仁	岩槻	水戸	水戸薄赤
少	全	全	多	全	少	多	全	中
二、六〇	二、五〇	二、三〇	一、八〇	二、二〇	一、六〇	一、八〇	二、二〇	二、三〇
軟化部	軟化部	軟化部	軟化部	軟化部	軟化部	軟化部	軟化部	軟化部
全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全
四月十五日	四月十五日	四月十五日	四月十五日	四月十五日	四月十五日	四月十五日	四月十五日	四月十五日
二、〇	全	全	全	全	全	全	全	全

一、特性 (但シ發育中庸ナルモノニ就テ調査セリ)

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九
東京根深	千住	金澤	札太	尾張	下仁	岩槻	水戸	水戸薄赤
少	全	全	多	全	少	多	全	中
二、六〇	二、五〇	二、三〇	一、八〇	二、二〇	一、六〇	一、八〇	二、二〇	二、三〇
軟化部	軟化部	軟化部	軟化部	軟化部	軟化部	軟化部	軟化部	軟化部
全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全
四月十五日	四月十五日	四月十五日	四月十五日	四月十五日	四月十五日	四月十五日	四月十五日	四月十五日
二、〇	全	全	全	全	全	全	全	全

一、收量 (一畝當)

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九
東京根深	千住	金澤	札太	尾張	下仁	岩槻	水戸	水戸薄赤
七九、〇〇〇	四九、〇〇〇	四、四〇〇	三、五〇〇	三、〇〇〇	五、八〇〇	四、八〇〇	四、八〇〇	四、五〇〇
大正元年度	大正元年度	大正元年度	大正元年度	大正元年度	大正元年度	大正元年度	大正元年度	大正元年度
八、五〇〇	三、五〇〇	二、六〇〇	五、四〇〇	五、四〇〇	六、八〇〇	七、八〇〇	三、三〇〇	六、二五〇
大正二年度	大正二年度	大正二年度	大正二年度	大正二年度	大正二年度	大正二年度	大正二年度	大正二年度
六、五〇〇	六、二五〇	三、九七〇	四、二〇〇	四、二〇〇	三、七〇〇	三、三〇〇	二、五〇〇	五、一五〇
中	上	中	上	中	上	中	上	中
六、二五〇	七、〇〇〇	四、二〇〇	四、二〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	二、五〇〇	五、一五〇
中	上	中	上	中	上	中	上	中
六、二五〇	七、〇〇〇	四、二〇〇	四、二〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	二、五〇〇	五、一五〇
全	全	全	全	全	全	全	全	全
七四、二五〇	五九、八八〇	四、四〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	五、八〇〇	四、八〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
七四、二五〇	五九、八八〇	四、四〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	五、八〇〇	四、八〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇
二	二	二	二	二	二	二	二	二

以上ノ事實ヲ綜合スルニ軟白部用ノ太葱ニアリテハ東京根深及ビ千住最モ優良多産ニシテ金澤ト下仁田トハ金澤稍勝ルモノ、如ク札太及ビ尾張根深ハ細長ニシテ分蘖多キヲ以テ太葱トシテノ價值殆ントナシ又葉葱トシテ品質良好收量多カラザルハ九條ニシテ水戸薄赤ハ品質九條ニ一籌ヲ輸スルモ栽培客易ニシテ收量亦饒多ナルヲ以テ有望種ニ數フルニ足ラン尙ホ試験ヲ結績スベシ

一、株間廣狹對栽植本數試驗

目的 太葱ヲ栽植スルニ當リ幾何ノ株間トスルヲ得策トナスカ併セテ一株ニ對スル本數多少ハ其收量品質ニ如何ナル影響アルカラ驗知セントス

一、供試品種 東京根深

一、試驗區別

- 第一 二寸株間一本植
- 第二 三寸株間一本植

- 第三 三寸株間二本植
- 第四 四寸株間一本植
- 第五 四寸株間二本植

一、生育狀況 概略品種試驗ニ全シ
一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正元年度		大正二年度		二個年 平均收量	備考
		總重量	中以上品	中以下品	總重量		
第一	二寸株間一本植	八四、〇〇〇	六七、二〇〇	二六、八〇〇	六六、六〇〇	六二、六〇〇	六、〇〇〇
第二	三寸株間一本植	七五、二〇〇	六三、四〇〇	一一、七二〇	六六、八〇〇	六一、二〇〇	五、六〇〇
第三	三寸株間二本植	九〇、〇〇〇	六二、二〇〇	二八、八〇〇	七五、四〇〇	六八、四〇〇	七、〇〇〇
第四	四寸株間二本植	七〇、三〇〇	六二、四〇〇	七、九二〇	六一、二〇〇	六〇、〇〇〇	一、二〇〇
第五	四寸株間二本植	八二、八〇〇	六二、四〇〇	二〇、四〇〇	六九、〇〇〇	六一、〇〇〇	七、〇〇〇

前表ニ依レバ收量ニ於テ三寸株間二本植區最高位ヲ占メ二寸株間一本植區ト四寸株間二本植區ト互ニ相伯仲シ三寸株間一本植區之ニ順次シ四寸株間一本植區最劣ルト雖モ外觀品質ノ相揃ヒテ優良ナルハ正ニ收量ト反比例シ第三、第一、第五ノ諸區ハ假令收量ニ於テ勝ル所アルモ中以上品ノ歩合比較的尠キノミナラズ是ヲ第四、第二區ノ中以上品ニ比スルニ遙ニ遜色アルヲ以テ從テ市場價額モ低廉ナルヤ必セリ是ヲ以テ其總價額ニ於テ或ハ却テ三寸株間一本植區四寸株間一本區ハ他三區ニ勝ラン殊ニ三寸株間一本植區ヲ最モ得策ナリト信ズ

三、剪根試驗

目的 葱定植ノ際其根及ビ葉ノ一部分ヲ剪去スルヲ有利ナリト説ク者アリ仍テ本試驗ニ於テハ斯法ノ利害及ビ其程度ヲ驗知セントス

一、供試品種 東京根深
一、試驗區別

- 第一 葉根共ニ剪去セズ(耕種梗概ニ準ズ)
- 第二 葉根共ニ全長ノ三分ノ一ヲ剪去ス
- 第三 全上二分ノ一ヲ剪去ス

一、生育狀況 品種試驗ニ全シ
一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正元年度		大正二年度		二個年 平均收量	收量順
		總重量	中以上品	中以下品	總重量		
第一	葉根共ニ剪去セズ	七八、八五〇	七三、〇〇〇	五、八五〇	六九、八〇〇	六八、八〇〇	一
第二	全上全長三分ノ一剪去	七四、〇〇〇	六五、〇〇〇	九、〇〇〇	六〇、五〇〇	五七、五〇〇	二
第三	全上二分ノ一剪去	六六、〇〇〇	五六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五九、五〇〇	五八、〇〇〇	三

右ノ成績ニヨレバ二個年ヲ通ジテ葉根ヲ剪去セザルモノ、收量最多ニシテ剪去ノ度酷ナルニ從テ次第ニ收量ヲ減ズルヲ識ルベシ依是見レバ太葱栽培上葉根剪去ノ必要ヲ認メザルノミナラズ却テ有害ナルコトヲ驗知シ得タリ

● 胡蘿蔔

耕種梗概

一、整地 七月九日鍬ニテ町寧ニ圃地ヲ深耕均平セリ

一、播種期 七月二十日

一、播種量 一畝當三合(但毛無種)

一、播種法 一定ノ畦幅ニ作條ヲ切リテ原肥ヲ施シ其上ニ被土シ鍬ニテ輕ク表面ヲ拘ラシ之ニ密ニ失セザル様條播シ薄ク細土ヲ篩ヒカケ乾燥ヲ防グタメ薄ク覆藁ヲ成シタリ

一、畦幅 一尺五寸

一、株間 六寸(發芽後數回ニ間引キテ一定ノ株間トナス)

一、間引 八月七日、八月廿八日、九月九日

一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥	窒素	磷酸	加里	價額
堆肥	20,000	20,000	一回	0.38			
米糠	1,500	1,500	一回	0.19			
人糞	30,000	8,000	一回	0.29			
灰	11,000	1,100	一回			1.070	

一、追肥 八月廿九日、九月廿二日

一、中耕 八月廿九日、九月廿三日、十月六日

一、收穫 十二月四日

一、品種試驗

目的 普ク各品種ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及ビ品質ヲ比較シ以テ當地方ノ風土ニ適スル良種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地
第一	札幌大長	札幌
第二	金時	大坂
第三	三寸	東京
第四	東京大長	東京
第五	さつとんす、ちやんびかん、すかーれつと、ほーん	英國
第六	かつくす、はーと	英國
第七	さつとんす、あーりー、ぜむ	英國
第八	もーりす、ろんぐ、おれんじ	佛國
第九	たんばーす	佛國
第十	こーるでん、ぼーる	佛國

一、生育狀況 大正元年播種當時ハ早魃ノタメ發芽不揃トナリ殊ニ三寸種ノ發芽最モ不良ニテ爲メニ該種全年ノ收量ニ甚大ノ打撃ヲ蒙ムレリ大正二年度下種當時ハ多少早害ヲ被ムリシモ前年ニ比シ被害輕少ナリ發育經過左ノ如シ

區名	品種名	大正元年	大正二年
第一	札幌大長	播種期 七月廿日 發芽始 七月廿四日 發芽揃 八月一日	播種期 七月廿日 發芽始 七月廿四日 發芽揃 七月卅一日

區名	品名	種類	葉ノ多少	根	色澤	長短	部	品質
第二	金	時寸	全	全	全	全	全	全
第三	東	大長	全	全	全	全	全	全
第四	京	大長	全	全	全	全	全	全
第五	東	大長	全	全	全	全	全	全
第六	京	大長	全	全	全	全	全	全
第七	東	大長	全	全	全	全	全	全
第八	京	大長	全	全	全	全	全	全
第九	東	大長	全	全	全	全	全	全
第十	京	大長	全	全	全	全	全	全

第一	札	大長	多	形	濃	長	肉	上
第二	金	時寸	全	長	深	短	質	中
第三	東	大長	少	全	黃	細	中	上
第四	京	大長	多	棒	濃	短	中	上
第五	東	大長	少	圓	黃	小	中	中
第六	京	大長	中	鈍	赤	甚	中	全
第七	東	大長	全	圓	赤	短	中	上
第八	京	大長	多	長	濃	長	中	中

一、收量(一畝當) (但シ重量ハ根部ノミヲ坪量セシモノナリ)

區名	品名	種類	大正元年度	大正二年度	一個年平均收量	試驗年數
第一	札	大長	四、七五〇	一、一〇〇	一、〇〇九、七〇〇	二
第二	金	時寸	三、三〇〇	九、九五	一、〇三六、九六〇	二
第三	東	大長	二、七〇〇	一、一〇〇	九、〇三三、四九〇	二
第四	京	大長	三、五〇〇	一、一〇五	九、五四〇、九四〇	二
第五	東	大長	四、七〇〇	一、一五五	一、〇五三、六〇八	二
第六	京	大長	二、三〇〇	一、二〇〇	八、〇四一、六二〇	二
第七	東	大長	五、八〇〇	一、二〇〇	八、〇六一、二九〇	二
第八	京	大長	四、四〇〇	一、二五〇	七、五四九、三三〇	二
第九	東	大長	三、一〇〇	一、四〇〇	一、〇七二、四〇〇	二
第十	京	大長	三、三〇〇	一、一〇〇	一、〇三三、五〇〇	二

前表ニ依リ本邦種中收量品質共ニ優レタルハ札幌及ビ東京大長ノ二種ニシテ就中札幌ヲ有望トス金時ノ如キハ色澤濃厚世人ノ嗜好ニ投ズルモ品質前二種ニ一步ヲ譲リ且ツ煮熟後著シク色澤ヲ不良ナラシムルニヨリ良種ト稱シ難ク三寸ハ其原種洋種ナルヲ以テ性質洋種ニ類シ品質優良且ツ早生ナルヲ以テ年數回ニ播種採收シ得ルノ利アリ唯其收量ノ少キハ聊カ缺點トス洋種中も一りするんぐかれんじヲ除ク外ハ一般ニ本邦種ト形質ヲ異ニシ根形短太ナルヲ以テ調理ニ際シ根端ノ截去セラルル部分少ク加フ

ルニ香氣高キコト本邦種ノ之レニ比スベキモノナシ就中さつとんすありせむノ如キハ品質卓絶收量亦饒多ナルヲ以テ最良種ニ數フベシ之ニ次テハたんばありすニシテ栽培容易收量亦他種ニ冠タリ唯其品質前種ニ一籌ヲ輸スルノ缺點アルノミ尙ホ試験ヲ重ネテ確報スル所アルベシ

一、窒素成分増減試験

目的 胡蘿蔔栽培上窒素成分ノ多寡ニヨリ其收量及品質ニ如何ナル關係アルカヲ驗知セントス

一、供試品種 東京大長

一、試験區別

第一、標準肥料區

肥料名	追肥		窒素	加里	磷
	一回	二回			
堆肥	20,000	20,000	0,318	0,196	0,318
米糞	1,500	1,500	0,196	0,292	0,196
人糞	30,000	30,000	1,090	0,292	0,196
灰	2,000	2,000	0,800	0,292	0,196
堆肥	20,000	20,000	0,800	0,292	0,196
糠	1,500	1,500	0,800	0,292	0,196
尿	30,000	30,000	1,090	0,292	0,196
堆肥	20,000	20,000	0,800	0,292	0,196
糠	1,500	1,500	0,800	0,292	0,196
尿	30,000	30,000	1,090	0,292	0,196

第二、窒素二割五分増區

堆肥	20,000	1,100	0,800	0,292	0,196
米糞	1,500	1,100	0,800	0,292	0,196
人糞	30,000	1,100	0,800	0,292	0,196
灰	2,000	1,100	0,800	0,292	0,196
堆肥	20,000	1,100	0,800	0,292	0,196
糠	1,500	1,100	0,800	0,292	0,196
尿	30,000	1,100	0,800	0,292	0,196
堆肥	20,000	1,100	0,800	0,292	0,196
糠	1,500	1,100	0,800	0,292	0,196
尿	30,000	1,100	0,800	0,292	0,196

第三、窒素五割増區

堆肥	20,000	3,000	1,000	0,477	0,292
米糞	1,500	3,000	1,000	0,477	0,292
人糞	30,000	3,000	1,000	0,477	0,292
灰	2,000	3,000	1,000	0,477	0,292
堆肥	20,000	3,000	1,000	0,477	0,292
糠	1,500	3,000	1,000	0,477	0,292
尿	30,000	3,000	1,000	0,477	0,292
堆肥	20,000	3,000	1,000	0,477	0,292
糠	1,500	3,000	1,000	0,477	0,292
尿	30,000	3,000	1,000	0,477	0,292

第四、窒素二割五分減區

堆肥	20,000	2,000	6,000	0,292	0,292
米糞	1,500	2,000	6,000	0,292	0,292
人糞	30,000	2,000	6,000	0,292	0,292
灰	2,000	2,000	6,000	0,292	0,292
堆肥	20,000	2,000	6,000	0,292	0,292
糠	1,500	2,000	6,000	0,292	0,292
尿	30,000	2,000	6,000	0,292	0,292
堆肥	20,000	2,000	6,000	0,292	0,292
糠	1,500	2,000	6,000	0,292	0,292
尿	30,000	2,000	6,000	0,292	0,292

一、生育狀況 品種試験ニ全シ

一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	總收量		類別	中本	下數
		根ノ重量	本			
第一	標準區	60,100	1100	六四	三六〇	一五
第二	窒素二割五分増區	55,800	1100	七四	二四〇	二六

第三	窒素五割増區	六一,100	1100	六四	300	三四
第四	窒素二割五分減區	四九,100	1100	六七	四四	八

● 蘿 蔔

耕種梗概

- 一、整地 七月末鋤ニテ町罫ニ圃地ヲ深耕均平セリ
- 一、播種期 八月一日(大形種及早生種) 八月十九日(中小形種)
- 一、播種量 一畝當八勺(但シ大形種ハ四勺)
- 一、播種法 既定ノ畦幅ニ作條ヲ切リ原肥用人糞尿ヲ水ニテ倍量ニセシモノヲ先ヅ溝底ニ施シ然ル後他ノ原肥ヲ株間ノ半分長サニ点々敷キ其側傍即チ人糞尿ノ上ニ少シク被土シ其上ニ一株十粒許リ宛点播シ細碎シタル土ヲ三四分ノ厚サニ覆ヒ發芽ヲ均一ナラシムルタメ鋤ニテ輕ク其上ヲ壓シ置キタリ
- 一、畦幅 二尺五寸(大形種) 二尺(中小形種)
- 一、株間 二尺(大形種) 一尺五寸(中形種) 一尺(小形種)
- 一、間引 八月七日、八月十二日、八月廿一日、八月廿八日 (以上八月一日播)
- 一、肥料 八月廿八日、九月三日、九月六日、九月十六日 (以上八月十九日播)

肥料名	甲、煮食用種	追	一回	二回	三回	肥
-----	--------	---	----	----	----	---

堆肥	二五,000	一八,000	七,000			0,450
大豆粕	一,500	一,500				0,26
人糞	三五,000	七,000	八,000	10,000	10,000	0,26
精過磷酸石灰	0,400	0,400				0,40
灰	三,500	二,000	一,500			1,440
堆肥	二〇,000	二〇,000				0,35
糠	二,500	二,500				0,25
尿	三,000	六,000	八,000	九,000	九,000	0,35
灰	三,000	二,000	一,000			1,30

- 一、追肥 八月廿五日、九月十六日、十月七日 (大形種)
八月廿五日、九月四日、九月十六日 (早生種)
九月六日、九月廿五日、十月十一日 (八月十九日播)
- 一、中耕 全上
- 一、手入 毎年九月上旬ヨリ乾風吹キ荒ムヲ以テ間引ノ序ニ幼苗ノ根際ニ少シク土ヲ寄セテ倒伏ヲ防ギタリ其他害虫ノ驅除ハ怠ラズ行ヒタリ
- 一、收穫 美濃九日種ハ十月十日其他ハ十一月廿八日

一、品種試驗

目的 諸種ノ蘿蔔ヲ蒐集栽培シ各用途ニ從ヒ收量及品質ヲ比較調査シ以テ本縣ノ風土ニ適應スル良種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品名	甲、煮食用種	原產地	乙、漬物用種	
				播種期	發芽始
第一	聖馬護	京都			
第二	鞍馬	愛知			
第三	方領	愛知			
第四	德方	愛知			
第五	德方	愛知			
第六	太州	清國			
第一	宮重尻丸	愛知			
第二	宮重尻丸	愛知			
第三	島重尻丸	岐阜			
第四	練馬尻	東京			
第五	練馬尻	東京			
第六	美濃九日	茨城			
第七	美濃九日	千葉			

一、生育狀況
大正元年度播種發芽後ハ早魃ニ加フルニ強烈ナル乾風吹キ荒ミ爲メニ幼苗葉綠ヲ摩

擦損傷シ發育ヲ阻害セシコト不尠尙全年九月廿三日ノ暴風ニ遭遇シテ多大ノ損害ヲ蒙ムレリ、大正二年度ハ八月廿七日ノ暴風雨ニ各葉綠擦傷ヲ受ケ或ハ土中ニ埋沒セラレタル爲生育ヲ害セラレシコト多ク加之九十兩月ニ涉リテ降雨頻繁過濕ノタメ早播殊ニ大形種ニ腐敗病ノ發生ヲ醸シ被害寡少ナラズ今發育經過ヲ示サバ次表ノ如シ

區名	品名	甲、煮食用種	大正元年度		大正二年度		畦幅	株間
			播種期	發芽始	播種期	發芽始		
第一	聖馬護	院口	八月四日	八月七日	八月一日	八月四日	二、五	二、〇
第二	鞍馬	領口	八月廿日	八月廿五日	八月十九日	八月廿二日	二、〇	一、五
第三	方領	領口	八月廿日	八月廿五日	八月十九日	八月廿二日	二、〇	一、五
第四	德方	利州	八月廿日	八月廿六日			二、〇	一、五
第五	德方	利州	八月廿日	八月廿六日			二、〇	一、五
第六	太州	白州	八月廿日	八月廿六日			二、〇	一、五
第一	宮重尻丸	細丸	八月廿日	八月廿五日	八月十九日	八月廿二日	二、〇	一、五
第二	宮重尻丸	細丸	八月廿日	八月廿五日	八月十九日	八月廿二日	二、〇	一、五
第三	島重尻丸	村丸	八月廿日	八月廿六日			二、〇	一、五
第四	練馬尻	丸	八月廿日	八月廿六日			二、〇	一、五
第五	練馬尻	丸	八月廿日	八月廿六日			二、〇	一、五
第六	美濃九日	上	八月廿日	八月廿四日			二、〇	一、五

第七 美濃 九日 全 十日 全 十三日 全 十五日 全 一日 全 四日 全 七日 全 全

備考 大正元年度ニハ聖護院鞍馬口二種ヲ除ク外全部一尺様間トナシタリ
一、特 性

區名	品名	熟期	葉之部	根之部	品質
第一	聖護院	晚	直立	球形	多
第二	鞍馬	全	下垂	球形	中
第三	方領	全	下垂	球形	上
第四	德方	全	下垂	球形	上
第五	菜州	中	開張	圓筒	中
第六	太菜	全	開張	圓筒	下

甲、煮食用種

乙、漬物用種

第七 美濃 九日 極早 直半立開 全 多 長圓先 全 細長 全 中

一、收 量 (一畝當)

甲、煮食用種

區名	品名	種類	大正元年度	大正二年度	三ヶ年平均收量
第一	聖護院	馬警	根ノ重量 葉ノ重量 本數	根ノ重量 葉ノ重量 本數	根ノ重量 葉ノ重量 本數
第二	鞍馬	馬警	一六〇、二八〇、二五〇、五〇〇	二二六、一四一、九〇〇、一七〇	二一六、一七〇、三〇〇、二四〇
第三	方領	馬警	一七〇、四〇〇、三〇〇、六〇〇	二四一、六〇〇、四〇〇、四〇〇	一八九、一七〇、〇〇〇、二四〇
第四	德方	馬警	一四七、八八〇、五〇〇、二〇〇	五三三、二七〇、〇〇〇、三〇〇	三六〇、一四〇、九〇〇、四一七、七〇〇
第五	菜州	馬警	一七〇、九五〇、四〇〇、八八〇	五五五、一四三、二五〇、三〇〇、六八〇	三四五、一七〇、八五〇、五〇〇、四八〇
第六	太菜	馬警	九〇、八三〇、一四〇、二五〇	五三三、	三二八、九〇〇、三三〇、四〇〇、二四〇
第一	宮重尻丸	馬警	一六七、二五〇、四三〇、三〇〇	五三三、一三〇、一三〇、二八、九五〇	三六〇、一七九、二三〇、四三〇、〇、五〇〇
第二	宮重尻丸	馬警	一四〇、〇〇〇、四〇〇、〇〇〇	五四〇、二八、六三〇、三三、一〇〇	一七三、七九〇、四三〇、五〇〇、〇、三六三
第三	島村	馬警	一三〇、三五〇、三七〇、二八〇	五三三、九二、六三〇、二五、一三〇	一五〇、五八〇、四三〇、七四〇、〇、三三〇
第四	練馬尻丸	馬警	一三七、一八〇、三三〇、九三〇	五三三、一三三、三六〇、三〇、〇〇〇	一五三、九〇〇、四一、五三〇、〇、三三〇
第五	練馬尻丸	馬警	一一五、五〇〇、四六〇、五〇〇	五三三、二二、八八〇、二五、一三〇	一四〇、二五〇、四五、九六〇、〇、二七五
第六	金濃	馬警	一〇八、一五〇、四〇、三五〇	五三三、七〇、五〇〇、二八、一三〇	八九、三三〇、三四、二四〇、〇、一七〇
第七	美濃	馬警	七五、四〇〇、四一、二九〇	五三三、九七、三五〇、四三、九五〇	八四、七一〇、四四、四一〇、〇、一七四

甲、煮食用種

乙、漬物用種

備考 表中(二)トアルハ二ヶ年ノ平均成績ニシテ之無キモノハ三ヶ年ノ平均成績ナリ

右表ニヨレバ煮食用種ニアリテ德利種ノ收量首位ヲ占メ鞍馬口、聖護院、方領等之ニ順次シ菜州、太白ノ收穫最高モ劣レリ而シテ品質ニ於テハ聖護院、鞍馬口最モ卓絶シテ肉質柔軟美味ナルコト他種ノ遠ク及バザル所ナリ之ニ次グハ方領及ビ德利ニシテ菜州及ビ太白ノ如キ支那種ハ生食用ニ供サバ甘味豊富ナリト雖モ煮食又ハ漬用ニ供シテハ到底本邦種ニ比スベカラズ而シテ德利及ビ方領ハ品質ニ於テ聖護院、鞍馬口等ニ遜色アルモ栽培容易ニシテ大形種ノ如ク病害ニ犯サル、コト少ク就中德利種ニ於テ收量饒多ナルヲ以テ播種期遅レテ大形種ヲ充分肥大生育セシムル能ハザル掛念アル場合ニハ本種ヲ播キテ之ニ補フヲ有利トス要スルニ煮食用トシテ奨励シテ可ナルハ鞍馬口及ビ聖護院ノ二種ヲ第一トシ第二ハ德利及ビ方領ノ類ナラン

漬物用種中收量最モ多カリシハ宮重尻丸及ビ宮重尻細ニシケ島村及ビ練馬尻丸ハ互ニ相伯仲シ美濃九日最モ寡産ナリト雖モ該種ハ極メテ早生ニテ播種後僅々二ヶ月餘經過セバ既ニ採收スルモノナレバ生長期短キニ失シ充分ノ發育ヲ遂グル能ハザルヤ必セリ而シテ品質ヲ調査スルニ宮重尻細及ビ宮重尻丸練馬尻細ハ就中優良ニシテ練馬尻丸島村及ビ金上等之ニ順次シ美濃九日種最モ劣リ各一長一短アルノミナラズ其用途亦異ナルヲ以テ濫リニ收量品質ニノミ拘泥スベキモノニ非ズ即チ宮重尻細及ビ全尻丸島村練馬尻丸ノ四種ハ淺漬並ニ煮食兩用ニ適スルモ澤庵用トシテ不向ナルベク反之練馬尻細ハ假令收量ニ於テ前諸種ニ稍劣ル所アリト雖モ形狀細長ニシテ乾シテ彈力強ク澤庵用トシテハ本種ノ壘ヲ摩スルモノ非ルベシ又本縣産金上大根ハ收量寡少ナリト雖モ肉質緻密ニシテ且ツ練馬尻細ノ如ク長キニ失セザルヲ以テ澤庵用トシテ漬ケ易ク相當ノ價值アルモノト認ム又美濃九日ノ如キハ收量品質共ニ他種ニ劣ルト雖モ頗ル早生ナルヲ以テ他種秋蘿蔔ノ未ダ市場ニ顯ハレザルニ既ニ需要者ニ供給シ得ベク都會附近ノ土地ニ於テ收利一層大ナルノミナラズ早ク跡地ヲ他作ニ利用シ得ルノ便アリ要スルニ本種

ハ早く播種シテ逸早く市場ニ搬出セザルハ其利潤尠キモノト知ルベシ
以上ノ事實ヲ綜合スルニ淺漬及ビ煮食兼用種トシテ宮重尻細及ビ全尻丸中二者一ヲ擇ブベク若シ此二種ヲ欲クハ練馬尻丸ニ及ボスモ可ナラン又澤庵用トシテ練馬尻細ヲ最良トシ金上之ニ次ギ極メテ早時ノ雜用ニ供センニハ美濃九日ヲ栽培スルヲ得策トス

一、下葉摘除試験

目的 長形種蘿蔔ヲ栽培スルニ方リ其根部ノ稍發育セシ頃其外葉數枚ヲ採取ルハ根部ノ發育ヲ扶クルニ効アリト唱導スル者アリ仍テ本試験ハ搔葉ノ果シテ有効ナリヤ又効果アリトセバ幾何ノ程度ニ成スベキカラ驗知セントス

一、供試品種 宮重尻細
一、試験區別

區名	搔葉回数	搔葉時期
第一	更ニ摘葉セズ	—
第二	一回摘葉ス	十月十日
第三	二回摘葉ス	十月十日、十月廿五日
第四	三回摘葉ス	十月十日、十月廿五日、十一月十日

備考 (一回ニ約五枚ノ外葉ヲ採取リタリ)
一、生育狀況 品種試験全ニジ
一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正元年度		大正二年度		二個年平均收量
		根ノ重量	葉ノ重量	根ノ重量	葉ノ重量	
第一	更ニ搔葉セズ	一七、二六〇	二六、六五〇	五四、一四五	九五、〇三七	四五一
第二	一回搔葉ス	一四、五〇〇	二七、七五〇	五四、一四九	九五、五九三	四五一
第三	二回全	一三、八八〇	二四、三八〇	五三、一五一	五〇、〇三四	四四三
第四	三回全	一三、四五〇	二六、二八〇	五四、一五〇	五〇、〇三二	四五一

前表ニ依レバ二個年ノ成績區々ニシテ撥一スル所ナシト雖モ要スルニ下葉摘除ノ効果少キヲ立證スルモノ、如シ尙ホ試驗ヲ繼續シテ之ヲ確メントス

二、煮食用蘿蔔一要素多量試驗

目的 煮食用蘿蔔ヲ栽培スルニ方リ肥料三成分中特ニ一成分ヲ多量ニ施スルハ其生育及ビ收量ニ如何ナル差アルカラ驗知セントス

一、供試品種 聖護院
一、試驗區別

肥料名	用量	追肥			價額
		一回	二回	三回	
堆肥	二五、〇〇〇	一八、〇〇〇	七、〇〇〇	—	〇、四五〇
大豆粕	一、五〇〇	—	—	—	〇、二八六
人糞	三五、〇〇〇	七、〇〇〇	—	—	〇、四七三
灰	三、五〇〇	—	—	—	—
精過磷酸石灰	〇、四〇〇	—	—	—	—
精過磷酸石灰	〇、四〇〇	—	—	—	—
硫酸安母尼亞	一、二四〇	—	—	—	—

第一、標準肥料區

肥料名	用量	原肥	追肥	價額
堆肥	二五、〇〇〇	一八、〇〇〇	七、〇〇〇	〇、六七四
大豆粕	一、五〇〇	—	—	〇、二八六
人糞	三五、〇〇〇	七、〇〇〇	—	〇、四七三
灰	三、五〇〇	—	—	—
精過磷酸石灰	〇、四〇〇	—	—	—
精過磷酸石灰	〇、四〇〇	—	—	—
硫酸安母尼亞	一、二四〇	—	—	—

第二、窒素五割増區

肥料名	用量	原肥	追肥	價額
堆肥	二五、〇〇〇	一八、〇〇〇	七、〇〇〇	〇、六七四
大豆粕	一、五〇〇	—	—	〇、二八六
人糞	三五、〇〇〇	七、〇〇〇	—	〇、四七三
灰	三、五〇〇	—	—	—
精過磷酸石灰	〇、四〇〇	—	—	—
精過磷酸石灰	〇、四〇〇	—	—	—
硫酸安母尼亞	一、二四〇	—	—	—

第三、磷酸五割増區

肥料名	用量	原肥	追肥	價額
堆肥	二五、〇〇〇	一八、〇〇〇	七、〇〇〇	〇、四五〇
大豆粕	一、五〇〇	—	—	〇、二八六
人糞	三五、〇〇〇	七、〇〇〇	—	〇、四七三
灰	三、五〇〇	—	—	—
精過磷酸石灰	一、二四〇	—	—	—
精過磷酸石灰	一、二四〇	—	—	—
硫酸安母尼亞	一、二四〇	—	—	—

第四、加里五割増區

肥料名	用量	原肥	追肥	價額
堆肥	二五、〇〇〇	一八、〇〇〇	七、〇〇〇	〇、四五〇
大豆粕	一、五〇〇	—	—	〇、二八六
人糞	三五、〇〇〇	七、〇〇〇	—	〇、四七三
灰	三、五〇〇	—	—	—
精過磷酸石灰	〇、四〇〇	—	—	—
精過磷酸石灰	〇、四〇〇	—	—	—
硫酸安母尼亞	一、二四〇	—	—	—

人糞	三、五、〇〇〇	七、〇〇〇	八、〇〇〇	10、000	10、000	磷	〇、二、八、六
精過磷酸石灰	〇、四、〇〇〇	〇、四、〇〇〇	—	—	—	加	〇、六、一、一
糞	三、五、〇〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	—	—	里	一、六、五、〇
硫酸加里	〇、五、〇〇九	—	〇、五、〇〇九	—	—	價	—

一、生育狀況 生長ノ前半期ハ品種試驗ニ述ベシト全様ナルモ九十兩月ニ涉リテ降雨頻繁ナリシタメ過濕ニ陥リシ結果腐敗病發生シ多少損害ヲ被リタリ

一、收量 (一畝當)

區名試驗區別	總收量		本數	欲損數	類別本數		
	根ノ重量	葉ノ重量			上	中	下
第一 標準肥料區	一、七、六、〇〇	一、六、九、七〇	一、五、一	—	六	三	三
第二 窒素五割増區	一、六、〇、〇〇	二、六、二、〇〇	一、五、一	—	五	三	三
第三 磷酸五割増區	一、四、〇、七、〇〇	一、八、二、七〇	一、五、一	—	六	三	三
第四 加里五割増區	一、〇、一、〇、〇〇	一、七、四、六〇	一、四、三	—	五	三	三

備考 (肉眼鑑定上外觀優美シテ中心空虚少カシハ第三區及第一區ニシテ第二區之ニ次ギ第四區最モ劣レリ)

四、澤庵用蘿蔔肥料配合法試驗

目的 當地方ノ習慣上澤庵用蘿蔔ノ肥料トシテ一般ニ米糠ヲ主用スルモノ多シ仍テ本試驗ハ之ニ代フルニ他ノ肥料ヲ以テセバ其收量及ビ品質ニ如何ナル影響アルカラ驗知セントス

一、供試品種 練馬尻細

一、試驗區別

第一、標準肥料區

堆肥	10、000	10、000	—	—	—	室	〇、三、五、〇
米糠	2、500	2、500	—	—	—	加	〇、二、五、九
人糞	3、000	6、000	8、000	—	—	里	〇、三、五、六
灰	3、000	2、000	1、000	—	—	價	1、三、一〇

第二、大豆粕區

堆肥	10、000	10、000	—	—	—	室	〇、三、五、〇
大豆粕	1、500	1、500	—	—	—	加	〇、二、五、九
人糞	2、700	5、000	5、000	—	—	里	〇、三、五、六
精過磷酸石灰	〇、四、三	〇、四、三	—	—	—	價	1、一、七、〇
硫酸加里	〇、〇、九、三	—	〇、九、二、八	—	—	額	—

第三、荒粕區

堆肥	10、000	10、000	—	—	—	室	〇、三、五、一
荒粕	〇、七、六	〇、七、六	—	—	—	加	〇、二、五、九
人糞	3、500	6、000	7、500	—	—	里	〇、三、五、七
灰	2、850	1、850	1、000	—	—	價	—

第一區名	試驗區別	總收量			欲損數	類別本數		
		根ノ重量	葉ノ重量	本數		上	中	下
硫酸加里	第四、骨粉區	0,110	0,110	0,110	0,110	價額	1,130	
堆肥	第五、精過磷酸石灰區	10,000	10,000	10,000	10,000	價額	0,350	
骨粉		0,411	0,411	0,411	0,411	價額	0,350	
人糞		3,000	6,000	8,000	9,000	價額	0,350	
硫酸安母尼亞		0,284	1,000	0,184	0,184	價額	0,350	
硫酸加里		0,088	0,088	0,088	0,088	價額	1,130	
堆肥		10,000	10,000	10,000	10,000	價額	0,350	
精過磷酸石灰		0,391	0,391	0,391	0,391	價額	0,290	
人糞		3,000	6,000	8,000	9,000	價額	0,290	
硫酸安母尼亞		0,285	1,000	0,285	0,285	價額	0,290	

一、生育狀況 品種試驗ニ全シ
 一、收量 (一畝當)

第二區	第三區	第四區	第五區
大豆粕區	荒粕區	骨粉區	精過磷酸石灰區
160,130	158,300	162,750	137,250
46,130	45,750	51,750	44,630
533	521	533	533
8	8	8	8
368	398	443	375
105	75	90	20
26	26	26	26

備考 肉眼鑑定上外觀良好ナリシハ第四區、第一區、第三區、第二區、第五區ノ順序ナリ

● 蕪菁

耕種梗概

- 一、整地 播種前町疇ニ圃地ヲ耕起シテ土塊ヲ十分細碎シタリ
- 一、播種期 八月二十九日
- 一、播種量 一畝歩三勺
- 一、播種法 概シテ蘿蔔ニ全シ但シ被土ヲ稍薄クセリ
- 一、畦幅 二尺
- 一、株間 一尺
- 一、間引 九月三日、九月八日、九月十五日、九月二十五日
- 一、肥料 (一畝當)

堆肥	肥料名	用量	原肥	追肥	窒素	磷酸
大豆粕		1,000	1,000	一回	0,350	0,350
		2,000	2,000	一回	0,350	0,350
		1,000	1,000	一回	0,350	0,350
		1,000	1,000	一回	0,350	0,350

人糞尿	三〇,〇〇〇	六,〇〇〇	七,〇〇〇	八,〇〇〇	九,〇〇〇	加里	〇,三三四
精過磷酸石灰	〇,三〇〇	〇,三〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	價額	一,一四〇
灰	二,五〇〇	一,五〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇		
一、追肥	九月十一日、九月二十五日、十月十一日						
二、中耕	全上						
一、手入	蘿蔔ニ全シ						
一、收穫	十一月二十九日						

一、品種試驗

目的 數多ノ蕪菁品種ヲ蒐集栽培シテ其生育收量及ビ品質ヲ比較研究シ以テ當地方ノ風土ニ適合スル良種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	聖護	聖護	近天	天湖	湖長	長津	田	原產地
第一	院	寺	王	院	南	東	滋	京
第二	江	南	滋	大	滋	東	東	東
第三	江	南	滋	大	滋	東	東	東
第四	院	南	滋	大	滋	東	東	東
第五	院	南	滋	大	滋	東	東	東
第六	院	南	滋	大	滋	東	東	東
第六	院	南	滋	大	滋	東	東	東

第七 耕

一、生育狀況 大正元年九月廿三日ノ暴風雨ニ蘿蔔ト同様損傷ヲ被レリ又大正二年晚秋ニハ白銹病ノ發生ヲ來シ之ガタメ生育ヲ阻害セラレシコト尠カラズ今發育經過ヲ示セバ左ノ如シ

區名	聖護	聖護	近天	天湖	湖長	長津	田	大正元年	大正二年
第一	院	寺	王	院	南	東	滋	播種期	播種期
第二	江	南	滋	大	滋	東	東	發芽始	發芽始
第三	江	南	滋	大	滋	東	東	發芽始	發芽始
第四	院	南	滋	大	滋	東	東	發芽始	發芽始
第五	院	南	滋	大	滋	東	東	發芽始	發芽始
第六	院	南	滋	大	滋	東	東	發芽始	發芽始
第七	院	南	滋	大	滋	東	東	發芽始	發芽始

一、特性

區名	聖護	聖護	近天	天湖	湖長	長津	田	葉之部	根之部	品質
第一	院	寺	王	院	南	東	滋	多	形	大
第二	江	南	滋	大	滋	東	東	少	狀	小
第三	江	南	滋	大	滋	東	東	稍淡綠	色	
第四	院	南	滋	大	滋	東	東	綠	澤	
第五	院	南	滋	大	滋	東	東	全	大	
第六	院	南	滋	大	滋	東	東	全	大	
第七	院	南	滋	大	滋	東	東	全	大	

第六津 田 中 淡紫綠 圓錐 肩紫紅
 第七津 田 少 紫紅 扁圓 暗紫紅
 一、收量 (一畝當)

區名	品種名	大正元年度		大正二年度		三ヶ年平均收量	
		根ノ重量 個	葉ノ重量 個	根ノ重量 個	葉ノ重量 個	根ノ重量 個	葉ノ重量 個
第一	聖護院	二四、四〇八、四五〇	五四〇六八、七〇〇二、〇〇〇	五二、一〇一、九三〇	五、七九〇	五二	五九
第二	近江	一五、八三〇、六八〇	五三、五、九五〇一八、〇〇〇	五四〇	八四、九六〇	二七、九七〇	四八六
第三	天王寺	七〇、八〇三、六〇〇	五二、〇〇〇、五〇一九、五〇〇	五四〇	五八、四三〇	四五、三四〇	五二八
第四	湖南	二八、九六〇、四九〇、〇五〇	五〇、三六〇、〇〇〇一八、七五〇	五四〇	八九、四八〇	三三、九〇〇	五三
第五	長	二二、六二〇、三四、三五〇	五五、六二、二五〇一〇、四〇〇	五四〇	一〇八、三三〇	四八、二五〇	四九三
第六	津	一〇八、四五〇、四、四五〇	五三、五七、〇〇〇一四、七五〇	五四〇	七九、二七〇	三一、一〇〇	五〇七
第七	耕	三三、五〇五、〇〇〇	五〇、三三、八〇〇一三、五〇〇	五四〇	三〇、六二〇	二〇、三〇〇	四九二

備考 表中(二)トアルハ二個年ノ平均成績ニシテ之ナキモノハ三個年ノ平均收量ナリ

右表ニヨレバ根部ノ收量最モ多キハ長蕪ニシテ聖護院之ニ次ギ耕蕪最少ナリ又品質ニ於テハ聖護院第一位ヲ占メ天王寺次ニ位シ近江、湖南、長蕪ハ互ニ相伯仲シ耕蕪最モ劣惡者然シタルモノハ殆ント噲炙スル價値ナキモノ、如シ而シテ長蕪ノ如キハ假令品質劣惡ナラズト雖モ形狀奇異世人ノ嗜好ニ投ゼザルヲ以テ販路少ク其他津田及ビ耕蕪ノ二種ハ根部紅色ヲ呈スルヲ以テ調理用トシテ多少需要者アラシテ且ツ需要最モ多キハ聖護院ニシテ之ニ次ギテ有望ナルハ近江及ビ湖南ノ二種ナルガ如ク天王寺ノ如キハ品質優良ナルモ概シテ收量少キヲ以テ經濟上却テ前二種ニ一歩ヲ讓ルモノト認ム

二、播土試験

目的 蕪菁根部ノ稍發育シタル時其根際ノ土ヲ播キ取ル時ハ根部ノ發育ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ驗知セントス

一、供試品種 聖護院

一、試験區別

區名	播土回数	播土期日
第一	更ニ播土セズ	十月二十日
第二	一回播土ス	十月二十日、十一月六日
第三	二回播土ス	十月二十日、十一月六日、十一月十五日
第四	三回播土ス	

備考 播土ノ程度ハ根部ノ半バ以上ヲ地長ニ露出スルニ勉メタリ

一、生育狀況 概略品種試験ニ全シ

一、收量 (一畝當)

區名	試験區別	大正元年度		大正二年度		二個年平均收量	
		根ノ重量 個	葉ノ重量 個	根ノ重量 個	葉ノ重量 個	根ノ重量 個	葉ノ重量 個
第一	更ニ播土セズ	一一一、六八〇	四四、三三〇	四八〇七六、五〇〇三、五〇〇	五四〇九四、〇九〇三、四二〇	五二〇	五二〇
第二	一回播土ス	一〇一、一〇〇	四七、六三〇	五一八七〇、九五〇三、二〇〇	五一八六、〇三〇三四、九二〇	五三	五三
第三	二回全	九二、六三〇	四〇、七三〇	五一八六七、三五〇二、七五〇	五四〇七九、九九〇三、二四〇	五二九	五二九
第四	三回全	九六、一五〇	四五、九〇〇	五〇三七二、〇〇〇一八、〇〇〇	五四〇八四、〇八〇三、九五〇	五三	五三

前表ニ依レバ二個年ヲ通ジテ搔土セザルモノ最高ノ收量ヲアゲ搔土ノ度ヲ増スニ從フテ收量ヲ遞減スルヲ見ル唯三回搔土區ノ二回搔土區ニ勝ルハ少シク異例ニ屬スルモ然カモ搔土ノ効果ナキノミナラズ却テ有害ナルニ徴セバ殊更手数ヲ煩ハシテ搔土スルハ徒勞ニ歸スルコトヲ識ル

二、一要素多量試驗

本試驗ニ於テハ甜菁栽培上肥料三成分中一成分ヲ特ニ多量ニ施ストキハ其生育及ビ收量ニ如何ナル差アルヤヲ驗知セントス

一、供試品種 聖護院
一、試驗區別

第一、標準肥料區

肥料名	追肥		肥		價額
	一回	二回	一回	三回	
堆肥	10,000				0,357
大豆粕肥	10,000				0,357
人糞	1,000				0,217
大糞	3,000				0,314
精過磷酸石灰	0,300	7,000	8,000	9,000	1,150
藁灰	2,500	1,000			
堆肥	20,000				
第二、窒素五割増區	20,000				

第三、磷酸五割増區

肥料名	追肥		肥		價額
	一回	二回	一回	三回	
堆肥	10,000				0,357
大豆粕肥	10,000				0,357
人糞	1,000				0,217
大糞	3,000				0,314
精過磷酸石灰	0,867	0,333	0,333	9,000	1,110
藁灰	2,500	1,500	1,000		
堆肥	20,000				
第四、加里五割増區	20,000				

一、生育狀況 病害少ナキモ其他概シテ品種試驗ニ全ジ
一、收量 (一畝當)

區名	試驗區別	總收量			欲損數	類別個數		
		根ノ重量	葉ノ重量	個數		上	中	下
第一	標準肥料區	九、八〇〇	二、七〇〇	五四〇	!	四二二	一〇五	二三
第二	窒素五割増區	一一、六八〇	三、九四五〇	五三三	七	四〇五	一一三	一五
第三	磷酸五割増區	八、四〇〇	二、一〇〇	五五	一五	四三	七五	一五
第四	加里五割増區	八、五五〇	二、九五〇	五四〇	!	四六五	七五	!

● 菘 菜

耕種梗概

- 一、整地 八月中旬町疇ニ圃地ヲ耕耘均平セリ
- 一、播種期 九月四日
- 一、播種量 一畝歩三勺
- 一、播種法 藪菁ニ全ジ
- 一、畦幅 二尺(大正元年ニハ清國青菜ヲ二尺五寸トナシタリ)
- 一、株間 一尺(大正元年ニハ山東菜及大莖體菜ヲ各一尺五寸清國青菜ヲ二尺トナシタリ)
- 一、肥料 九月十日、九月十五日、九月廿五日、十月四日 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥			窒素	磷酸	加里	價額
			一回	二回	三回				
堆肥	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇							〇、三五七
大豆粕	一、〇〇〇	一、〇〇〇							〇、一〇六
人糞	三〇、〇〇〇	六、〇〇〇	七、〇〇〇						〇、二六九
灰	一、五〇〇	一、五〇〇		八、〇〇〇					一、〇七〇

一、追肥 九月二十日、十月六日、十月二十日
 一、中耕 全上
 一、手入 蘿蔔ニ全ジ
 一、收穫 十二月三日

一、品種試驗

目的 數種ノ不結球性菘類ヲ蒐集栽培シテ其收量及ビ品質ヲ調査シ以テ有利ナル品種ヲ選出セントス

區名	品種名	原產地
第一	山東菜	清國
第二	清國青菜	全上
第三	三河島菜	東京
第四	改良白莖體菜	全上
第五	大莖體菜	清國

第六 千筋京菜 京都 第七 壬生菜 全上

一、生育状況 大正元年度ハ清國青菜ノ發芽頗ル不良ナリシヲ以テ九月十日播直ヲ行ヒ之ヲ補ヒシモ時期遅キタメ該種全年ノ收量ニ甚大ノ減耗ヲ來シタリ又全年九月二十三日ノ暴風雨ニ邂逅多大ノ損障ヲ被レリ大正二年度ハ特記スルコトナシ發育經過ヲ示セバ左表ノ如シ

區名	品名	大正元年度			大正二年度		
		播種期	發芽始	發芽揃	播種期	發芽始	發芽揃
第一	山東菜	九月三日	九月六日	九月八日	九月四日	九月七日	九月八日
第二	清國青菜	全	十日	全十三日	全	全十五日	全
第三	三河島菜	全	三日	全六日	全	全八日	全
第四	改良白莖體菜	全	全	全	全	全	全
第五	大莖體菜	全	全	全	全	全	全
第六	千筋京菜	全	全	全	全	全	全
第七	壬生菜	全	全	全	全	全	全

一、特性 (發育中庸ナルモノニ就テ調査)

區名	品名	草丈	葉ノ部		莖葉ノ狀況	莖葉ノ廣狹	品質
			葉色	葉面			
第一	山東菜	一、六〇	濃綠	平滑	直立	廣	上
第二	清國青菜	一、三〇	濃綠	皺縮アリ	半開直立	廣	中
第三	三河島菜	一、六〇	黃綠	平滑	全	廣	下

區名	品名	大正元年度		大正二年度		三個年平均收量	
		重量	株數	重量	株數	重量	株數
第一	山東菜	110,050	360	111,670	551	150,390	471
第二	清國青菜	37,400	226	74,700	523	82,300	433
第三	三河島菜	106,650	552	136,800	540	111,750	556
第四	改良白莖體菜	99,000	554	100,800	551	109,500	558
第五	大莖體菜	67,750	360	94,500	540	95,600	450
第六	千筋京菜	88,650	540	62,650	540	77,100	449
第七	壬生菜	72,900	552	87,750	540	97,050	557

一、收量 (一畝當)

區名	品名	大正元年度		大正二年度		三個年平均收量	
		重量	株數	重量	株數	重量	株數
第一	山東菜	110,050	360	111,670	551	150,390	471
第二	清國青菜	37,400	226	74,700	523	82,300	433
第三	三河島菜	106,650	552	136,800	540	111,750	556
第四	改良白莖體菜	99,000	554	100,800	551	109,500	558
第五	大莖體菜	67,750	360	94,500	540	95,600	450
第六	千筋京菜	88,650	540	62,650	540	77,100	449
第七	壬生菜	72,900	552	87,750	540	97,050	557

備考 表中(二)トアルハ二個年平均收量ヲ示シ之ナキモノハ三個年平均收量ナリ

右表ニヨリ收量品質共ニ卓越スルハ山東菜ニシテ之ニ次テ有望ナルハ改良白莖體菜及ビ大莖體菜ノ二種ナリ而シテ三河島菜ノ如キハ假令栽培容易且ツ收量饒多ナリト雖モ纖維粗硬到底前二種ニ比スベカラズ又京菜及ビ壬生菜ハ品質良好ナルニ非レドモ各種調理用及ビ漬用ニ供シ得テ相當需要アルモノナレバ多少栽培スルヲ有利トスベク尙ホ清國青菜ハ晚漬トシテ早春食スル時ハ一種ノ香氣有リ棄ツベカラザルノ風味ヲ存ス要スルニ特別ノ場合ヲ除キ不結球性苾菜中最モ有望ナルハ山東菜ナリ

●結球白菜

耕種梗概

一、整地 七月下旬鍬ニテ畑地ヲ耕起シ充分土塊ヲ破碎シタル後土表ヲ均平シタリ

二、播種期 八月十四日——八月二十五日

三、播種量 一畝歩二勺——三勺

四、播種法 既定ノ距離ニ作條ヲ穿テ原肥用人糞尿ヲ水ニテ倍量ニ稀釋シタルモノヲ溝底ニ一様ニ敷キ他ノ配合セル原肥ヲ株間ノ約半分距離ニ点々配置シ原肥ノ一端人糞尿ノ上ニ少シク被土シテ其上ニ一株十粒内外宛播種シ更ニ細碎シタル土ヲ二三分ノ厚サニ均一ニ覆ヒタリ(原肥ハ作業ノ都合ヲ見計リ一週日乃至十日以前ニ豫メ作條ヲ穿テ一様ニ施シ薄ク被土シ置キ定日ニ至リ播種スルヲ最良トス)

一、畦幅 二尺五寸——二尺

二、株間 二尺——一尺五寸

三、間引 八月二十一日、八月二十九日、九月八日、九月十八日(以上八月十四日播)

八月三十一日、九月七日、九月十八日、九月二十四日(以上八月二十五日播)

一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	追肥			
		一回	二回	三回	四回
大豆	三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇			
堆肥	二,〇〇〇	〇,八〇〇			
室素					〇,五九九
磷酸					〇,三五六

人糞	尿	五〇,〇〇〇	八,〇〇〇	八,〇〇〇	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇	一〇,〇〇〇	加里
精過磷酸石灰	灰	〇,六〇〇	〇,三〇〇	〇,三〇〇				〇,四三六
糞		二,五〇〇	一,五〇〇	一,〇〇〇				一,九〇〇

一、追肥 九月十日、九月二十六日、十月七日、十月二十二日

二、中耕 全上

一、手入 九月上中旬乾風多キ時ハ間引ノ序ニテ少量宛幼苗根際ニ土寄ヲ行ヒ以テ倒伏ヲ防ギ、青蟲黒蟲ハ絶エズ捕殺ニ努メざるはむし、黃條蚤蟲ノ發生ヲ來セシトキハ除蟲菊、藨灰、那府他林合劑ヲ朝露ノ乾カザル間ニ撒布シテ其蟻集ヲ防遏シ腐敗病ニ罹リシ株ハ直ニ拔キ去リテ其局部ニ石灰ヲ撒布シ以テ他株ヘ傳染スルヲ阻止シタリ又第三回追肥當時ヨリ結球ヲ始メ施肥中耕ニ不便ナレバ一株宛糞ニテ緩ク莖葉ヲ結縛シ以テ作業ヲ容易ナラシメタリ

一、收穫 自十一月下旬至十二月中旬

一、品種試驗

目的 現今世ニ知ラレタル數種ノ結球白菜ヲ蒐集シ同一ノ栽培管理法ノ下ニ各品種ノ特性收量及ビ品質ヲ比較對照シ以テ本縣ノ風土ニ適スル優種ヲ選出セントス

區名	品種名	原產地
第一	芝衆(茨城縣ニテ)	清國山東省
第二	金州(芝上)	清國山東省

第三	直	頭	隸	清國直隸省
第四	青	葉	頭	清國直隸省
第五	包	心	全	天直隸省
第六	開	城	朝鮮開城	清國山西省
第七	縮	城	北支那(現今東京)	
第八	包	心	全	

一、生育狀況
 大正元年八月中旬播種ハ下種前後ヨリ早魃ニ際會セシヲ以テ毎夕刻灌水シテ發芽ノ均一ヲ計リシガ尙ホ其整一ヲ欲キ其後自八月三十一日至九月一日夜間ノ暴風雨ニ邂逅シ幼苗悉ク土中ニ埋没セラレ爲ニ生育甚ダ遅延シ又全九月二十二日ノ暴風ニ大打撃ヲ蒙リ全年ノ收量ニ不尠減收ヲ來セリ大正二年度ハ又八月二十七日ノ暴風雨ノタメ幼苗悉ク土中ニ埋没シ其損傷甚大ニシテ生育頓ニ衰ヘタリ又全年九月下旬ヨリ十月ニ涉リ降雨頻繁ナリシ結果過濕ニ陥リ白銹病及ビ腐敗病ノ發生ヲ醸シ被害激烈タメニ全年ハ近年稀ナル寡收ヲ來セリ發育經過左ノ如シ

區名	品名	種類	大正元年度	大正二年度	畦幅	株間
第一	芝	罌	八月十五日	八月廿四日	全	二、五
第二	金	隸	八月十九日	八月十四日	全	全
第三	直	頭	八月廿四日	八月十七日	全	全
第四	青	葉	全	全	全	全
第五	包	心	全	全	全	全
第六	開	城	全	全	全	全
第七	縮	城	全	全	全	全
第八	包	心	全	全	全	全

第七	開	城	全	全	全	全	全	全
第八	縮	城	全	全	全	全	全	全

一、特 性

區名	品名	種類	草丈	葉色	莖ノ色澤	葉ノ性状	球葉ノ形	球ノ大小	結球性	品質
第一	芝	罌	一、四	濃綠	扁平白色	幅廣ク短楕圓葉ノ表裏ニ粗毛アリ	大球形葉先包ム(擬至球形)	大	堅	極上
第二	金	隸	一、六	全	全上微ニ青味ヲ帶フ(外莖)	幅廣ク葉縮著ク其葉裏ニ粗毛アリ	圓筒葉先稍緊	全	稍堅	中
第三	直	頭	一、五	綠	扁平白色	幅廣ク葉縮アリテ葉裏ニ粗毛アリ	牽牛花形葉先	全	緩	上
第四	青	葉	全	全	幅中位微ニ青味アリ	幅廣ク葉先ニノミ葉裏アリ	圓筒形葉先	中	稍堅	稍上
第五	包	心	一、八	濃綠	扁平淡綠	長廣葉先ニ皺裂アリ	少シク包ム	大	全	全
第六	開	城	一、二	綠	扁平白色外莖微青	幅廣ク輪レテ皺裂アリ	倒置形葉先	中	最堅	上
第七	縮	城	一、五	淡綠	扁平白色	幅廣ク皺裂アリ	直隸ニ似ル	小	最緩	中
第八	包	心	一、三	全	全	杓子狀ニシテ皺縮アリ	紡錘形葉先緊	小	最緩	下

一、收 量 (一畝當)

區名	品名	種類	大正元年度	大正二年度	四個年平均收量
第一	芝	罌	二五、一九〇	二六、一四、四〇〇	二〇五
第二	金	隸	二六、六〇〇	二四、九、四〇〇	二二二
第三	直	頭	一五、八八〇	二六、一七、二〇〇	一九九
第四	青	葉	一五、二一〇	二六、一三、〇〇〇	二二二

第五	青 蘇 葉	一七、七四〇	二六	一七、九〇〇	二六(三)	一五、〇五〇(三)	二二	〇、七五
第六	包 心	一四、一〇〇	二〇四	九七、一〇〇	二六(三)	一〇、九〇〇(三)	二〇二	〇、五〇
第七	開 城	二四、〇〇〇	三五三	一五〇、七五〇	三五三	一一、七〇〇	二五五	〇、四八一
第八	縮 緬	八、五四〇	三四五	一七、五〇〇	三六〇(三)	一〇、八九〇(三)	三〇七	〇、三四一

備考 表(三)トアルハ三箇年ノ平均收量之ナキモノハ四箇年ノ成績ナリ

前表ニヨリ其概要ヲ摘録セバ

- 一、收量ノ最モ饒多ナルハ芝罘ニシテ直隸、金州、青蘇葉等之順次シ包心及ビ縮緬ノ二種最モ寡少ナリ
- 一、株出來肥大ナルハ芝罘、直隸、金州、青蘇葉等ニシテ縮緬最モ小ナリ
- 一、結球状態ノ最モ完全ナルハ包心及ビ芝罘ニシテ殊ニ包心ハ球葉甘藍ニ類似シテ眞ノ結球ヲ營ミ甚ダ堅密ナリ而シテ此二種ニ次ギ稍堅ク結球スルハ青蘇葉、鶏頭、金州ノ三種ニシテ其他ノ品種ハ緊縮スルニ過ギズシテ眞ノ結球ニ非ズ就中縮緬ハ最モ不完全ナリ
- 一、品質ノ優良ナルハ芝罘首位ヲ占メ包心及ビ直隸之ニ次ギ縮緬最モ不良其他ハ大同小異ナリ
- 一、病害殊ニ腐敗病ニ犯サレ易キハ包心及ビ直隸ニシテ金州、芝罘、青蘇葉ノ類稍強健縮緬最モ抵抗力強シ

以上ノ事實ヲ綜合スルニ結球白菜ノ品種不尠ト雖モ就中有望ナルハ芝罘、直隸、包心ノ三種ナリト言フベシ殊ニ芝罘(茨城縣金州)ハ品質卓絶、球葉優美ニシテ且ツ比較的病害ニ抵抗力強ク加之收量ノ饒多ナルコト他種ニ冠タル所トス而シテ其株出來ノ雄大ナルモノハ往々二貫匁ニ達スルモノ少ナカラズ實ニ結球白菜中ノ翹楚ト稱スルモ可ナリ直隸ハ結球稍緩ナルト病害ニ犯サレ易キ短所アリト雖モ栽培容易ニシテ年ニヨリ豊凶ノ差著シカラザルヲ以テ優良種タルヲ失ハズ包心ハ收量不多又性質虛弱ナ

ルノ傾向アリト雖モ品質善美ニシテ且ツ結球ノ完全ナルハ他ニ多ク其比ヲ見ズ是亦良種タルヲ失ハズ其他品質前諸種ニ一籌ヲ輸スルモ稍有望種ト認ムルニ足ルハ青蘇葉及ビ金州ニシテ縮緬ノ如キハ品質劣惡收量寡少喰灸スルニ足ラズ

一、追肥回数對施肥期試驗

目的 結球白菜栽培上追肥回数ノ多少ト其施肥期ノ早晚ハ其收量ニ如何ナル影響アルカラ驗知セントス

- 一、供試品種 芝 罘
- 一、試驗區別

- 第一 耕種梗概ニ準ズ(四回追肥)
- 第二 三回追肥(九月十日ニ人糞尿一二貫、九月三十日ニ全上一五貫、十月二十日ニ全上一五貫ヲ施用ス)
- 第三 二回追肥(九月十日ニ人糞尿一八貫十月七日ニ全上一四貫ヲ施用ス)

備考 第二、三ノ兩區ト雖モ堆肥、大豆粕、糞灰ノ殘部ハ第一區全樣第一回追肥ニ施シタリ

- 一、生育狀況 品種試驗ニ全シ
- 一、收 量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正元年度	大正二年度	二個年平均收量
第一	四回追肥	九〇、八〇〇 <small>(畝重(根ヲ除ク) 株數)</small>	一〇八、六〇〇 <small>(畝重(根ヲ除ク) 株數)</small>	九九、七〇〇 <small>(畝重(根ヲ除ク) 株數)</small>
第二	三回追肥	一一〇、四〇〇 <small>(畝重(根ヲ除ク) 株數)</small>	一五二、八〇〇 <small>(畝重(根ヲ除ク) 株數)</small>	一三二、一〇〇 <small>(畝重(根ヲ除ク) 株數)</small>

第三 一回追肥 八九、六〇〇 二六 111、100 104 105、500 110 0、5011

右表ニヨレバ三回追肥ノ四回追肥ニ勝ルヲ示スト雖モ未ダ遽ニ事實ト斷定シ難キ所アルヲ以テ尙ホ試驗ヲ重ネテ確定セントス

三、直播對移植試驗

目的 結球白菜栽培者ハ一般ニ直播法ニ依ルヲ常例トスルモ恣クテハ種子及ビ地積ノ利用上不經濟ヲ來シ且ツ管理上多大ノ手數ヲ要スルノ不利アリ仍テ本試驗ニ於テ之ヲ甘藍等ニ於ケルガ如ク一旦冷床中ニ播種育苗シ然ル後圃地ニ定植培養セバ直播法ニ比シ其得失如何ヲ驗知セントス

- 一、供試品種 芝 罌
- 一、試驗區別

- 第一 直播法(耕種梗概ニ準ズ)
- 第二 移植法

一、苗床及ビ第二區ノ播種期 七月二十五日甘藍ノ場合ト全様ノ冷床ヲ設ケ八月一日五寸畦ニ條播シ發芽揃後(八月七日)密生部ヲ間引キタリ

一、定植期及ビ定植法 第一區播種日ト全日即チ八月十四五日ニ既定ノ距離ニ作條ヲ穿テ原肥ヲ施用シテ後被土シ置キ九月一日夕刻定植セリ定植スルニハ其二時間程前ニ床ニ十分灌水シ置キ後移植ニテ根ヲ損傷セザル様丁寧ニ採リ圃地ニ搬出シ所要ノ株間ニ七八寸立方ノ孔ヲ穿テ靜ニ苗ヲ植ヘ根際ニ灌水セリ

一、生育狀況 大正元年度ハ第二區移植後早天連續セシタメ活着不良毎夕灌水シ辛フジテ枯死ヲ免

レタリ、大正二年度移植後一兩日雨天ヲ催セシタメ前年ニ反シ活着頗ル良好ナリ但シ成熟前病害ノ發生ヲ來シ之ガ爲メ生育ヲ阻害セラレシト品種試驗ニ全ジ

一、收 量 (一畝當)

區名	試驗區別	大正元年度	大正二年度	二個年平均收量
第一	直 播 區	九四、八〇〇	二〇八	二〇九
第二	移 植 區	七九、八〇〇	一九二	一九五

株數 一畝ノ重量

右ノ成績ニ徴スレバ二個年ヲ通ジテ移植區ノ收量少キヲ知ルニ足ルベシ仍テ白菜栽培ニハ必ズ直播法ニ倚ラザルベカラズ若シ圃場ノ都合上播種適期ニ下種スル能ハズ不得已一旦冷床中ニ播下シ置キテ後移植セザルベカラザル場合ニハ夕刻又ハ降雨ヲ待チテ植出スベク又其直根ハ栽植ニ不便ナルヲ以テ其一部分ヲ剪去スルモ可ナルベシ但シ特別ノ事情存ズル外ハ濫リニ移植法ニ倚ラザルヲ安全トス

四、肥料配合法試驗

目的 各種ノ肥料ヲ同成分ニ配合シ以テ結球白菜栽培上最モ有利ナル肥料配合法ヲ知ラントス

一、供試品種 芝 罌

一、試驗區別

第一、標準肥料區

肥料名	用量	原肥	追肥	窒素
肥	30,000	10,000	10,000	0,599
			一回	
			二回	
			三回	
			四回	

第二、人糞尿及鯧粕區			
大豆	人糞	鯧粕	灰
二,〇〇〇	五〇,〇〇〇	一,二〇〇	二,五〇〇
一,二〇〇	八,〇〇〇	一,〇〇〇	一,五〇〇
〇,八〇〇	八,〇〇〇	〇,三〇〇	一,〇〇〇
二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
〇,三五六	〇,四四八	一,九〇〇	

第三、大豆粕區			
大豆	人糞	鯧粕	灰
三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇
二〇,〇〇〇	八,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇
一〇,〇〇〇	八,〇〇〇		一,〇〇〇
一〇,〇〇〇	九,〇〇〇		一,〇〇〇
〇,五九九	〇,三九九	二,一三〇	

第四、硫酸安母尼亞區			
大豆	人糞	鯧粕	灰
三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
二〇,〇〇〇	六,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	一,六〇〇	一,〇〇〇
一〇,〇〇〇	六,〇〇〇		一,〇〇〇
〇,五九七	〇,三五九	一,八六〇	

第五、智利硝石區			
大豆	硫酸安母尼亞	精過磷酸石灰	糞
三〇,〇〇〇	二,〇〇〇	五,〇六〇	五,五〇〇
二〇,〇〇〇	一,一〇〇	〇,三二〇	二,〇〇〇
一〇,〇〇〇	〇,八〇〇	〇,三三〇	二,〇〇〇
一〇,〇〇〇	〇,三〇〇	〇,三三〇	一,五〇〇
〇,五九九	〇,三五九	〇,四六八	一,九二〇

第六、鯧粕區			
大豆	人糞	鯧粕	灰
三〇,〇〇〇	二,〇〇〇	五,〇六〇	五,五〇〇
二〇,〇〇〇	一,一〇〇	〇,三二〇	二,〇〇〇
一〇,〇〇〇	〇,八〇〇	〇,三三〇	二,〇〇〇
一〇,〇〇〇	〇,三〇〇	〇,三三〇	一,五〇〇
〇,五九九	〇,三五九	〇,四六八	一,九二〇

一、生育狀況 概略品種試驗ト其撥ヲ一ニセリ			
大豆	人糞	鯧粕	灰
三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	四,三〇〇	四,三〇〇
二〇,〇〇〇	六,〇〇〇	二,八〇〇	二,八〇〇
一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	一,五〇〇	一,五〇〇
一〇,〇〇〇	六,〇〇〇		
〇,五九七	〇,三五九	二,四〇〇	

一、收 量 (一畝當)但シ重量ハ根ヲ切り去リシモノヲ示スナリ

區名	試驗區別	大正元年度		大正二年度		二個年平均收量	
		重量	株數	重量	株數	重量	株數
第一	標準區	一一、八〇〇	二〇四	二九、六〇〇	二六	一一、二〇〇	二〇
第二	人糞尿及鱈粕區	一〇、七〇〇	二〇四	一四、〇〇〇	二六	一〇七、八五〇	二〇
第三	大豆粕區	一四、八〇〇	二〇〇	一三六、二〇〇	二六	一三〇、五〇〇	二二
第四	硫酸安母尼亞區	一〇〇、五〇〇	一九二	一四七、六〇〇	二〇	一四、〇五〇	二〇
第五	智利硝石區	一〇〇、四〇〇	二〇〇	一三〇、一〇〇	二六	一三〇、三〇〇	二二
第六	鱈粕區	一一四、〇〇〇	二〇四	一三一、四〇〇	二六	一一三、七〇〇	二〇

前表ニヨレバ兩年ノ成績區々ニシテ捕捉スル所ナキニ似タレドモ大豆粕區ハ二個年共ニ成績優良ナルヨリ察スレバ該區ノ如キ肥料配合法ヲ採ルヲ得策トナスベキ歟尙ホ試驗ヲ繼續スベシ

五、病害豫防法試驗

目的 結球白菜ニ發生スル病害數種アルモ就中最モ猖獗ヲ極ムルハ腐敗病及ビ白銹病ナリ仍テ本試驗ハ該病豫防ニ如何ナル方法ヲ執ルベキカラ驗知セントス

一、供試品種 直隸(本種ハ病害ニ犯サレ易キヲ以テ特ニ選ビタリ)

一、試驗區別

第一 標準區(豫防法ヲ行ハズ)

第二 耕耘ノ際反當石灰三十貫匁ヲ勸キ込ム

第三 全上木灰四十貫匁ヲ勸キ込ム

第四 全上石灰窒素十五貫匁ヲ勸キ込ム

一、生育狀況 八月二十七日ノ暴風雨ニ損傷ヲ蒙リシコト品種試驗ト同一ニシテ尙ホ十月上旬ヨリ過濕ノタメ白銹病ノ發生ヲ來シ十月中旬降雨一層頻繁ナルニ伴ヒ病勢彌々募リ豫防區ヲモ犯スニ至リタルモ品種試驗ニ比シ被害少ナク殊ニ一ツノ腐敗病ヲ見ズ

一、收 量 (一畝當)但シ根部ヲ除ク

區名	試驗區別	總收量		平均一株ノ重量		欲損株數
		重量	株數	重量	株數	
第一	無豫防區	一一、七〇〇	二六	〇、五六八	一	一
第二	石灰加用區	一三六、四〇〇	二〇〇	〇、六五〇	一	一
第三	木灰加用區	一三一、三〇〇	二二六	〇、六一三	一	一
第四	石灰窒素加用區	一七一、八〇〇	二二六	〇、八〇〇	一	一

● 菠 薐 草

耕種梗概

- 一、整 地 九月十七日町嚙ニ畑地ヲ耕耘均平シタリ
- 一、播 種 期 九月二十三日
- 一、播 種 量 一畝步五合(但シ有稜種ハ七合五勺)
- 一、播 種 法 一定ノ距離ニ畦條ヲ劃シ原肥ヲ施シ少シク被土シタル上ニ種子ヲ均一ニ條播シ六七分ノ厚サニ細土ヲ覆ヘリ
- 一、畦 幅 一尺五寸

一、株間 五寸(發芽後數回ニ間引キ一定ノ株間トセリ)
 一、間引 十月十三日、十月二十三日、十一月六日
 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥	窒素	磷酸	加里	價額
堆肥	20,000	20,000	10,000	3,000	0,27	0,33	0,29
人糞	30,000	8,000	10,000	3,000	0,27	0,33	0,29
灰	15,000	1,500	1,500	3,000	0,27	0,33	0,29

一、追肥 十月十三日、十一月六日
 二、中耕 全上
 一、霜除 十一月二十四日ニ笹ヲ畦上處々ニ樹立シ以テ寒害ヲ防遏シ翌春三月一日之ヲ撤去セ

一、品種試驗

目的 數多ノ菠薐草ヲ蒐集栽培シ其生育收量ヲ調査シ以テ當地方ノ風土ニ適スル良品種ヲ選出セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地
第一	日本種	內地
第二	西洋大葉種(びるふれいす)	佛國

一、生育狀況 特記スルコトナシ但シ一般ニ洋種ハ耐寒性弱キ感アリ左ニ發育經過ヲ示スベシ

區名	品種名	播種期	發芽始	發芽揃	採收期	備考
第一	日本種	九月廿三日	九月廿八日	十月四日	三月廿三日	發育良好
第二	ふれいす	全	全	全	廿七日	全
第三	さばいりぶと	全	全	全	全	發育稍良
第四	ろんぐしーすん	全	廿三日	九月廿八日	全	發育稍良
第五	のるふおーくさばい	全	廿九日	十月四日	廿七日	發育良好
第六	びくごりや	全	廿三日	九月廿八日	全	發育最劣ル

一、特性及收量 (一畝當)

區名	品種名	種子之部	葉之部	部	收量(根ヲ除ク)	品質
第一	日本種	暗黃褐	淡綠	平滑	大正元年度 二天、八七〇、二五〇、五六〇 大正二年度 二天、八七〇、二五〇、五六〇 大正三年度 二天、八七〇、二五〇、五六〇	最上
第二	ふれいす	全	濃綠	少著	一四、〇〇〇、二六、〇〇〇、三八〇 一〇、六七〇、〇〇〇、二〇、三三〇	上
第三	さばいりぶと	全	濃綠	著	一〇、六七〇、〇〇〇、二〇、三三〇	稍劣
第四	ろんぐしーすん	全	濃綠	著	一〇、六七〇、〇〇〇、二〇、三三〇	稍劣

第五 第五 第五 第五 第五 第五 第五 第五 第五 第五
 第六 第六 第六 第六 第六 第六 第六 第六 第六 第六
 のるふおしくさばい 暗黄褐 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 びくとりや 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 前表ニ依レバ收量品質共ニ日本種ヲ優良トスルニ似タレドモ未ダ遠ニ事實ト断定シ難キヲ以テ尙ホ試
 験ヲ重マベシ

● 蠶 豆

耕種梗概
 一、整地 十月中旬圃地ヲ耕耘均平シタリ
 一、播種期 十月二十三日
 一、播種量 一畝當八合(但シ大形種ハ一升二合)
 一、播種法 概略菜豆ニ全ジ
 一、畦幅 二尺
 一、株間 一尺五寸
 一、間引 十一月十五日(一株二本立トナセリ)
 一、肥料 (一畝當)
 肥料名 用量 原肥 追肥
 人糞 10,000 18,000 10,000 窒素 0,161
 堆肥 18,000 10,000 磷 0,183
 尿肥 10,000 18,000 10,000 窒素 0,161
 10,000 10,000 磷 0,183

精過磷酸石灰	0,800	0,800	加里	0,194
灰	1,700	1,700	價額	0,480

- 一、追肥 十一月二十一日
- 一、中耕 十一月二十一日、十二月十日、三月二日
- 一、霜除 十二月十日畦上所々ニ笹ヲ建テタリ
- 一、手入 野鼠ノ被害ヲ避クルタメ種子ニこーるヲ極メテ薄ク塗付シテ播種セリ
- 一、收穫 自六月二十三日至六月二十六日(嫩莢稍黒味ヲ帯ブレバ採收セリ)

一、品種試験

目的 蔬菜用軟實ヲ得ンタメ數多ノ蠶豆ヲ栽培シ其生育收量及ビ品質ヲ比較對照シ以テ適良ナル品種ヲ選出セントス

一、試験區別

區名	品種名	原產地
第一	早生蠶豆	不詳
第二	大蠶豆(於多福)	京都
第三	一寸蠶豆	大阪

一、生育狀況 大正二年冬季ハ寒氣烈シカリシタメ枯損セシモノ不尠殊ニ大蠶豆及ビ一寸蠶豆ニ於テ一層甚シ發育經過次ノ如シ

區名	品種名	播種期	發芽始	發芽揃	開花始	欲損數	採收期
第一	早生蠶豆	十月廿三日	十一月四日	十一月七日	四月一日	七本	大正二年六月廿三日
第二	大蠶豆	全	六日全	十一日全	五日	二四本	六月廿五日
第三	一寸蠶豆	全	七日全	十三日全	十三日	一七本	六月廿六日

一、特性及ビ收量 (一畝當)

區名	品種名	熟期	種子之特性			收量
			色澤	大小	品質	
第一	早生蠶豆	早	淡綠褐	小	三	一〇、三五〇
第二	大蠶豆	中	全	中	二	一五、九〇〇
第三	一寸蠶豆	晚	全	大	一	一三、九五〇

備考 重量ハ莢共ノ重サチ云ヒ容重トハ一定重量中ヨリ得タル内實即チ軟實ノ重量ヲ謂フナリ

● 苜

耕種梗概

第一年 (自明治四十四年十二月至明治四十五年六月)
 一、定植期 初年苗ヲ購入十二月十三日、全十四日、全二十五日ノ三回ニ定植シタリ通常九月中下旬ヲ定植ノ適期トナスモ畑ノ都合ニヨリ遅延シタリ

一、畦幅 二尺
 一、株間 一尺

一、定植法 既定ノ畦幅ニ作條ヲ穿テ原肥ヲ施シ所要ノ株間ニ苗ヲ一株宛真直ニ根ヲ擴ゲテ心葉ノ土中ニ埋沒セザル様ト嚀ニ植付タリ

一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥	窒素	磷素	加里	價額
堆肥	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一回	〇、四六			
大豆粕	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一回	〇、三〇			
人糞	二〇、〇〇〇	七、〇〇〇	一回	〇、三九			
精過磷酸石灰	〇、五〇〇	〇、五〇〇	一回	一、三〇〇			
藥	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一回				

一、追肥 一月九日、三月十五日
 一、中耕 全上
 一、敷藥 四月二十五日
 一、收穫 自五月九日至六月八日
 一、除莠 六月二十一日
 一、蔓切 六月二十一日ヨリ
 一、蔓切 第二年(自明治四十五年六月至大正二年六月)
 六月二十一日ヨリ九月下旬ニ至ルマデ數回ニ行ヒタリ
 一、肥料 (一畝當)

肥料名	用量	原肥	追肥
一	回	回	回
二	回	回	回

堆肥	30,000	20,000	10,000	窒素	0.485
大豆粕	2,000	2,000	10,000	磷	0.331
人糞	30,000	10,000	10,000	加里	0.404
精過磷酸石灰	0,500	0,500	1,000	價額	1,500
灰	3,000	2,000	1,000		

一、施肥 六月二十一日(原肥) 九月二十七日(此日本場ヨリ當試驗地ニ苗ヲ移植シタリ)三月四日

一、中耕 六月二十一日、十月十四日(此日第一回追肥用ノ人糞尿ヲ施セリ) 三月四日

一、敷藁 四月十四日

一、收穫 自五月二十四日至六月十八日

一、除藁 六月二十六日

第三年(自大正二年七月至大正三年六月)

總ベテノ栽培管理ハ第二年目ニ全シ但シ第三年ノ採收ヲ終ラバ右株ハ全部採掘棄却シ豫テ育成シタル新苗ヲ更メテ他圃ニ植フルニアリ

一、品種試驗

目的 數多優良ナル苽ノ品種ヲ蒐集培養シ其收量及ビ品質ヲ比較對照シ以テ本縣ノ風土ニ適合スル優良種ヲ選擇セントス

一、試驗區別

區名	品種名	原產地
第一	じよんすあーりー	英國
第二	せねらるさんじー	英國
第三	びるもらん	全英
第四	びくとりや	全英
第五	さー、じよせふ、ばつくすこん	全英
第六	れーてすと、おぶおーる	佛國
第七	とくさる、もーれ	佛國

一、特性 (大正二年ノ調査)

區名	品種名	形狀	實部	草勢	開花始
第一	じよんす、あーりー	短圓錐	小	強	四月十日
第二	せねらる、さんじー	圓錐	中	稍弱	四月十六日
第三	びるもらん	心臟形	小	強	四月十六日
第四	びくとりや	德利形	大	稍弱	四月十六日
第五	さー、じよせふ、ばつくすこん	短圓錐	中	中	四月十二日
第六	れーてすと、おぶおーる	長圓錐	大	全	四月十四日
第七	とくさる、もーれ	鈍圓錐	中	稍強	四月十七日

備考 第二區、せねらるさんじーハ畸形果ヲ生ジ易シ

一、收量 (一畝歩)

1424
342

大正三年八月十日印刷
大正三年八月十五日發行

茨城縣立農事試驗場

(東茨城郡酒門村)

印刷者 吉田政男
水戸市大字常磐神崎六十五番地

印刷所 加納印刷所
水戸市上市泉町千百四番地
會社名

區名	品 種 名	明治四十五年		大正二年		二個年平均收量	
		重量	個數	重量	個數	重量	個數
第一	じよんす、あーりー	一、〇一〇	一、三三四	六、五八四	七、七〇四	三、七九七	四、四六四
第二	ぜねらる、さんじー	一、八二〇	一、八〇〇	三、三二〇	二、九三四	二、五六五	二、三六七
第三	びるもらん	〇、〇九四	一、八〇〇	七、一五九	九、〇九〇	三、六七	四、六三五
第四	びくどりや	二、二九〇	二、二五〇	六、八五〇	六、三〇〇	四、五七〇	四、二七五
第五	さいじよせふ、ばつ	一、五七〇	二、〇一六	六、五〇九	五、八三二	四、〇四〇	三、九二四
第六	れいすん、おぶ、た	一、五〇〇	九四六	一、六〇六	一、〇〇八	一、五五三	九七七
第七	どくごるもーれ	三、七四六	三、四〇二	五、三九六	六、三三六	四、五七一	四、八六九

前表ニヨレバ二個年ヲ通ジ收量ノ饒多ナルハびくどりや及ビどくごるもーれノ二種ニシテさーじよせふばつとくすどん之ニ次ギびるもらん及ビじよんすあーりー等ハ年ニヨリ豊凶ノ差著シキ缺點アルガ如クテすとおぶおーるノ收量最モ寡少ナリ而シテ品質ニ於テハさーじよせふばつとん最モ卓絶シレテすとおぶおーる、びるもらん、どくごるもーれ等之ニ順次シじよんすあーりー最モ遜色アルニ似タリ依是觀レバ以上諸品種中收量及ビ品質共ニ稍勝レタルハさーじよせふばつとん、どくごるもーれノ二種ニシテ品質前種ニ一步ヲ讓ルモ收量多キハびくどりやナリ又レテすとおぶおーるノ如キハ縱令品質優良ナルモ收量著シク他種ニ劣ルヨリ察スレバ良種トシテ數フル能ハズ尙ホ試験ヲ繼續シテ判定セントス

蔬菜試驗成績第三報 終

終

